2013年　風来坊　　Country Walk

里歩き・山歩き・街歩き　2013

水行末　雲来末　風来末

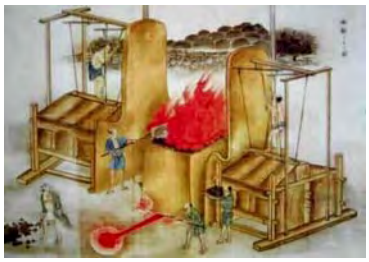
2014. 1. 1.

Mutsu Nakanishi Home Page より
http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/

念願の「縄文杉」 2013. 4. 14.

By　Mutsuo　Nakanishi

水行末　雲来末　風来末　和鉄の道 風来坊

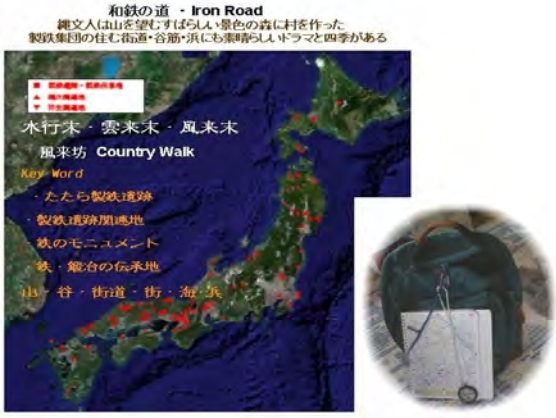


鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。

日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら 1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本を作ってきた。

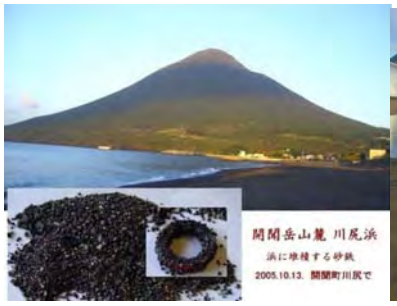
そんな今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。



人里は慣れた里山の谷筋や川筋・海岸など製鉄関連遺跡周辺には、生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマが、周りの美しい景色とともに埋もれ残り、日本の原風景といわれるすばらしい景色にも出会えます。

また、製鉄関連遺跡は日本各地 それこそどこにでもあり、好奇心を持って訪れば、すばらしい景色とともに数々の出会いがあるのも楽しみ。

そんな日本で繰り広げられたドラマ そして その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地を Country Walk しつつ集めています。



2013 風来坊　Country　Walk　　もくじ

山歩き・里歩き・街歩き

風来坊 Country Walk【12】　山歩き・里歩き・街歩き　2013

1. 【写真アルバム】　琵琶湖 野洲川河口　守山市なぎさ公園の菜の花畑に一足早い春を訪ねる　13walk01.pdf
なぎさ公園から眺める早春の琵琶湖・近江富士（三上山）・御上神社
2012.11.21.& 2013.2.11.　滋賀県守山市 & 野洲市

2. 屋久島縄文杉ハイクのためのトレーニングハイク　-早春の比叡山きらら坂・六甲周辺を歩く- 13walk02.pdf
   1. 京都雲母坂を比叡四明ヶ岳へ　2013.2.23.
   2. 布引谷から天狗道を摩耶山へ　2013.3.2.
   3. 菊水山から鍋蓋山　天王谷大吊橋　2013.3.5.
   4. 雌岡山・雄岡山早春の梅林ハイク　2013.3.16.
   5. 三宮から油こぶし道を六甲山へ　2013.3.17.
   6. 武田尾/宝塚　武庫川渓谷廃線歩き　2013.3.23.

3. WV 仲間との屋久島合宿 プライベート記録「私の屋久島」　2013.4.13.-4.16　13walk03.pdf

4. 屋久島縄文杉トレーニングハイク〔最終回〕
新緑の京都銀閣寺から大文字山越して大津・三井寺へ　2013.4.26.　13walk04.pdf

5. 重要伝統的建造物群保存地区橿原市今井　寺内町「今井」町並 Walk　2013.5.25.　13walk05.pdf

6. 須磨離宮庭園 の バラ　2013.5.28.　13walk06.pdf
青空から白雲へ　新緑の風に乗って　ほのかに漂うバラの香り

7. 初夏の尾瀬ケ原・尾瀬沼を歩く　初夏６月　尾瀬の草花　2013. 6.16.&6.17.　13walk07.pdf

8. ひまわりの夏　小野市ひまわりの丘公園&西播磨　佐用林崎ひまわり畑　2013.7.16.& 7.19.　13walk08.pdf
今年も一面を埋め尽す元気なひまわりの群れに出会えました

9. 2013 年夏　朝顔帳　From Kobe by Kikuko Nakanishi　2013.8.10.　13walk09.pdf

10. 旧尼崎城下「築地だんじり祭 Walk」　2013.9.16.　13walk10.pdf
   1.旧城下町築地と 尼崎とだんじり祭　outline
   2.尼崎&旧尼崎城下地図
   3. PDF 版 「築地だんじり祭 WALK　だんりがぶつかり合う「山あわせ」

11. ナッシュビル Bluegrass　Music ライブ　2013.10.2.　13walk11.pdf
大阪なんば ライブハウス「アナザー　ドーム」にて

12. 西神戸・東播磨の田園にに深まり行く秋を訪ねる　2013.10.　13walk12.pdf
   1.加古川東岸の山裾に広がる志方のコスモス畑 . 志方町高畑・広尾・野尻のコスモス畑
   2. 実りの秋の収穫　播州の秋のすばらしい景色　加古川西岸　志方町　& 上荘町で
   3. 小野市鴨池の秋　小野市鴨池
   4. 西神戸神出の田園地帯の夕暮れ　日没　神戸市西区神出
   5. グリーンスタジアム神戸　夏の終わりをつける花火ナイト　神戸市西区総合運動公園

13. 松山・宇和島から四万十グリーンライン・高知へ　13walk13.pdf
南四国の秋　一度やってみたかった 四国の列車を楽しむ　鉄ちゃんの旅
   1. 松山伊予鉄　美しいイルミネーション付路面電車　伊予電鉄　松山市街線
   2. 松山→宇和島　アンパンマン列車　特急 宇和海　JR 予讃線
   3. 宇和島→窪川　海洋堂ホビートレイン　JR 予土線・　土佐くろしお鉄道線
《シマントグリーンライン》
   - 狭い谷あいを蛇行して流れる清流　四万十川の秋景色
   - 四万十川に架かる沈下橋
   - 日本で一番暑い所　41℃を記録した四万十の里 江川崎
   4. 窪川→高知　特急 あしずり　JR 土讃線
   5. 高知土佐電鉄　はりまや橋　路面電車ダイヤモンドクロス　土佐電鉄高知市街線

1.

【写真アルバム】

琵琶湖 野洲川河口　守山市なぎさ公園の菜の花畑に一足早い春を訪ねる　2013.2.11.

なぎさ公園から眺める早春の琵琶湖・近江富士（三上山）・御上神社

野洲川河口の琵琶湖岸　守山市なぎさ公園　春はもうそこまで　雪の比良を背に一面まっ黄の菜の花畑　2013.2.11.

琵琶湖野洲川河口から　中央左手:近江富士（三上山）川向こう中央右手:金勝山と伊勢遺跡のある守山市・栗東市周辺

昨年 12 月　近江平野中央　東近江　野洲川の琵琶湖岸デルタに出現した卑弥呼が住んでいたとの説もある大集落「伊勢遺跡の見学に訪ねましたが、遺跡から垣間見える周囲の山々や琵琶湖・野洲川に思いをはせるも、実際に訪ねることが出来ませんでした。　この琵琶湖野洲川河口には菜の花畑があり、琵琶湖越しに見る比良の山々とあわせ、関西で一番先に春を伝える観光名所で何度か訪れたことがある。

この野洲川河口「守山市なぎさ公園の菜の花が満開になった」と聞いて、再度野洲川河口や野洲川デルタそして其の背後に聳える東近江のシンボル三上山山麓の御上神社・銅鐸博物館を訪ねました。

三上山は近江平野のどこからも其の秀麗な姿を遠望でき、「近江富士」とよばれる東近江のシンボルで、卑弥呼がいたといわれる伊勢遺跡からもすぐ近くに見晴らせ、伊勢遺跡そのものや祭殿もこの三上山を意識して集落があったと思っている。
この三上山の東北山麓　近江平野に突き出た丘大岩山から、この伊勢遺跡が栄えた同時代の弥生の後期に丁寧に埋納された 24 個の銅鐸が出土。　銅鐸を祭祀のシンボルとしてきた弥生時代の終焉そして古墳時代の始まり（鏡・鉄の時代）を見てきた地として。現在は伊其の地に銅鐸博物館が建ち、伊勢遺跡とも深い関係にある。

大岩山銅鐸
大岩山からは 1881 年に 14 個
1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。
この中には日本最大の銅鐸がある。

近江富士（三上山）（432m）
近江平野の中央野洲川の東岸の独立した円錐形の美しい山。山麓にご神体山とする御上神社や銅鐸博物館がある

伊勢遺跡　守山市伊勢町
卑弥呼がいたという楼閣・宮殿・祭殿がそろって出土した東近江　弥生後期の大集落

琵琶湖の向こうに雪の比良をバックに一面まっ黄色になった菜の花畑そして　何度か通ったことがあったのですが、あまり意識していなかった野洲川河口を見たくて　「琵琶湖に春を探しに行こう」と家内の運転で 2 月 11 日休日の朝神戸から栗東へ。　何度かでかけたことがあるので、道は大丈夫。でも　晴れてはいるのですが、東の空には雲。京都の北山や東山には雲がかかっている。「今日は比良が見えないかも・・・。　雪の比良をバックに菜の花畑が見たかったのに・・・・」と。　でも、宇治の山を越えて草津に入ると雲が切れてきて一安心。
神戸から 2 時間弱で近江富士を眺めながら栗東のインターを出て、今日は琵琶湖岸へまっしぐら。

この東近江　野洲川デルタに卑弥呼がいたという伊勢遺跡の時代をダブらせながらの「東近江　琵琶湖で見つけた一足早い春」の写真アルバムです。

- **野洲川河口の琵琶湖岸　守山市なぎさ公園　　雪の比良を背に一面まっき色の菜の花**
  雪の比良をバックにしたまっ黄色の菜の花畑もばっちり。
  また、菜の花満開の湖岸から見る琵琶湖には、エリ漁の仕掛けがみられました。
  エリ漁のしかけも年々減ってしまって見られないと聞いていたのでラッキーでした
- **野洲川河口　－ まだまだ寒い早春の琵琶湖 ＆　近江富士遠望の野洲川土手の風景 －**
- **近江富士 三上山山麓の 御上神社・銅鐸博物館を訪ねる**

1. 野洲川河口の琵琶湖岸　守山市なぎさ公園　2013.2.11.

雪の比良を背に一面まっき色の菜の花　　春はもう　そこまで

守山市の田園地帯を北西の琵琶湖大橋周辺の湖岸へ向かう　　琵琶湖大橋近く　国道 477 で

比叡・比良の山並の南側は雲の中　でも琵琶湖大橋に近づくにつれ、くっきりと

琵琶湖と反対側　南西側には菜の花畑の向こうに東近江のシンボル　近江富士　　2013.2.11.

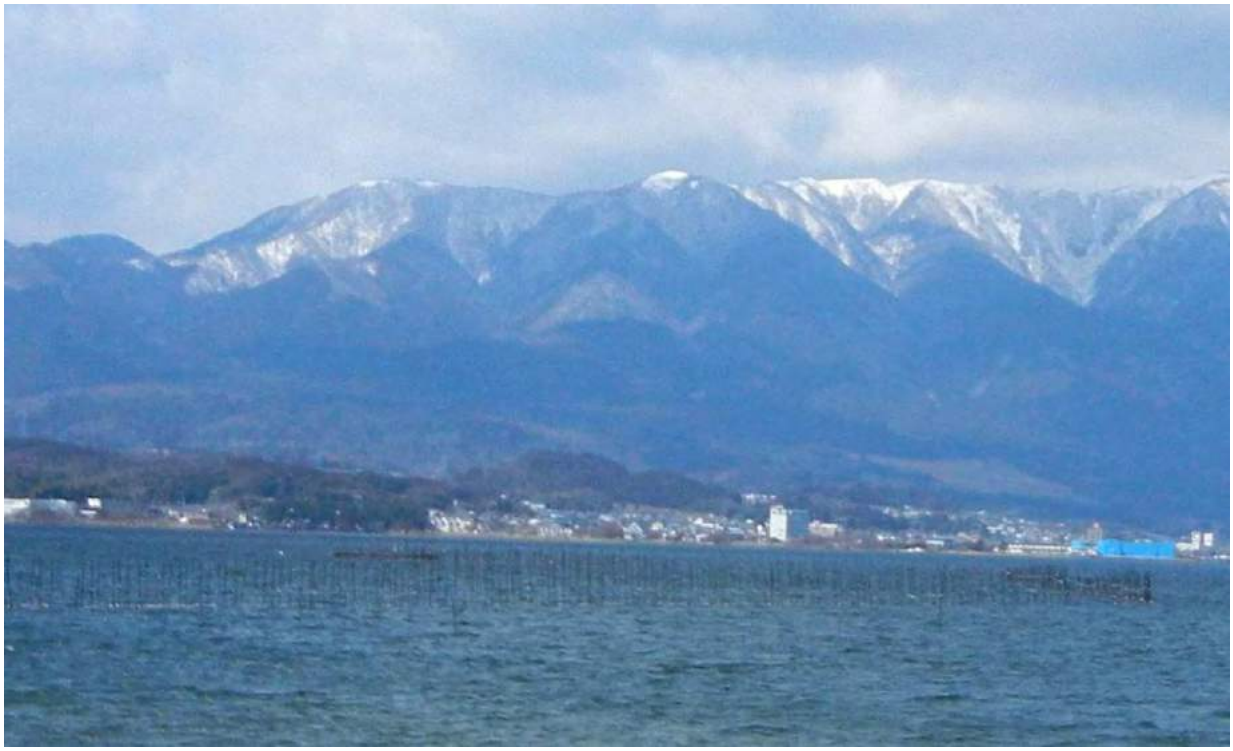
一面まっ黄色の菜の花　琵琶湖の向こうに雪の比良蓬莱山・打見山　ここだけはもう一足先に春　2013.2.11.

守山は琵琶湖エリ漁の発祥地　なぎさ公園沖にもエリ漁の仕掛け　　2013.2.11.

琵琶湖の湖面にはエリ漁の仕掛けの柵　早春は「鮎の稚魚・氷魚」のエリ漁の最盛期　2013.2.11.

えり漁は伝統的な琵琶湖の漁法で、定置網漁の一種で、魚が障害物にぶつかるとそれを移動する習性を利用し狭い囲いへ誘導する漁法です。漁具には、竹、ヨシ、杭などの自然の素材が利用される。

守山漁港はエリ漁発祥の地といわれ　体が透き通っているところから「氷魚（ひお）」と呼ばれて珍重される稚アユは、三月までが勝負だという



守山市なぎさ公園湖岸沖に仕掛けられたエリ漁の仕掛け　　2013.2.11.

湖岸道路の前方広い近江平野の田園の向こうに近江富士

防風林が続く湖岸道路の向こうに野洲川河口にかかる大橋

なぎさ公園から湖岸道路を東へ野洲川河口へ向かう　5 分ほど走れば　野洲川の河口にかかる中洲大橋

湖岸には琵琶湖を吹き渡る「比良おろし」の防風林が湖岸道路に沿って続く

2.　琵琶湖　野洲川の河口の風景

野洲川河口から川越しに遠望する東近江　守山・栗東　左手奥に近江富士　右手奥に金勝・信楽の山並

野洲川河口には船溜まりの掘割港

野洲川デルタの弥生・古墳時代の遺跡

野洲川河口の中洲大橋を渡り、野洲市側から遠望する野洲川土手の向こうが守山・栗東　2013.2.11.

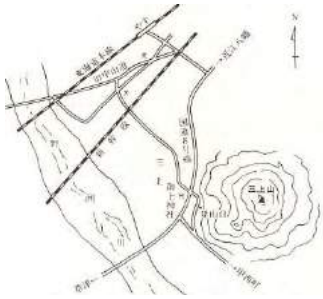
中洲大橋から眺めた琵琶湖対岸　2013.2.11.

果樹園が広がる野洲市側　　野洲川土手から遠望する近江平野　守山・栗東方面　2013.2.11.

琵琶湖冬　比良の山並から近江平野に吹き降ろす北西の季節風　比良おろし

早春の東近江の湖岸　まだまた　冷たい風も吹いていました

3.　近江富士「三上山」山麓に御上神社・銅鐸博物館を訪ねる



琵琶湖湖岸の野洲川河口から　田園地帯を東　三上山の麓　野洲の街へ

田園地帯の中の小さな森にこんな立派な兵主神社　鉄と関係の深い大国主命が祭神

渡来人・鉄と関係の深い近江　近江遷都の際に大和から移ってきたという

近江は大和の東 都祁 – 近江の南の柘植 琵琶湖を通じて若狭・大陸とつながる

兵主神は天日槍との関連が深いといい、近江は天日槍の後裔とされる息長氏の拠点

渡来人の繋がり　●磯城-山城-近江-越・若狭-出雲-新羅　●葛城-難波-吉備-筑紫-百済

野洲の市街地を走りぬける国道８号線を挟んで　三上山を御神体山とする御上神社前から見る三上山

近江平野のどこから見ても円錐形に見える独立峰の美しい山で近江富士ともよばれる近江のシンボル

俵藤太の百足退治の伝説を持つ山としても有名

この御上神社前からは近すぎて　隣の小山が重なって、遠くから眺める方が美しい

御上神社　三上山（標高 432m）の山麓に鎮座し、三上山を神体山として祀る近江一の古い社

祭神は 天之御影命 （あめのみかげのみこと）鍛冶の神である天目一箇神と同一神とされ、

ここにも鉄・大陸と関係の深い近江の姿が浮かび上がってくる

境内には国宝の本殿のほか、重要文化財の拝殿・楼門・摂社若宮本殿・狛犬が残っている

三上山を北側に回り込んだところが銅鐸出土地大岩山　その山際近くに銅鐸博物館が建っていた

大岩山からは 1881 年に 14 個　1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。この中には日本最大の銅鐸がある。

銅鐸博物館にはこの大岩山から出土した銅鐸の出土時の様子や銅鐸の時代の流れが展示されていました

4.　まとめ

まだ少し冷たい比良おろしが吹く野洲川河口の湖岸《守山なぎさ公園》には菜の花が咲き乱れ、一面まっ黄色。
コバルトブルーの大海が広がる湖面には　エリ漁のしかけ。そして対岸向こうには雪を戴いた蓬莱・打見山。
もう一足早い春。
ゆったりとした空間が流れて、これが東近江の春。
また、この琵琶湖岸の野洲川デルタには　弥生時代後期　宮殿・祭殿・望楼などの大型建造物が建ち並び、日本各地はては大陸からやってきた人達が交流する先進的な大集落「伊勢遺跡」があり、卑弥呼がいたという説もある。
その隆盛の源泉は琵琶湖・野洲川による人・物流と豊穣の近江平野か・・・
集落をとりかこむなだらかな自然の景色が穏やかな空気を漂わしていました。

弥生から古墳時代への移り変わりに先進的役割を果たした《伊勢遺跡》
遺跡が形成された野洲川が注ぎこむ湖岸はどんな場所だろうと興味津々での探訪。
遺跡のすぐ向こうにはシンボリックな近江富士が集落を見守り、集落を少し出ると大河野洲川デルタに広大な近江平野が広がり、其の先には野洲川河口と琵琶湖の覆う身となだらかな峰を連ねる山々が遠く遠巻きに平野を取り囲む肥沃の地。　豊かでおだやかな空気が満ちている。
交通の要衝にある肥沃の地が穏やかな気風の弥生の先進的大集落を生み、卑弥呼の邪馬台国・そして初期大和王権への道を切り開く先進的役割を果たしたのだろうと。
比良から吹き降ろす風にちょっぴり震えながらも、周りの景色を眺めながら　そんなことを考えていました。
また、見渡す琵琶湖　東近江はもう一足早く早い春の景色で一杯。
心地よい　琵琶湖・野洲川河口探訪に満足でした。

琵琶湖　野洲川の河口　守山なぎさ公園はもう一足早い春　菜の花が一面に

鈴鹿の山々が連なる南から北の琵琶湖へ近江平野の中央部を形成して流下る近江の母なる川　野洲川

大岩山銅鐸

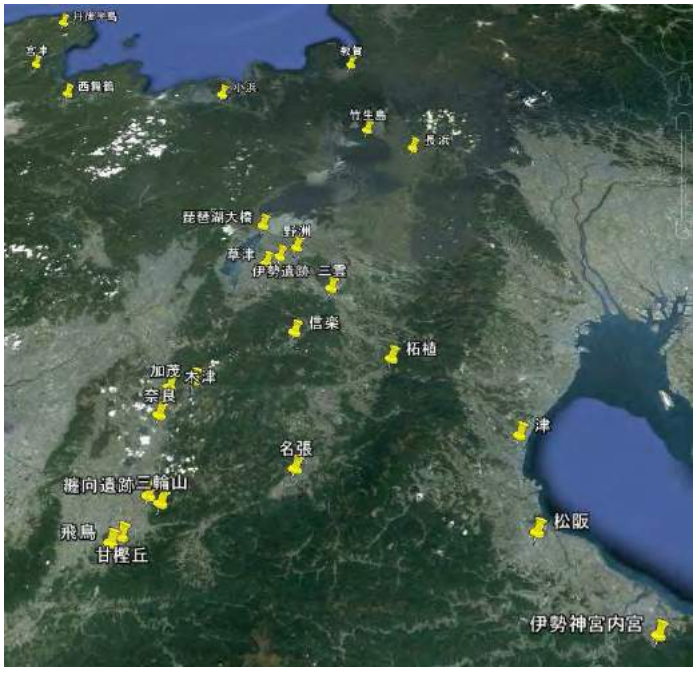
大岩山からは 1881 年に 14 個
1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。
この中には日本最大の銅鐸がある。

近江富士（三上山）（432m）

近江平野の中央野洲川の東岸の独立した円錐形の美しい山。山麓にご神体山とする御上神社や銅鐸博物館がある

伊勢遺跡　守山市伊勢町

卑弥呼がいたという楼閣・宮殿・祭殿がそろって出土した東近江　弥生後期の大集落



【参考】　**和鉄の道 2013**　「卑弥呼の邪馬台国」の候補地を訪ねる【1】

東近江野洲川南の湖岸近く　弥生後期の大集落「伊勢遺跡」を訪ねる　　2012. 11. 21.　&　2013. 2. 11.

魏志倭人伝に記述された《卑弥呼の居処には「宮殿」・「祭殿」・「楼閣」・「城柵」》すべてがそろう大集落

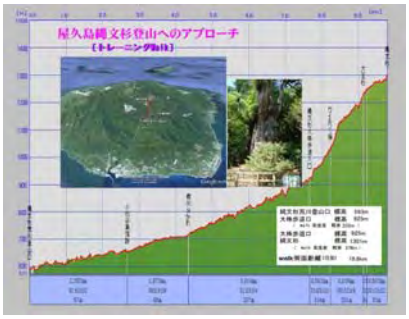
2013. 2. 20.　by Mutsu Nakanishi

屋来坊 2013

2.

2013.3 月　　屋久島 縄文杉ハイクのためのトレーニングハイク

早春の比叡山きらら坂・六甲周辺を歩く　2014.4.5.



《 屋久島 縄文杉ハイクのためのトレーニングハイク》

1.	京都雲母坂を比叡四明ヶ岳へ	2013.2.23.	2.	布引谷から天狗道を摩耶山へ	2013.3.2.
3.	菊水山から鍋蓋山　天王谷大吊橋	2013.3.5.	4.	雌岡山・雄岡山早春の梅林ハイク	2013.3.16.
5.	三宮から油こぶし道を六甲山へ	2013.3.17.	6.	武田尾/宝塚　武庫川渓谷廃線歩き	2013.3.23.

京都高野川から見る比叡山　2013.2.23.　雌岡山の梅林から眺める雄岡山 2013.3.16　神戸三宮から眺める布引谷と摩耶山　2013.3.2

大学時代の山仲間から、屋久島合宿をこの四月にやろうとの案内。　一度は是非とも見たかった念願の屋久島縄文杉ツアーに是非参加したいと。夫婦で参加して屋久島を歩く仲間も数組あると聞いて、家内も「是非　縄文杉をみたい」と。

縄文杉ツアーの行程を調べると、朝 5 時ごろ出発して、渓谷沿いの長いトロッコ道を歩いて、

そこから縄文杉まで登る。 高低差約 700m 往復 20km の長距離 Walk。

「今年は古希　70 にもなる」とも思うのですが、「やっぱり縄文杉まで行きたい」

「毎週六甲を歩いてトレーニング　縄文杉までの登りは根性　道は長いが行ける」と近くの知人に聞いてきた家内も俄然　張り切って、 この 3 月　好日山荘に通いながら六甲周辺の山を歩きました。

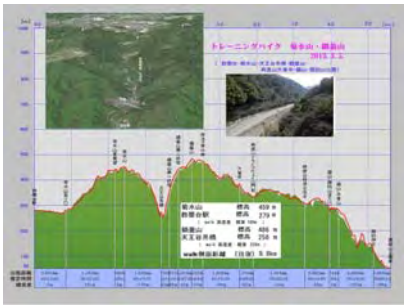
トレーニングもさることながら、早春の山や山里の景色は心地よい。 スタートに選んだ比叡きらら坂はまだ残雪が一杯の雪道　そして　梅の花が咲き、渓流のお供軽やかになって　桜の花もちらほら

もっとも、今年は霞が濃くて　稜線からの遠望がもうひとつ。

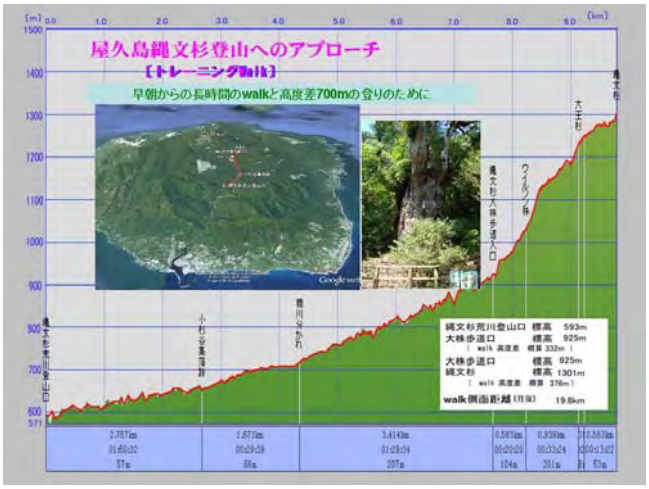
毎週のハイク　しんどいかなぁ・・・と思いましたが、気分爽快の早春ハイク。 花粉症も山に入ると忘れてしまって思いもよらぬうれしい役得。やっと　これだったら　縄文杉まで歩けるかなぁ・・と。

まあ　行き着けそうになかったら　途中でひきかえせば・・・と気楽に春の山歩きを続けています。

2 月末から 3 月まで　6 回のトレーニングハイクを PDF 写真アルバムにまとめました。

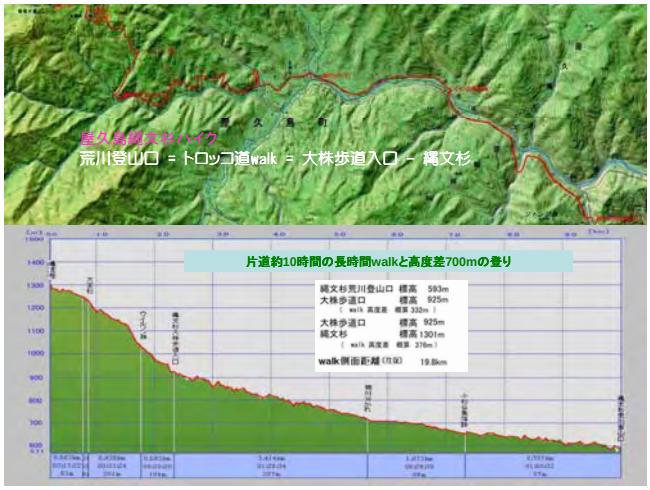


三宮から油こぶし道を六甲山へ　　. 武田尾/宝塚　武庫川渓谷沿い廃線歩き　菊水山から鍋蓋山へ　天王谷吊橋を渡る


屋久島縄文杉登山へのアプローチ
【トレーニングWalk】
早朝からの長時間のwalkと高度差700mの登りのために
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
（ walk 高度差 概算 332m ）
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
（ walk 高度差 概算 376m ）
walk側面距離（往復） 19.8km

1.
屋久島縄文杉ハイクに向けて
京都・比叡山 トレーニング ハイク
雲母坂から比叡山・四明嶽往復 2013.2.23.

京都 比叡山 2013. 2. 23.
雲母坂から四明嶽へ登る
比叡山 四明嶽 標高 838m
雲母坂 登り口 標高 158m
（ walk 高度差 概算 680m ）
walk側面距離 （往復） 9.2km


屋久島縄文杉ハイク
荒川登山口 = トロッコ道walk = 大株歩道入口 = 縄文杉
片道約10時間の長時間walkと高度差700mの登り
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
（ walk 高度差 概算 332m ）
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
（ walk 高度差 概算 376m ）
walk側面距離（往復） 19.8km

Google earth

一乗寺周辺から眺める四明嶽と雲母坂の尾根筋 2013.2.23.

高野橋から眺める比叡山 2013.2.23.朝

雲母坂　登り口　鷺森神社　京都市左京区修学院宮ノ脇町16

比叡山へ雲母坂の道筋　比叡山南西麓　東山に源を発する音羽川、一条寺川に挟まれた地にある閑静な森と美しい参道がある神社。今から約1100年あまり前の貞観年間に創建され、かつては修学院離宮の山林にあったという修学院離宮ゆかりの古社で、祭神は八坂神社と同じ素盞嗚尊素盞嗚尊。　比叡山麓七里修学院、山端一帯の氏神神社のひとつで、牛頭天王、また鬚咫天王（天皇）（しゅだてんのう）を祀り、（「拾遺都名所図会」）修学院村天王社、修学寺の天王とも呼ばれた歴史ある神社。
閑静な境内には、荘厳な本殿のほかに離宮にゆかりの石碑や幸橋があり、桜や楓、紅葉の美しい参道は散策に最適。

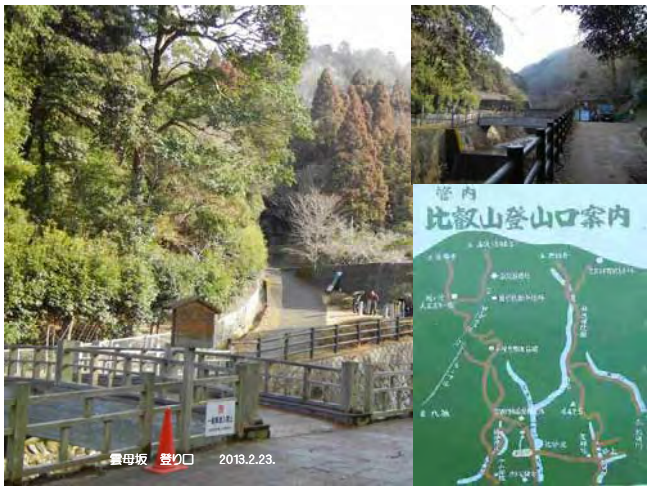
南側にある曼殊院の正面まで寄り道　2013.2.23.

鷺森神社から　東へ曼殊院横への坂を登ると左 - 雲母坂　右曼殊院のT字路

曼殊院の横から北へ森に入ると雲母坂の解説案内板があり、この森を抜けると 比叡山南麓を西へ流れ下ってくる小さな渓流　音羽川の岸に出て、川に沿って遊歩道が整備されている、

このすぐ東　上流側が雲母坂の登り口である

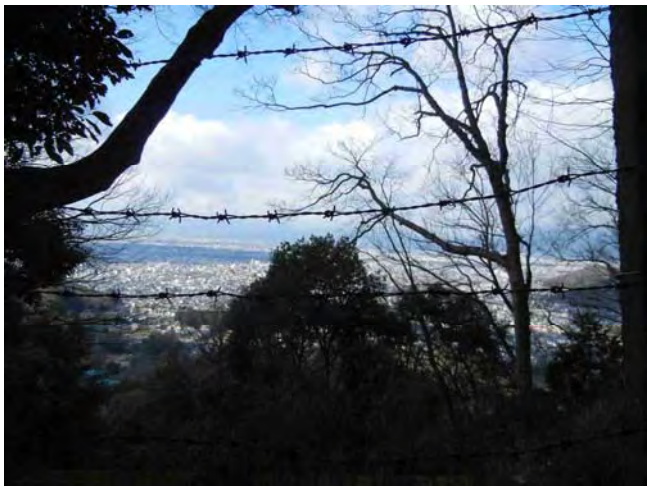
右　雲母坂　左　曼殊院のT字路　鷺森神社から登ってきた坂道角　2013.2.23.

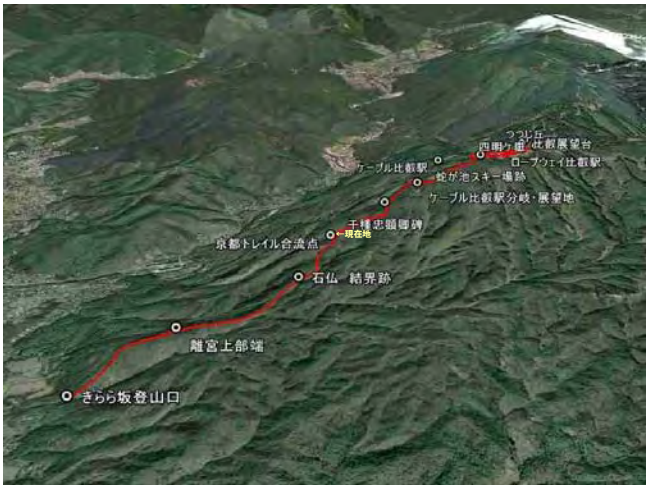


雲母坂　登り口　2013.2.23.

修学院離宮の南側の金網に沿って雲母坂が続く登り口　2013.2.23.

急登がつづく雲母坂　2013.2.23.

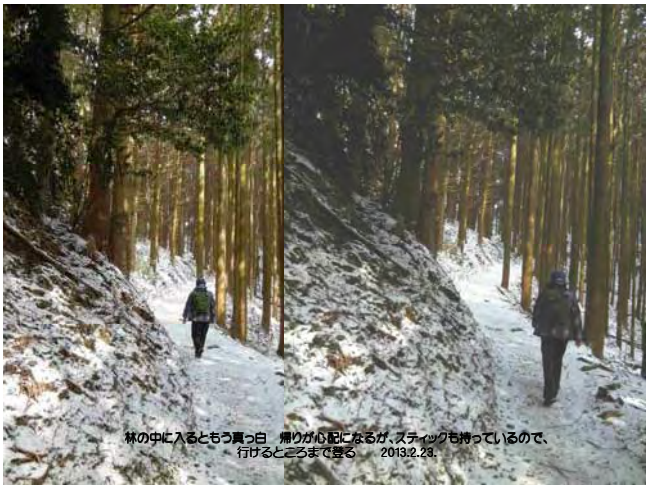




交流点周辺　送電鉄塔の横から眺める京都・宝ヶ池市街地が西側正面に眺められる　2013.2.23.

ここまで登ってくると数日前の寒さから、陽かげの部分に雪が残っている
京都トレイルとの合流点　2013.2.23.

思わぬ雪道　ラッキー　すべらぬよう雪の感触を楽しむ　2013.2.23.



林の中に入るともう真っ白　帰りが心配になるが、スティックも持っているので、
行けるところまで登る　　2013.2.23.

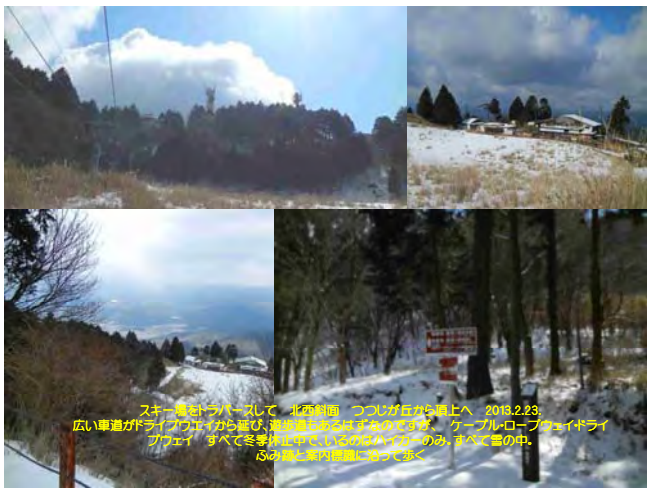
八瀬ケーブル比叡駅への分岐・展望台周辺の林の中　　2013.2.23.

更に雪が深くなった林の中　ロープウェイの乗降をくぐるとまもなく蛇池のスキー場跡　2013.2.23.

森を抜けると西に視界が開けた展望台　南西側に京都の市街地が一望　　2013.2.23.
中央を左から右へ鴨川　京都駅界隈から御所周辺まで　くっきりと遠望できました

蛇が池スキー場跡から　四明嶽の頂上部の展望台　右端にロープウェイ駅　2013.2.23.
この山の向こうは琵琶湖側・延暦寺がある

リフトが伸びる四明嶽の頂上部の展望台が見える　2013.2.23.



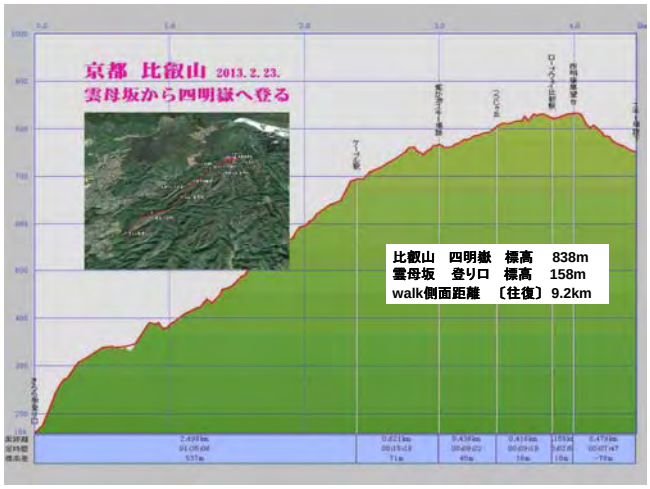
スキー場をトラバースして　北西斜面　つつじが丘から頂上へ　2013.2.23.
広い車道がドライブウェイから延び、道路表示はあるはずなのですが、　ケーブル・ロープウェイ・ドライブウェイ　すべて冬季休止中でいるのはハイカーのみ、すべて雪の中。
ふみ跡と案内標識に沿って歩く

つつじヶ丘から西側の展望　2012.2.23.

西側の展望　　八瀬の里　　山中に京都産業大？ の建物が見える　2013.2.23.

山上は雪に覆われ、公園の入り口は施錠され、戻って　琵琶湖側へまわりこまないと向こう側へは行けなかった　2013.2.23.

行楽シーズンには賑わう場所であるが、雪の中。　琵琶湖側の坂本ケーブル・ドライブ　ウエイのバスも休止とわかって、やっぱり、雪母坂を下りることにして、四明嶽頂上部へ　2013.2.23.

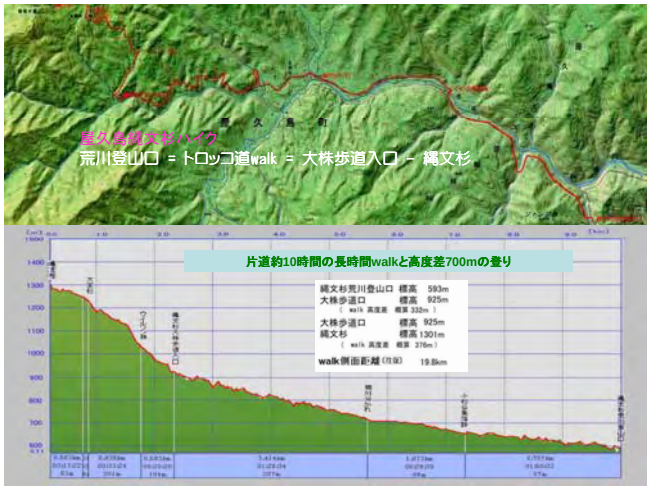


雪の降りも気になるので、ここで、今日はストップ。
スキー場の広場で昼食をして雲母坂を下る。

屋久島縄文杉登山へのアプローチ
{トレーニングWalk}
早朝からの長時間のwalkと高度差700mの登りのために
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
walk側面距離 19.8km

2.
屋久島縄文杉ハイクに向けて
トレーニング ハイク 布引谷から市原・天狗道を摩耶山へ 2013.3.2.

布引谷から市原・天狗道を摩耶山へ 帰路は青谷を下る 2013.3.2.
↓布引谷
↓ハーブ園
↓摩耶山
三宮から眺めた 六甲山並 布引谷・ハーブ園から摩耶山 2013.3.2.


屋久島縄文杉ハイク
荒川登山口 = トロッコ道walk = 大株歩道入口 – 縄文杉
片道約10時間の長時間walkと高度差700mの登り
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
walk側面距離 19.8km

555mピーク
布引ハーブ園
市原
布引堰堤
布引滝
新神戸駅
Google earth

摩耶山トレーニングWalk 2013. 3. 2.
新神戸→布引滝→市原→天狗道→摩耶山上→青谷道→青谷
摩耶山 標高 702m
新神戸布引口 標高 56m
walk側面距離 (往復) 9.1km
新神戸からのwalk距離 (Km)

立入禁止
布引谷 布引の滝「雌滝」 2013.3.2.

神戸市
中央区
灘区

布引谷　布引の滝「雄滝」　2013.3.2.

布引谷　布引の滝「雄滝」　2013.3.2.

布引谷　五本松堰堤　隠れ滝　2013.3.2.

夏には木陰になってよく見えぬこの角度の姿がよく見える　雄滝　2013.3.2.

布引谷
布引ダム　五本松堰堤
2013. 3. 2.

布引谷　五本松堰堤　隠れ滝　2013.3.2.

市原の崖にいた猪　2013.3.2.

布引ダム湖の奥　市原　2013.3.2.

市原　摩耶山天狗道入口　2013.3.2.

市原から摩耶山 天狗尾根を登る天狗道　幾つかのこぶと稲妻坂・ゴロゴロ坂の急坂が待構える

ハーブ園からの道と交流し、しばらく行くと
ごつごつと岩が頭を出した稲妻坂　2013.3.2.

天狗道での代替写真を転送時に消失したため
インターネットよりお借りしました
http://www.hyogo-kyoiku.jp/shizen/shizen/course_point/tenguen.html　などより

尾根筋道の谷の向こうにハーブ園が見え隠れする　2013.3.2.

天狗道での代替写真を転送時に消失したため
インターネットよりお借りしました
http://www.hyogo-kyoiku.jp/shizen/shizen/course_point/tenguen.html　などより

稲妻坂を越え　平坦な尾根筋を行くと555ピーク　右から学校道が合流する　2013.3.2.

天狗道での代替写真を転送時に消失したため
インターネットよりお借りしました
http://www.hyogo-kyoiku.jp/shizen/shizen/course_point/tenguen.html　などより

稲妻坂を越え　平坦な尾根筋を行くと555ピーク
右から学校道が合流する　2013.3.2.

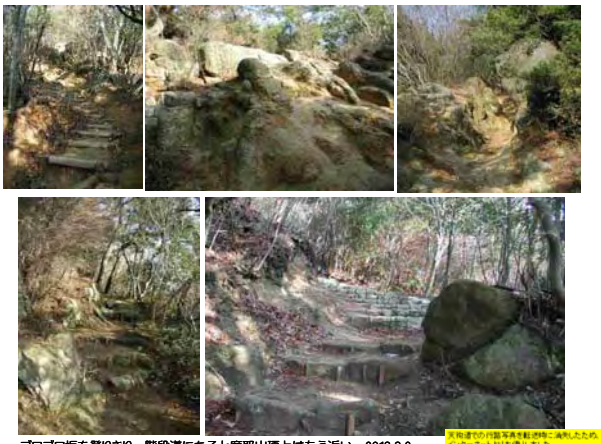
天狗道での代替写真を転送時に消失したため
インターネットよりお借りしました
http://www.hyogo-kyoiku.jp/shizen/shizen/course_point/tenguen.html　などより

天狗道での代替写真を転送時に消失したため
インターネットよりお借りしました
http://www.hyogo-kyoiku.jp/shizen/shizen/course_point/tenguen.html　などより

幾つかのこぶを越えてゆく尾根道　前方近くに摩耶山頂上がみえ、
鞍部のゴロゴロ坂入口へ下ってゆく

天狗道での代替写真を転送時に消失したため
インターネットよりお借りしました
http://www.hyogo-kyoiku.jp/shizen/shizen/course_point/tenguen.html　などより

天狗道での代替写真を転送時に消失したため、インターネットより参照しました
http://www.hyogo-kankyo.jp/nature/shizen/kaiyo/course_point/maya/maya-2.html などより



ゴロゴロ坂を登りきり　階段道になると摩耶山頂上はもう近い　2013.3.2.

天狗道での代替写真を転送時に消失したため、インターネットより参照しました
http://www.hyogo-kankyo.jp/nature/shizen/kaiyo/course_point/maya/maya-2.html などより

東北

←東　摩耶山上からの展望　2013.3.2.　南西→

南東側　神戸の市街地から六甲アイランド

北側　六甲山牧場から六甲山上

南西側　神戸の中心市街地と左奥ポートアイランド

摩耶山上からの展望　2013.3.2.

摩耶山山上　掬星台　2013.3.2.

掬星台殿の展望　摩耶山上　ロープウェイ駅と電波塔　2013.3.2.

↓錨山・市章山　城山↓　↓布引谷・ハーブ園　↓摩耶山　六甲山↓

神戸　三宮から眺めた六甲の山並　菊水山～六甲山　2013.3.5.

掬星台からの展望　神戸の東部市街地　神戸製鋼の向こうに　六甲アイランド遠望　2013.3.2.

掬星台からの展望　神戸の中心市街とポートアイランド　2013.3.2.

摩耶山頂上より　青谷道を下る
2013.3.2.

青谷道　行者茶屋周辺　2013.3.2.

青谷道　旧摩耶山天上寺の長い階段　2013.3.2.

青谷道　谷沿いを青谷へ下ってゆく　2013.3.2.

青谷道　谷沿いを青谷へ下ってゆく　2013.3.2.

青谷道の終わり　市街地の奥に海が見えてくる　2013.3.2.

青谷道　谷沿いを青谷へ下ってゆく　観光茶園が出てくるともう市街地　2013.3.2.

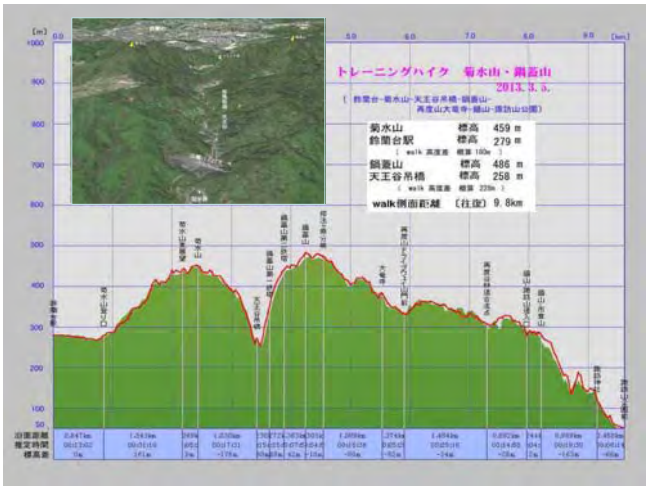
青谷道の出口の市街地の中にこんな馬頭観音がありました　2013.3.2.

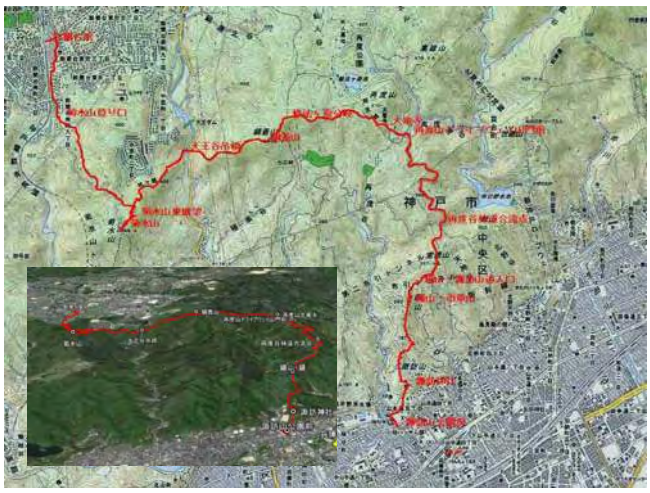
↓菊水山　鍋蓋山↓　再度山↓　↓布引谷・ハーブ園　↓摩耶山　六甲山↓

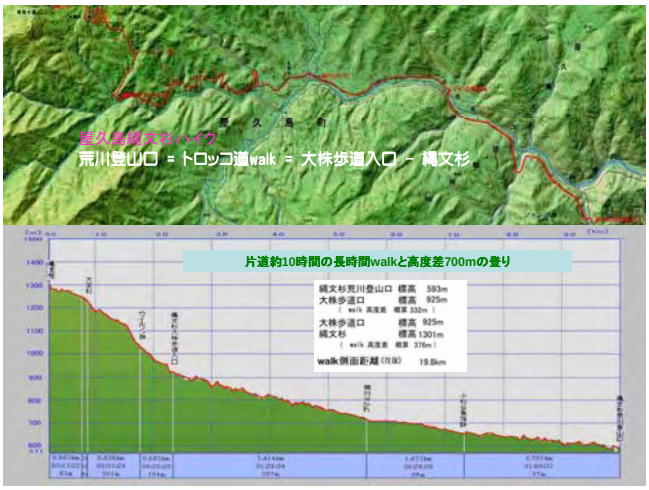
神戸　三宮から眺めた六甲の山並　菊水山～六甲山　2013.3.5.

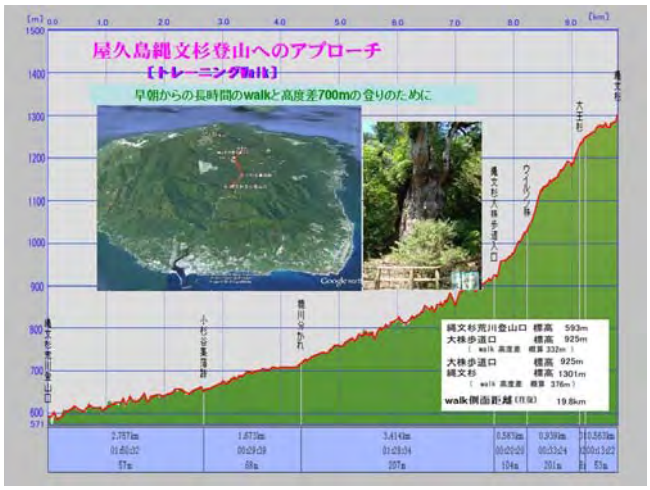
屋久島縄文杉ハイクに向けて
トレーニング　ハイク：菊水山から鍋蓋山・再度山を下る　2013. 3. 5.
菊水山　天王谷吊橋への大くだりから登り返しを経験する

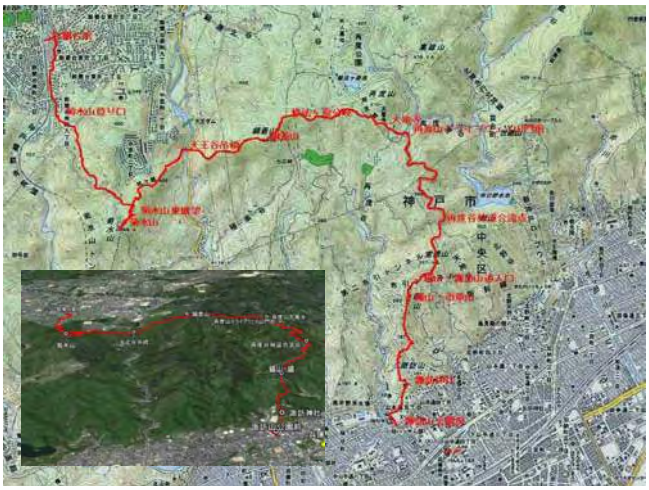
3.
菊水山
鍋蓋山　錨山
布引谷・ハーブ園
摩耶山
屋久島縄文杉ハイクに向けて
菊水山　天王谷吊橋への大くだりから登り返しを経験する


トレーニングハイク　菊水山・鍋蓋山
2013. 3. 5.
菊水山　標高　459 m
鈴蘭台駅　標高　279 m
鍋蓋山　標高　486 m
天王谷吊橋　標高　258 m
walk側面距離　（往復）9. 8km



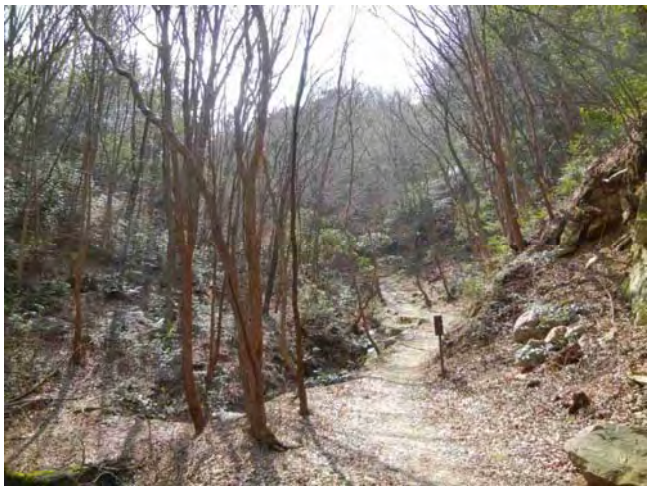

屋久島縄文杉ハイク
荒川登山口 = トロッコ道walk = 大株歩道入口 - 縄文杉
片道約10時間の長時間walkと高度差700mの登り
縄文杉荒川登山口　標高　593m
大株歩道口　標高　925m
大株歩道口　標高　925m
縄文杉　標高 1301m
walk側面距離（往復）　19.8km


屋久島縄文杉登山へのアプローチ
【トレーニングwalk】
早朝からの長時間のwalkと高度差700mの登りのために
縄文杉荒川登山口　標高　593m
大株歩道口　標高　925m
大株歩道口　標高　925m
縄文杉　標高 1301m
walk側面距離（往復）　19.8km



トレーニング　ハイク　菊水山から鍋蓋山・再度山を下る　2013. 3. 5.
菊水山　天王谷吊橋への大くだりから登り返しを経験する

NTTの敷地の中を行く鈴蘭台登り口　2013.3.5.



菊水山の頂上にある電波塔が見える　2013.3.5.

登り口と頂上の中間地点で点検道路をクロスする　北に北鈴蘭台の町が遠望　2013.3.5.

菊水山　山頂　　2013.3.5.

菊水山頂上部　北の丘展望台から東側の展望　2013.3.5.

春霞の中に浮かび上がる神戸の町並み遠望　2013.3.5.

空気の澄んだ青空の夏には　こんな風に神戸の市街地がみえるのですが‥‥

菊水山からの眺望　北西側の鈴蘭台の街遠望　2013.3.5.

南西側　丸山･高取山･横尾山･旗振山から明石海峡へと連なる六甲の西部連山　2013.3.5.

北へ向かう縦走路の右手　樹木の切れ目からはこれから向かう鍋蓋山の大きな山体が見える　2013.3.5.

菊水山から縦走路を天王谷吊橋へ

菊水山から北へ　鍋蓋山への縦走路　　鈴蘭台への道との分岐周辺　2013.3.5.

天王谷を菊水山側から鍋蓋山側へ渡る吊橋への菊水山大くだり 2013.3.5.

北へ 天王谷へと続く緩走路 この先から菊水山の大くだりが待ち構えている 2013.3.5.

天王谷を菊水山側から鍋蓋山側へ渡る吊橋への菊水山大くだり 2013.3.5.

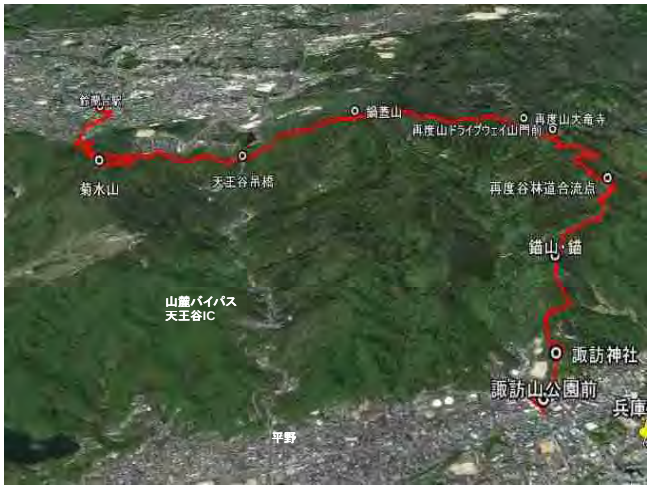
天王谷を菊水山側から鍋蓋山側へ渡る吊橋への菊水山大くだり 2013.3.5.
天王谷の谷底にある北鈴蘭台の街並み見えている

天王谷吊橋への菊水山大くだり 谷の中を北へまっすぐ走る有馬街道が見え隠れ 2013.3.5.

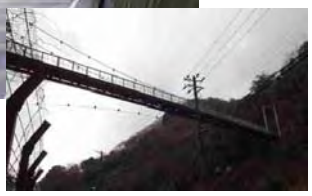
吊橋から直登する登山道が通る上下の送電塔が見える堂々とした鍋蓋山 201.3.3.5.

谷底がどんどん近づき、池の横を通過するとその先が吊橋 2013.3.5.

天王谷を菊水山側から鍋蓋山側へ渡る吊橋への菊水山大くだり 2013.3.5.



天王谷を渡る大吊橋 2013.3.5.



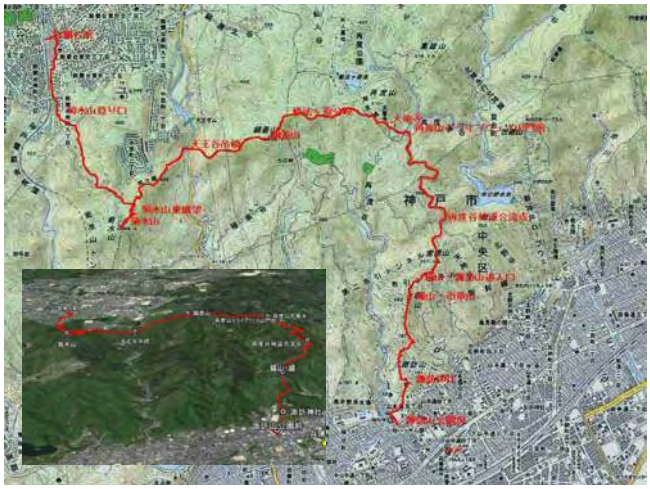
有馬街道から見上げる天王谷
吊　　橋

インターネットより採取

天王谷を渡る大吊橋 2013.3.5.

天王谷の中を南から北へ有馬街道が走る 2013.3.5.

吊橋の東端から鍋蓋山への直登の急坂が始まる　　2013.3.5.



鍋蓋山への縦走路　直登の急坂　　2013.3.5.

鍋蓋山への縦走路　直登の急坂が始まる　　2013.3.5.

急坂を抜けると視界が開ける鍋蓋山山腹下部を渡る送電鉄塔　2013.3.5.

鍋蓋山への縦走路　直登の急坂　　2013.3.5.

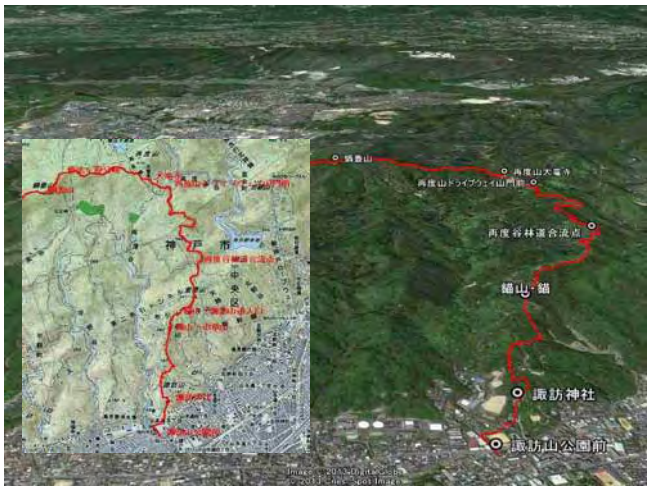
下部の鉄塔からは　また　樹林帯の中の登りが続く　　2013.3.5.

山腹下部の送電鉄塔からは西に菊水山がよく見える　2013.3.5.

樹間から天王谷ダムと北鈴蘭台の街並みがちらっと見える　2013.3.5.

鍋蓋山頂上広場から眺める神戸市街地　2013.3.5.

林の中の縦走路を大竜寺へ　2013.3.5.



縦走路　再度公園・修法ヶ原への分岐周辺　2013.3.5.

縦走路　再度越・修法ヶ原への分岐　2013.3.5.

縦走路　再度越・修法ヶ原への分岐周辺　2013.3.5.

再度山　大竜寺　2013.3.5.

再度林道合流点周辺から眺める菊水山・鍋蓋山　2013.3.5.

再度林道合流点周辺から　ドライブウェイ沿いの山道を歩く　2013.3.5.

大竜寺山門前から再度山ドライブウェイを錨山へ下る　2013.3.5.

錨山からの展望　2013.3.5.

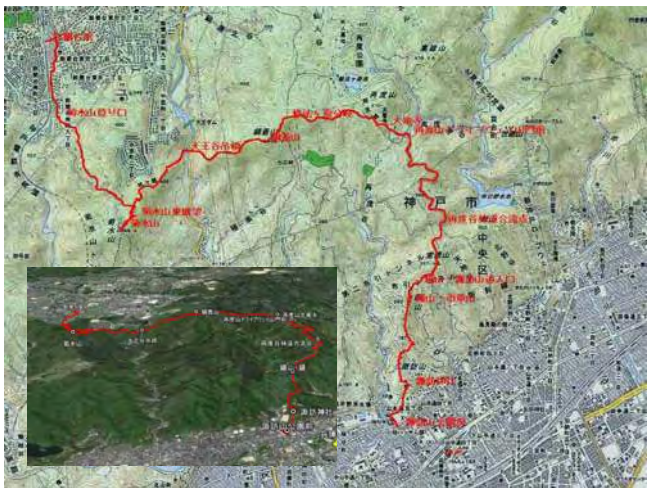
神戸のシンボルマーク　「錨」

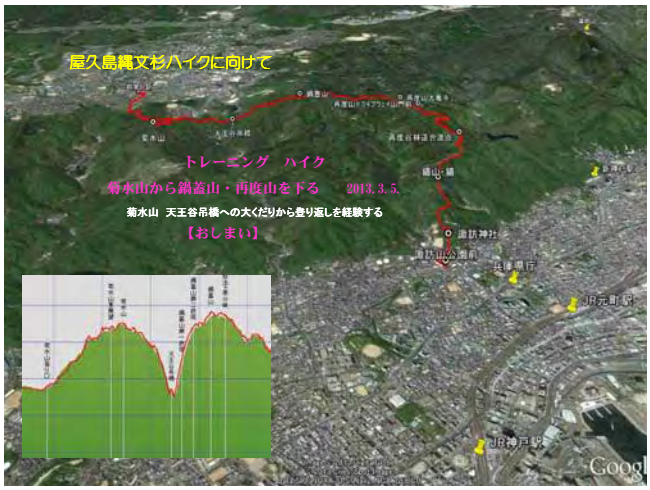
錨山から眺める神戸中心市街地　2013.3.5.

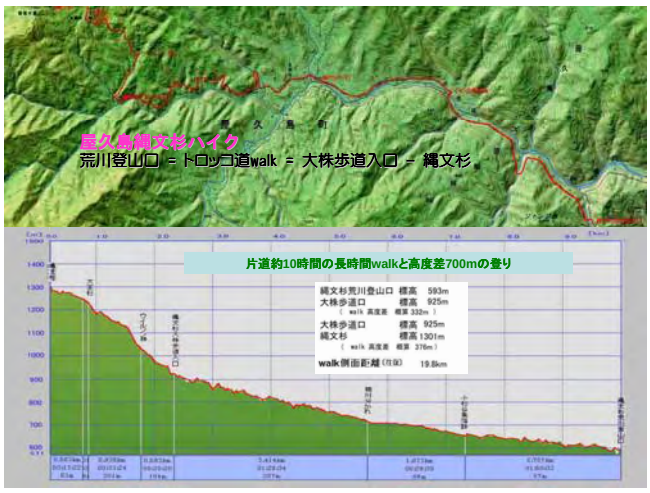
神戸のシンボルマーク　「錨」

諏訪山公園前　　2013.3.5.

鍋山から諏訪山を下ると山の麓に諏訪神社　2013.3.5.







雌岡山 北西山麓にある楽農センター・「かんでかんで」 2013.3.15.

雌岡山 北西山麓にある楽農センター・「かんでかんで」 2013.3.16.

「かんでかんで」の梅林の横を雌岡山へ登るハイキング路　2013.3.16.

雌岡山北西山麓　「かんでかんで」　2013.3.16.

雌岡山北西山麓　楽農センタ-「かんでかんで」の梅林　2013.3.16.

「かんでかんで」の梅林の横を雌岡山へ登るハイキング路　2013.3.16.

すぐ横の神出学園　雌岡山への散策路で　2013.3.16.

足元の草地には春の草花　2013.3.16.

梅林を抜けると雌岡山への散策路　2013.3.16.

山頂すぐ下の北西斜面にあるカタクリの群生地（養成）
カタクリはもう頭をだしているだろうか???　2013.3.16.

南の鳥居から山頂神出神社へと続く参道に出て山頂へ　2013.3.16.

カタクリはまだ土の下　でも今年も可憐な雪割り草が咲いていました

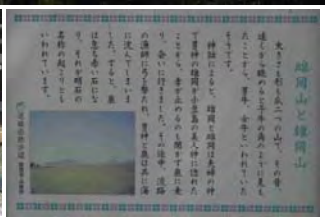
雪割り草　雌岡山で　2013.3.16.

雪割り草　雌岡山で　2013.3.16.

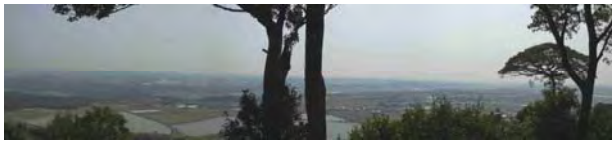
雌岡山山頂　神出神社　2013.3.16.

雌岡山山頂　神出神社　2013.3.16.

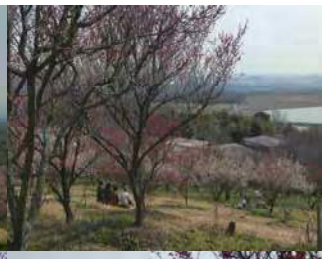
雌岡山頂上から遠望する雄岡山　2013.3.16.

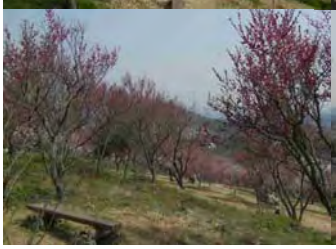


頂上から東へ下って行くと斜面には今満開の梅林　2013.3.16.



春霞の明石海峡　遠望　*正面奥　うっすらと淡路島がかすんでいる*　2013.3.16.





雌岡山梅林で　2013.3.16.

雌岡山梅林で　正面に雄岡山が見える　2013.3.16.

金槌池横　雌岡山東側からの登り口　2013.3.16.

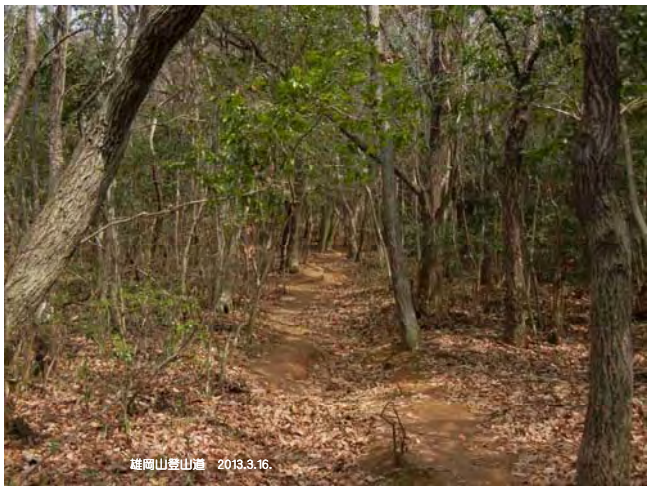
雌岡山梅林で　2013.3.16.

雄岡山登り口入口　2013.3.15.

金棒池の向こうに雄岡山　2013.3.16.

雄岡山登山道入口　2013.3.16.

雄岡山登山道　2013.3.16.


雄岡山登山道　2013.3.16.

雄岡山頂上　東側　明石海峡方面の展望がぱっと開ける　2013.3.16.

雄岡山登山道　2013.3.16.

雄岡山頂上　南から登ってきた道　　2013.3.16.

雄岡山頂上　東側　明石海峡方面の展望がぱっと開ける　　2013.3.16.

雄岡山頂上　北の三木市緑ヶ丘へ下る道　　2013.3.16.

雄岡山頂上の祠　　2013.3.16.

雄岡山の南東側には頂上から切れ落ちた水晶谷
この水晶谷では　かつて　水晶がいたる所で採取できたという
雄岡山では　古代はかにも数々の鉱物資源が採取されたといい
この地が栄えた源泉がこの鉱物資源だったのかも知れぬ
この水晶谷が合わさるのは明石谷　鷲鉄の民　奈良忍海族の展開地であることもうなづける

雄 岡 山 頂上　　2013.3.16.

雄岡山の南東側　頂上から切れ落ちた水晶谷 ロープのあるくだり道 2013.3.16.

雄岡山の南東側　頂上から切れ落ちた水晶谷 ロープのあるくだり道 2013.3.16.

雄岡山の南東側　頂上から切れ落ちた水晶谷　2013.3.16.

雄岡山の南東側　頂上から切れ落ちた水晶谷　2013.3.16.

雄岡山-雌岡山の山麓を楽農センターへ戻る

雄岡山頂上からもと来た道を引き返し、山裾を雌岡山　神出神社鳥居前へ　2013.3.16.

雌岡山山中で　こんな赤い土もみつけました　2013.3.16.

雌岡山山頂　神出神社参道　鳥居前　2013.3.16.

雄岡山　神出神社鳥居前へ　山裾を巡る道で　2013.3.16.

楽農センター「かんでかんで」入口から見る雌岡山　2013.3.16.

楽農センター学習農場から見る雌岡山　2013.3.16.

楽農センター学習農場から見る雌岡山　2013.3.16.

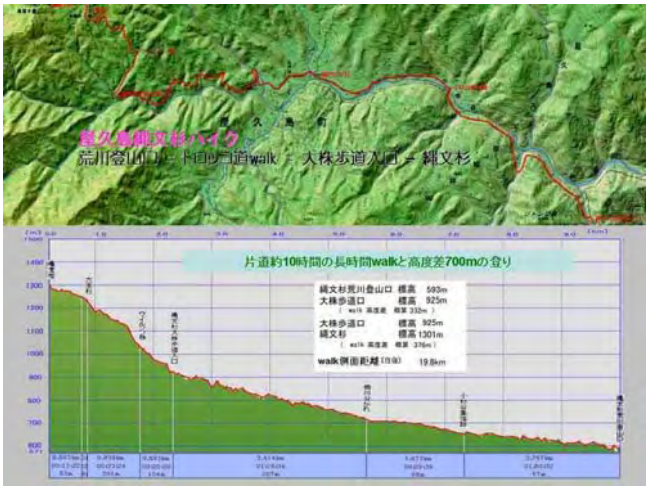
早春の西神戸 雌岡山・雄岡山を歩く
2013.3.16.
神出 楽農センター　標高　127m
雌岡山　標高　249m
雄岡山　標高　241m
walk側面距離　7.1km

広野ゴルフ場
神出町古神
雌岡山
雄岡山

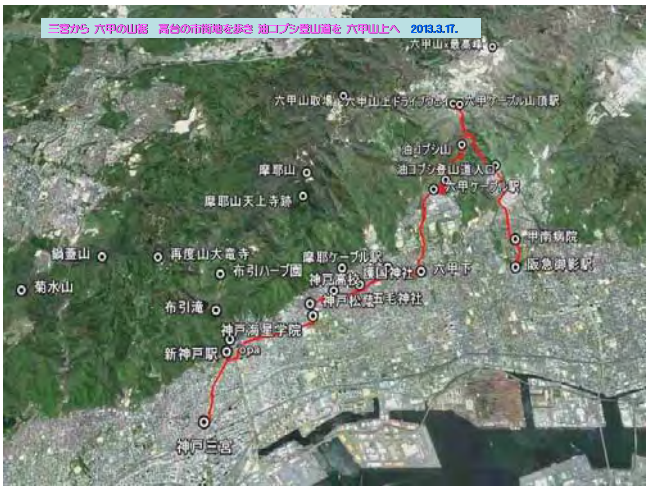
雌岡山
雄岡山
縄文杉トレーニングハイク
早春の西神戸 雌岡山・雄岡山を歩く　2013.3.16.
新しく購入したザックや靴など と 教えてもらった アドバイス　チェック
《　おしまい　》

三宮→六甲ケーブル駅へ　市街地を歩いて 油コブシ道を六甲山上へ
六甲の山裾に沿う神戸の高台を歩いて　長時間walk後の山登りを経験する
屋久島縄文杉登山へのアプローチ
【トレーニングWalk】

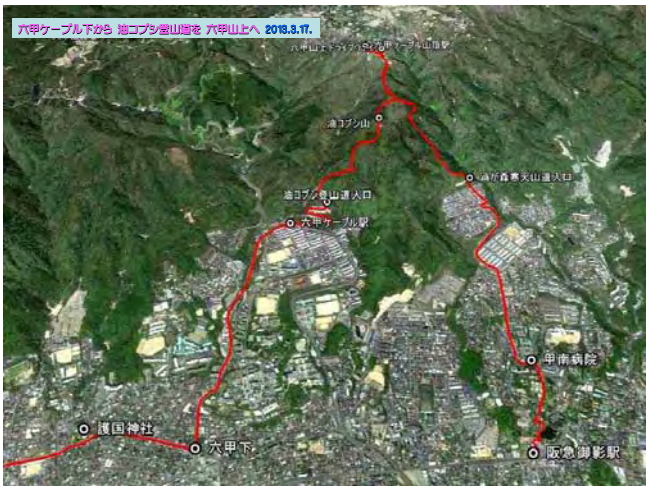
5.
屋久島縄文杉　トレーニングハイク
三宮から 油コブシ登山道を 六甲山上へ　2013.3.17.

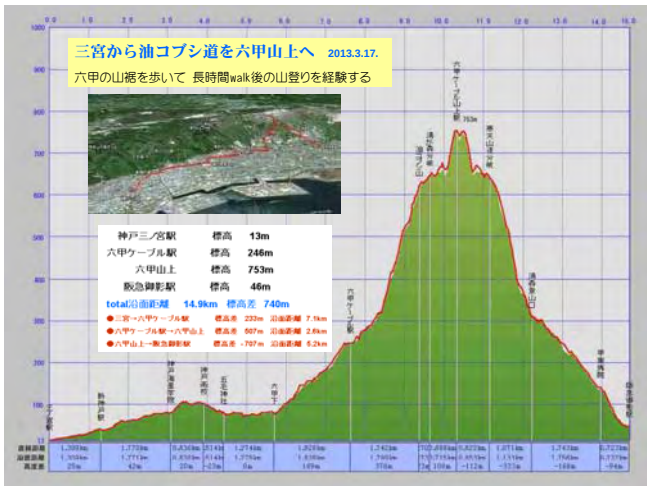

屋久島縄文杉ハイク
荒川登山口～トロッコ道walk　大株歩道入口～縄文杉
片道約10時間の長時間walkと高度差700mの登り
縄文杉荒川登山口　標高　593m
大株歩道口　標高　925m
大株歩道口　標高　925m
縄文杉　標高　1301m
walk側面距離(往復)　19.8km

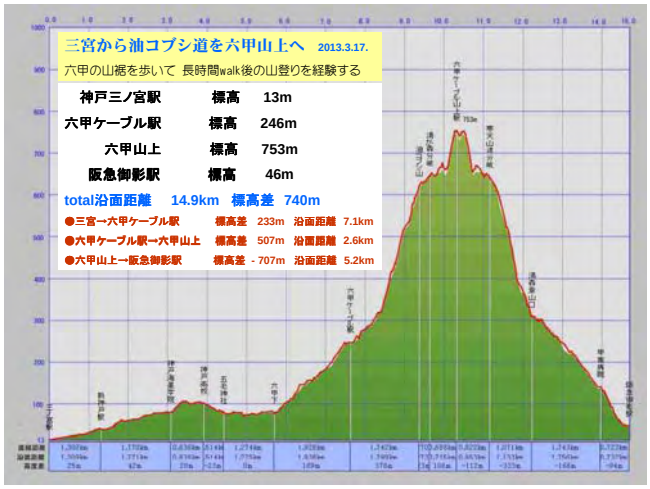
屋久島縄文杉登山へのアプローチ
【トレーニングWalk】
早朝からの長時間のwalkと高度差700mの登りのために
縄文杉荒川登山口　標高　593m
大株歩道口　標高　925m
大株歩道口　標高　925m
縄文杉　標高　1301m
walk側面距離(往復)　19.8km


三宮から 六甲の山裾　高台の市街地を歩き 油コブシ登山道を 六甲山上へ　2013.3.17.
六甲山上
六甲山頂駅
油コブシ山
油コブシ登山道入口
六甲ケーブル駅
摩耶山
摩耶山天上寺跡
甲南病院
阪急御影駅
再度山大龍寺
布引ハーブ園
摩耶ケーブル駅
護国神社
六甲下
菊水山
布引滝
神戸松蔭女子学院
新神戸駅
神戸三宮

三宮から 油コブシ登山道を 六甲山上へ　2013.3.17.
六甲の山裾を歩いて　長時間walk後の山登りを経験する


六甲ケーブル下から 油コブシ登山道を 六甲山上へ 2013.3.17.
油コブシ山
油コブシ登山道入口
六甲ケーブル駅
甲南病院
護国神社
六甲下
阪急御影駅


三宮から油コブシ道を六甲山上へ　2013.3.17.
六甲の山裾を歩いて　長時間walk後の山登りを経験する
神戸三/宮駅　標高　13m
六甲ケーブル駅　標高　246m
六甲山上　標高　753m
阪急御影駅　標高　46m
total沿面距離　14.9km　標高差　740m



新神戸駅前 布引谷から生田川が流れ出る 空にはハーブ園へ向かうゴンドラ 2013.3.17.

三宮から 六甲ケーブル駅まで 六甲の山裾 高台の街を 東へ

三宮→ 新神戸→《阪急六甲行のバス道（熊内・青谷・篠原・六甲下（六甲登山口））》→ 鵯甲・六甲ケーブル駅へ

三宮から六甲ケーブル駅のすぐ横から始まる「油コブシ六甲登山道」へ約7km 六甲の山裾に広がる高台の市街地を東へ走る「阪急六甲行」のバス道を歩く。 この道筋は山裾の高台に広がる市街地を横つも谷筋を渡って東へ延びる道で、クロスして一気に海岸部へ延びる坂道や谷川が幾つもつながっている「坂の町神戸」を象徴する道のひとつでもある。
また、この道筋には 数多くの高校や大学が建ち並ぶ神戸山手の《学園ロード》でもある。

三宮・新神戸から六甲連山の山裾 高台に広がる町並みの中を 左に摩耶山など連なる山々を眺め、右手に海を遠望しながら、なだらかな坂をつないで東へ延びる大通り。そして、六甲下（六甲登山口）の十字路から、北へ神大キャンパスから鵯甲団地への急坂を登って六甲ケーブル駅横の油コブシ登山道に至る。
神戸の住民は誰しも良く知っている道なのですが、考えてみると一気に三宮から六甲ケーブル駅まで歩いたことは一度もない。

また、この高台は 縄文・弥生の時代から数多くの人々が住みついた地で、 谷筋を溯り、六甲の山を越えてゆく数多くの道があり、青山道・杣谷道・徳川道・寒天山道などの名前が残り、今もハイキング道として整備されている

神戸高校前 校舎の東奥に摩耶山が見えている

新神戸から緩やかな坂道が神戸高校の前から下りとなり五毛神社前へ 2013.3.17.

新神戸から丘の上を走る野崎通りのバス道を歩く 青谷周辺 2013.3.17.

雨が降ると激流となって流れ下る神戸の川の典型
摩耶山と長峰山の間の谷をまっすぐ流れ下り、すぐ下で 六甲川と合流して石屋川になる杣谷川
また、この周辺は縄文・弥生時代と早くから集落が開けた地である 2013.3.17.

五毛神社 2013.3.17.

すぐ隣の護国神社前からは境内の後ろに袖谷が見えている　2013.3.17.

袖谷川のすぐ横には「徳川道」の案内板　2013.3.17.

六甲川を渡ると　もうすぐに六甲下（六甲登山口）の十字路　2013.3.17.

この六甲川の奥に六甲ケーブル駅　これから登ってゆく油コブシ山が見え、
山の肩のところに頭をのぞかせているのが、六甲山上　六甲ケーブル頂上駅か??

境内に入ると社殿の西奥に摩耶山が見えている　2013.3.17.

六甲登山口から鶴甲・六甲ケーブル駅へと北へ延びる坂道　2013.3.17.

市街地が広がっているが、（六甲登山口）の名前が示すとおり、ここはもう山の中腹
鶴甲・六甲ケーブル駅へは山へ登る急な坂道がつづく。　もう山歩きの一部である

六甲下（六甲登山口）交差点　2013.3.17.

この交差点を左へ曲がって　急坂を登って行けば登山口である

炭山橋　奥に谷筋を登ってゆく表六甲ドライブウエイの橋がみえ、
右の山は油コブシ山が見えている　登り口はもうすぐそこ　2013.3.17.

神大キャンパス横から眺める鶴甲・六甲ケーブル駅への坂道　2013.3.17.

六甲川にかかる橋を左に渡ると松陰大伯母野山　2013.3.17.

ふりかえると坂道の遠く向こうに海がありました　炭山橋周辺より　2013.3.17.

こんな急斜面の谷筋に建ち並ぶマンション　中央にエスカレーターが延びている　2013.3.17.

六甲ケーブル駅　2013.3.17.

六甲ケーブル駅　2013.3.17.

坂道を登り、建ち並ぶ老人ホームの横を抜けたところに油コブシ登山道の入口がある

ケーブル駅前の六甲有料道路の橋を潜り抜け、右へ坂道を登ると油コブシの登山道に至る　2013.3.17.

空に見える送電鉄塔に向かって登ってゆく 2013.3.17.

雑木林の中を登ってゆくとまもなく空を行く送電線と鉄塔が見えてくる 2013.3.17.

油こぶし山の南側テラス状広場から南側の眺め　2013.3.17.

油こぶし山の南側テラス状広場

油こぶし山の南側テラス状広場の北側　頂上への道

鉄塔を二つくぐり、桃木林の中を更に登ると視界が開け、油こぶし山の下の広場に出る
登り続けてきたので、ほっと一息である　2013.3.17.

油こぶし山頂から北へ下ったところで、渦が森からの寒天山道道と合流　2013.3.17.

油こぶし山頂上は林の中　視界が開けない　2013.3.17.
ここまで来るともうキツイ登りはなく　六甲山上はもうすぐである

樹間からは　六甲山上の稜線が見え隠れ　頂上は近い　2013.3.17.

六甲山上のドライブウエイへ　ぱっと視界が開ける　2013.3.17.

六甲山上からの展望《2》　六甲アイランド　　2013.3.17.

六甲山上からの展望《1》　ポートアイランド　　2013.3.17.

寒天山道から眺める油こぶしの鉄塔　　2013.3.17.

油こぶし登山道と寒天山道の分岐　　2013.3.17.

寒天山道　渦が森登山口周辺　　2013.3.17.

渦が森へ下る寒天山道で　2013.3.17.

寒天山道　渦が森登山口・住吉神社奥宮
2013.3.17.

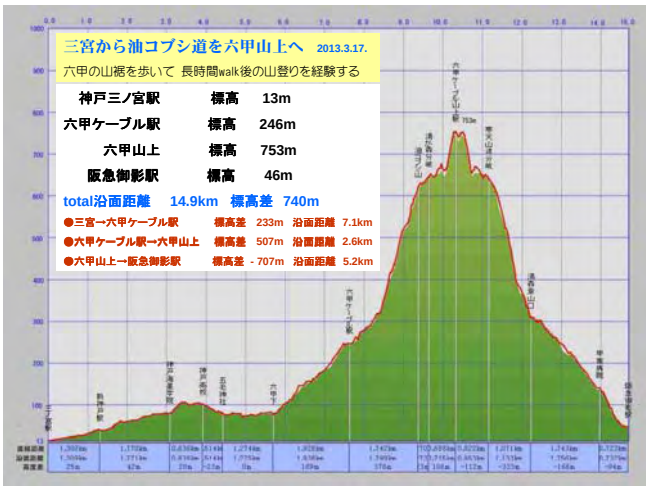
谷を挟んで東側　住吉台　そして住吉谷の奥に住吉霊園が見えている　2013.3.17.

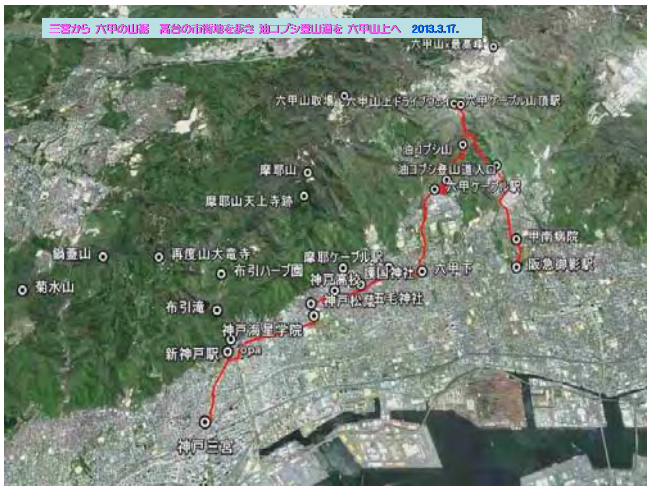
阪急御影駅　2013.3.17.

● 六甲山上→阪急御影駅
標高差 -707m　沿面距離 5.2km

神戸三ノ宮駅	標高	13m
六甲ケーブル駅	標高	246m
六甲山上	標高	753m
阪急御影駅	標高	46m
total沿面距離	14.9km	標高差 740m

渦が森の登山口に降りましたが、まだ山の中腹　市街地のきつい急坂を阪急御影駅へ　2013.3.17.

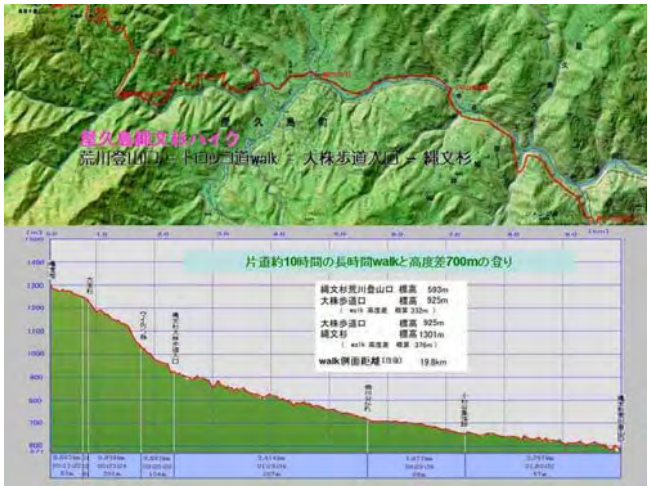




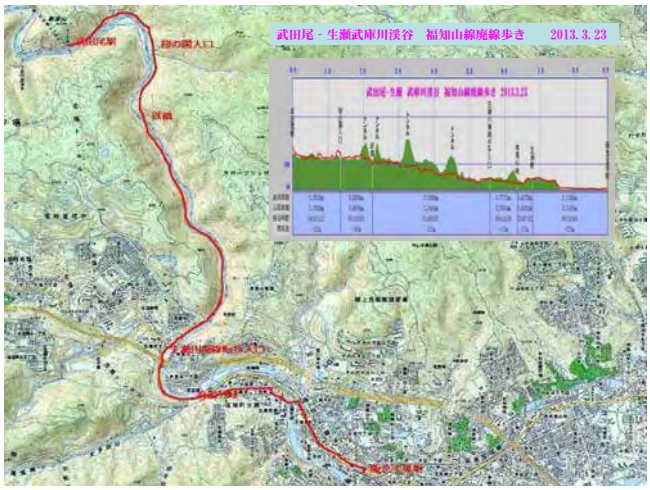
屋久島縄文杉登山へのアプローチ
【トレーニングWalk】
早朝からの長時間のwalkと高度差700mの登りのために
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
walk側面距離 19.8km

6.
屋久島縄文杉トレーニングハイク
武田尾 - 生瀬武庫川渓谷　福知山線廃線歩き　2013. 3. 23
阪急宝塚駅

武田尾 - 生瀬武庫川渓谷　福知山線廃線歩き　2013. 3. 23


屋久島縄文杉ハイク
荒川登山口→白ッ二道walk → 大株歩道入口 → 縄文杉
片道約10時間の長時間walkと高度差700mの登り
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
walk側面距離 19.8km

武田尾
JR福知山線　武田尾駅　2013.3.23.


武田尾 - 生瀬武庫川渓谷　福知山線廃線歩き　2013. 3. 23

廃線歩き武田尾入口　2013.3.23.

JR福知山線　武田尾駅　2013.3.23.

福知山線　武庫川渓谷　廃線歩き武田尾入口　　2013.3.23.

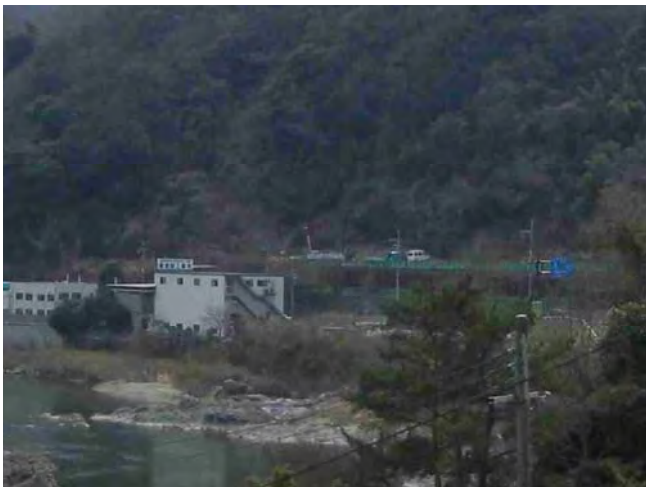
振り向いた上流　武田尾駅側の眺め　2013.3.23.

廃線歩き　スタート　桜はまだですが、武庫川渓谷の景色と流の音が心地と良い　2013.3.23.

武田尾側　一番目のトンネル　2013.3.23.

渓谷沿いに数ヶ所トンネルと鉄橋歩きがあり、ヘッドランプか懐中電灯が必要。
小さな子供たちも多く行き違いましたが、みんな手馴れたもので　懐中電灯を首からぶら下げていました

正面に六甲の山並・住宅地が見えてくると廃線歩きもほぼ終わり　塩瀬の集落は近い　　2013.3.23.

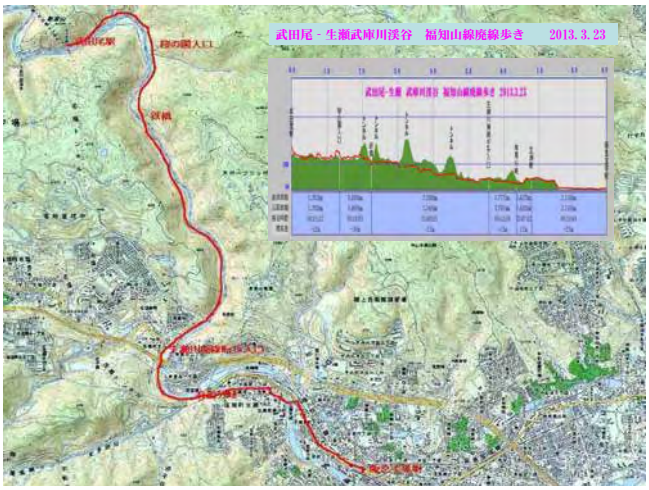


廃線歩き生瀬側入口を出て　生瀬へ向かう　　2013.3.23.

よく整備されたて廃線歩きが楽しめるこのコースであるが、JR西日本の私有地の中をあるく、未公認のコース　入口の標識も案内板もないのが難点　生瀬側入口は聞いて行かないと難しい

生瀬の駅前から生瀬大橋を渡って宝塚駅へ

有馬への分岐を過ぎ、川の左手に中山が見え出すとまもなく生瀬駅　阪急で帰るので、そのまま生瀬駅を通りすごし、宝塚駅まで歩く　　2013.3.23.



Walkの終着点宝塚駅　国道176号線の 左JR 右阪急宝塚駅

阪急宝塚駅

3. 私の屋久島　学生時代のWV仲と40数年ぶり4日間の合宿

私の屋久島　学生時代のWV仲間と40数年ぶり　4日間の屋久島合宿
2013.4.13. － 2013.4.16.
By Mutsuo Nakanishi

屋久島合宿スケジュール

企画からセット・実行まで　すべて吉岡ご夫妻の世話になりました

◆ **4.13.　尾之間　四季の宿に集結**

吉岡ご夫妻の出迎えを受けて、屋久島空港到着後
到着時間に応じて、それぞれ、吉岡夫妻の案内で、
ヤクスギランド・千尋の滝・吉岡邸などを見学

◎　夕方、尾之間　四季の宿に集結
宿で吉岡ご夫妻セットによるパーティ

◆ **4.14.　3組に別れ、「屋久杉」を訪ねる**

1.　「大株歩道・縄文杉」を訪ねる
2.　屋久杉・こけの幻想的な「白谷雲水峡」
3.　屋久杉の森「屋久杉ランド」

宿は尾之間　　ホテル　いわさき に移動
夕方　吉岡ご夫妻・一日遅れで到着した
渡辺夫妻を含め、ホテルで全員で会食

◆ **4.15.　照葉樹の森　西部林道ほか見学**

夕方　吉岡邸に招いていただき　祝宴

・巨樹半日ガジュマルと照葉樹の森
・「大川の滝」＆海岸から世界遺産の森林垂直分布
・粟生　さんご礁の海岸

夕方　吉岡邸に招いていただき　うれしい祝宴

◆ **4.16.　朝　それぞれ帰路に**

縄文杉など巨木の森が島を覆うなんとも不思議な島「屋久島」

2013.4.13.-4.16.

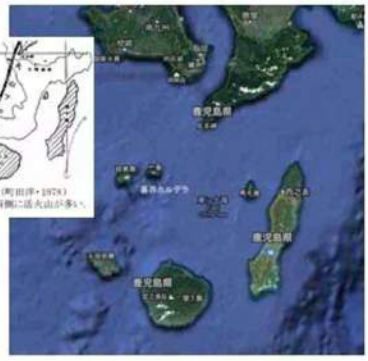
屋久島の自然の中で　かつてのWV仲間と過ごした素晴らしい嬉しい4日間

屋久島は海岸から急峻な山が連なり、ほぼ円形の島の形を造り、島全体を深い縄文の森が覆う。
しかも、それらの山々の山体は花崗岩質の一枚岩だという。
一方、すぐ東隣の種子島はどこまでも平坦で細長い島。海岸には花崗岩質の岩が砕かれて、
流れ出たと考えられる砂鉄が大量に砂浜に堆積するのが、屋久島では見られないと聞く。
屋久島周辺の海では、温暖な海で発生した水蒸気が、この屋久島の急峻な山々にぶつかり、
「1ケ月に35日・1年間に7000mmを越える大量の雨を降らせ、屋久島独特の生態系と「縄文杉」を
初めとする樹1000年を越す郁くれだった巨木の「屋久杉」原生林の森や海岸近くの照葉樹の森
など島の大半を覆う森を育てたと言う。　なんとも不思議な島である。

是非　訪れたかった屋久島・見たかった縄文杉。
そんな屋久島に学生時代のWV仲間がログハウスの別部を自作建設。
「完成を記念しての屋久島合宿をやろう」との案内に飛びついて、すぐ参加と。
ほかの仲間も夫婦で参加すると聞いて、うちもしたいと。
世話になる吉岡夫妻そしてお嫁さん一家もふくめて、約20名の大イベントに。
みんな本当に久し振り　10数年・20年ぶりの仲間もいる。
吉岡さんご一家挙げてのホスト役　スケジュール・宿・食事・ガイドそして交通などなど
厳密な実行計画にすまないなぁと思いつつも　心浮き浮き。
屋久島空港に降り立った時点から　はや学生時代の仲間モードに。

多くの仲間に出会い・語らい、そして　それぞれ思い思いの屋久杉ツアーへ
最終日には　参加者全員で出かけた照葉樹の原生林「西部林道」WALK
そして　吉岡邸に招いていただき、暮れ行く空を眺めながら、車座にみんな座って酒を
酌み交わす。　40数年前の思い出がふつふつと・・・・・。

屋久島の自然の中ですごした4日間は　忘れられぬ思い出の旅になりました。
吉岡さんご夫妻・ご一家の皆さん　一緒に過ごした仲間たち　本当に有り難う。



ツアーガイド堀江氏から聞いた縄文杉と九州全体の動植物を絶滅させ、日本列島を灰
で覆ったアカホヤ火山の関係。この屋久島のすぐ北の薩摩硫黄島周辺は約7000年前のアカホヤ
海底火山噴火の火口（鬼界カルデラ）だとはっと気づいた。

屋久島の成り立ちや鉱物にも興味津々。　屋久島の不思議にも惹かれそうである。
好奇心一杯の風来坊　「ひとつでも　この不思議な島『屋久島の謎』」に出会まろう」と。

2013.4.18.　By Nutsuo Nakanishi

私にとっての屋久島

是非行きたかった「屋久島」　是非出会いたい縄文杉

でも　屋久島についてはほとんど予備知識なし

1. 樹齢1000年を越える巨樹が林立する屋久杉の森・縄文の森に是非出会いたい。
   世界遺産の屋久島の森とはどんな森なのだろうか・・・・
2. 屋久島にはその山岳には南限の植物　照葉樹林には北限の植物が数多くあるという。この壁のような山岳の不思議
   屋久島では「1ケ月に35日雨が降る。 晴れから急変の豪雨へ」　そんな気象にも出会いたい。
3. 約7300年前に大噴火し、全体に火山灰を降らし、九州に居た早期縄文人をはじめ、多くの動植物はその行き場を
   失ったという。 このアカホヤ海底火山の大噴火口（鬼界カルデラ）はこの屋久島のすぐ北西側の口之永良部島周辺
   縄文杉はこの苦難の影響を受けたのだろうか・・・・・・
   また、あの精巧な磨き石器を持って南の海からやってきたという縄文人はどこへいったのか・・・・
   そんな痕跡を縄文の森とともに見られるだろうか・・・・
4. 屋久島と種子島　隣りあうのに形も地質も大きく異なる。 司馬遼太郎「南蛮の道」に紹介された砂鉄の島「種子島」
   一方　屋久島には砂鉄はないと聞く。 又、私の「和鉄の道」は開聞の浜の砂で止まっている。
   それが今回の旅で種子島・屋久島まで延びる。
5. 今回の屋久杉walkには、島のガイドさんについてもらう。 はじめてガイドさん付の山歩き　楽しみ。

   屋久島のガイドさんをインターネットで調べていて、数多くのガイドさんが屋久島の自然にほれ込んでやって来た外の人で，島での生活を維持するため、ガイドで生計を立てているようだ。 若い人が多く、小規模なグループがガイド協会に属して活動　そのコミュニティにも興味津々

かつてのWV仲間との屋久島合宿
なつかしさと期待が膨らむ好奇心一杯の風来坊です

私の屋久島　学生時代のWV仲間と40数年ぶり　4日間の屋久島合宿

2013.4.13. － 2013.4.16.

1. **4月13日　屋久島へ**　伊丹空港から屋久島空港へ
2. **屋久杉の森　「屋久杉ランド」へ**
3. **4月14日　念願の「縄文杉」へ**　朝3時30分起き 往復22Km の長時間walk
4. **4月15日　モッチョム岳の山麓　尾之間の朝**
5. **照葉樹の森　西部林道の散策**
   北から南まで日本列島すっぽりの垂直分布が見られる原生林を歩く
6. **4月16日朝　宮之浦行のバスで帰路に**
7. **楽しかった合宿を振り返って**

【参考】屋久島の自然・景観の理解のために　インターネット検索より

1.屋久島の概要
2.屋久島の地形と地質の成り立ち
3.屋久島の地質
4.屋久島の平地部（海岸段丘）
5.屋久島　世界遺産の森
《樹齢1000年を越える「屋久杉」》《屋久島の森　森林垂直分布》

屋久島合宿スケジュール

企画からセット・実行まで　すべて吉岡ご夫妻の世話になりました

◆ **4.13.　尾之間　四季の宿に集結**
吉岡ご夫妻の出迎えを受けて、屋久島空港到着後
到着時間に応じて、それぞれ、吉岡夫妻の案内で、
ヤクスギランド・千尋の滝・吉岡邸などを見学

◎ 夕方、尾之間　四季の宿に集結
宿で吉岡ご夫妻セットによるパーティ

◆ **4.14.　3組に別れ、「屋久杉」を訪ねる**

1. 「大株歩道・縄文杉」を訪ねる
2. 屋久杉・こけの幻想的な「白谷雲水峡」
3. 屋久杉の森「屋久杉ランド」

宿は尾之間　ホテル いわさき に移動
夕方　吉岡ご夫妻・一日遅れで到着した
波辺夫妻を含め、ホテルで全員で会食

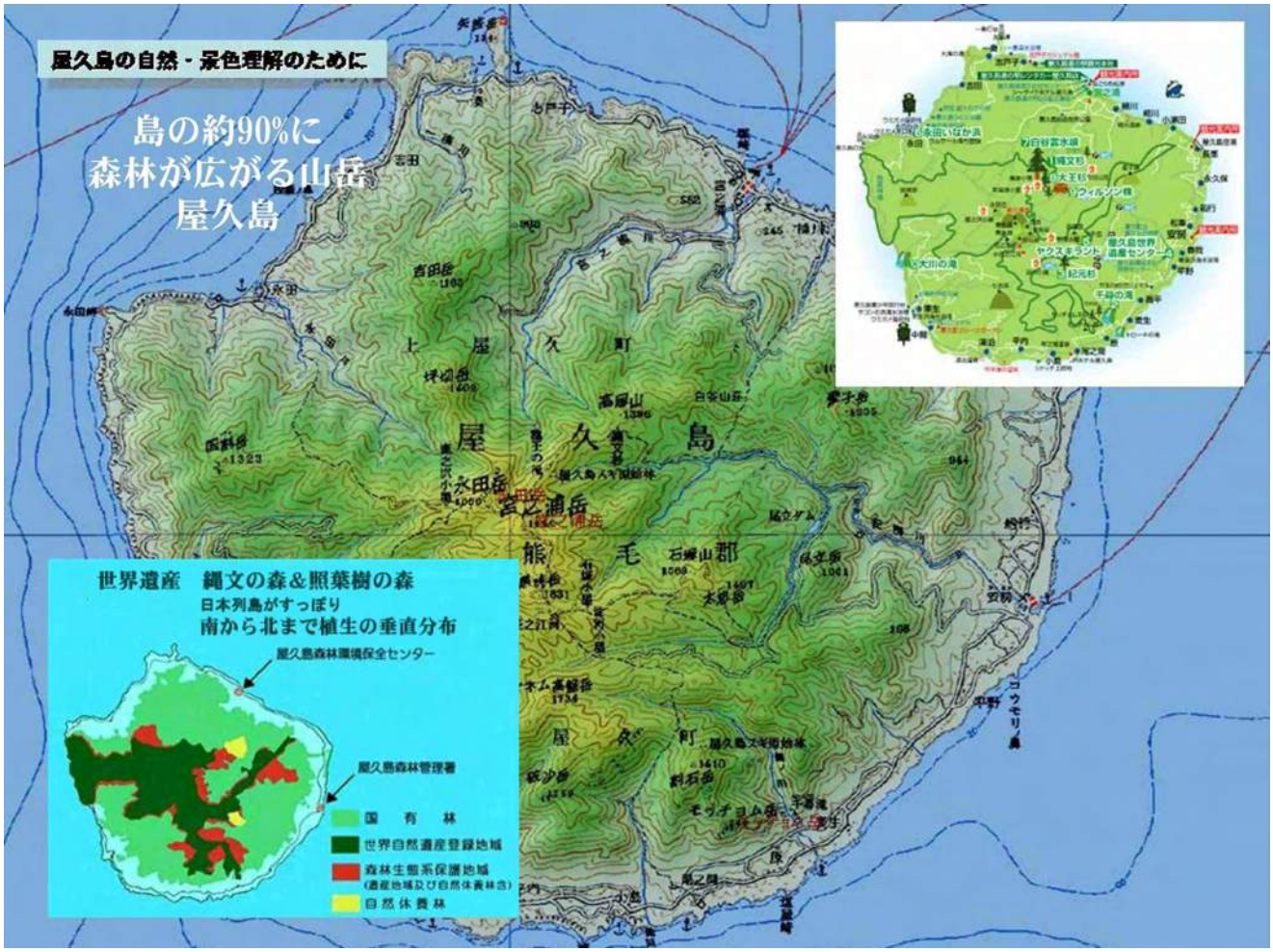
◆ **4.15.　照葉樹の森　西部林道ほか見学**

夕方　吉岡邸に招いていただき　祝宴

・巨樹半日ガジュマルと照葉樹の森
・「大川の滝」&海岸から世界遺産の森林垂直分布
・栗生　さんご礁の海岸

夕方　吉岡邸に招いていただき　うれしい祝宴

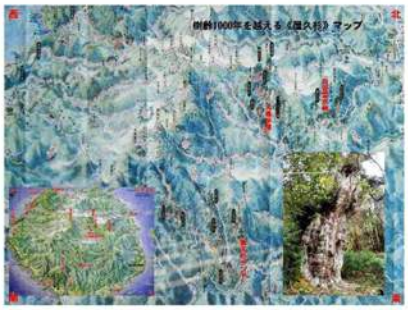
◆ **4.16.　朝　それぞれ帰路に**



1. 屋久島へ　伊丹空港から屋久島空港へ　2013.4.13.

4月13日早朝　淡路島南部を震源とする震度5の大きな地震。 飛び起きましたが、幸いにして　神戸では大きな被害なく、ほっとする。
電車は一部徐行運転しているものの空港へのアクセスOK。
野口さんとも空港で合流できましたが、和歌山からの角田夫妻はこの屋久島直行便には乗れず。

飛行機は例のロンバルディア　大きなプロペラがついている。 まあ　何度も乗っているが、大丈夫か・・・
問題は山用のステッキ。 やっぱり機内持ち込めず預けて出発。 安定した飛行で　四国を横断し、更に種子島を横断して、約1時間半で屋久島へ



伊丹空港を出発から約1時間半　四国を南へ横断して、大海原に出てまもなく、種子島をまっすぐ横断するとそのまま屋久島。

種子島の南の先端部を横断　　左手広い砂浜の向こうの岬に「種子島宇宙センター 」や　鉄砲伝来の地「門倉岬」がうっすら霞んで見える。

飛行機はどんどん高度を下げ、屋久島の山へ向かって飛ぶ
今クロスした種子島には本当に平らで、山らしき山が見えなかったが、
屋久島は海岸部から聳える山と森が立ちはだかり、
ほんの少し、海岸部に山を取り巻く幅の狭い平地が見える。
でも　田園はほとんどみえないなぁ・・・・

「これが　屋久島なんだ」と窓から見える景色の変化にへばりつく

屋久島空港着陸前　飛行機から眺めた屋久島　2013. 4. 13.

大阪から1時間半ほど　種子島を横切るとすぐそそり立つ山と森の島軍師も空港に到着

吉岡夫妻や先に到着組の武居・山口・長瀬各氏の出迎えを受け、うれしい屋久島の第一歩

次の鹿児島便で到着する仲間を迎えてくれる吉岡夫妻に荷物を預け、山口氏運転のレンタカーで屋久杉ランドなどに立寄ってから尾之間の宿へ。

屋久島　第1日目　2013.4.13.

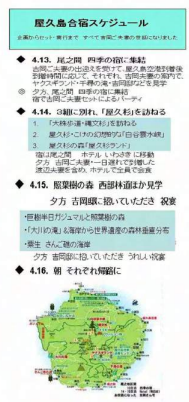
◆ 屋久島空港到着後　山口さんの運転で
《屋久杉ランド・千尋滝見学》
夕方　宿泊する尾之間『四季の宿』へ
◆ 夜　尾之間『四季の宿』で
《バーベキューで懇親パーティー》

吉岡ご夫妻の心くばりのスケジュールアレンジに世話になりつつ、第一日目のスタート。

私の屋久島　学生時代のWV仲間と40数年ぶり　4日間の屋久島合宿
2013.4.13. – 2013.4.16.

1. 4月13日　屋久島へ　伊丹空港から屋久島空港へ
2. 屋久杉の森　「屋久杉ランド」へ
3. 4月14日　念願の「縄文杉」へ　朝3時30分起き 往復22Km の長時間walk
4. 4月15日　モッチョム岳の山麓　尾之間の朝
5. 照葉樹の森　西部林道の散策
北から南まで日本列島すっぽりの垂直分布が見られる原生林を歩く
6. 4月16日朝　宮之浦行のバスで帰路に
7. 楽しかった合宿を振り返って

【参考】屋久島の自然・景観の理解のために　インターネット検索より
1.屋久島の概要
2.屋久島の地形と地質の成り立ち
3.屋久島の地質
4.屋久島の平地部(海岸段丘)
5.屋久島　世界遺産の森
《樹齢1000年を越える「屋久杉」》《屋久島の森　森林垂直分布》



2.

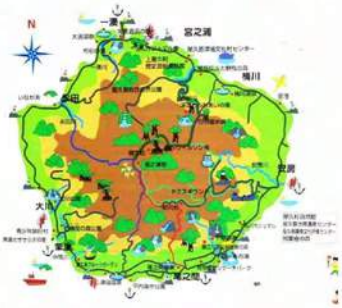
空港から集合の西海岸尾之間へ行く途中
東京組先行の山口さんたちと

屋久杉の森「屋久杉ランド」へ

屋久島　第1日目　2013.4.13.

- ◆ 屋久島空港到着後 山口さんの運転で
  《屋久杉ランド・千尋滝見学》
  夕方 宿泊する尾之間『四季の宿』へ
- ◆ 夜 尾之間『四季の宿』で
  《バーベキューで懇親パーティー》

吉岡ご夫妻の心くばりのスケジュールアレンジに世話になりつつ、第一日目のスタート。



屋久杉ランドの入口で　2013. 4. 13.

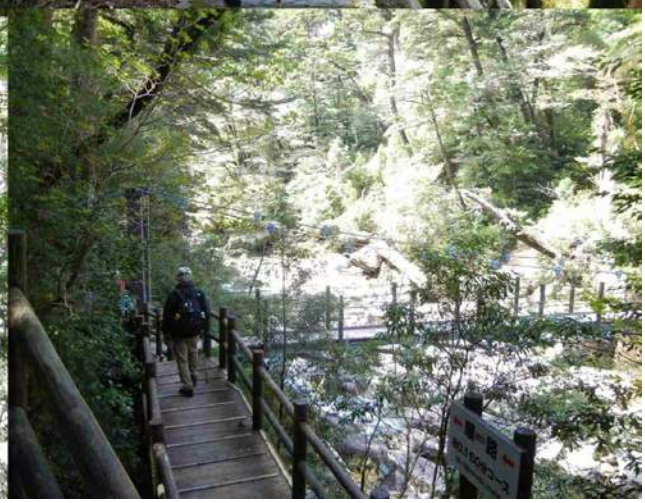
屋久島ランド　くぐり岩。2013.4.13.

屋久杉ランド　千年杉　2013. 4. 13.

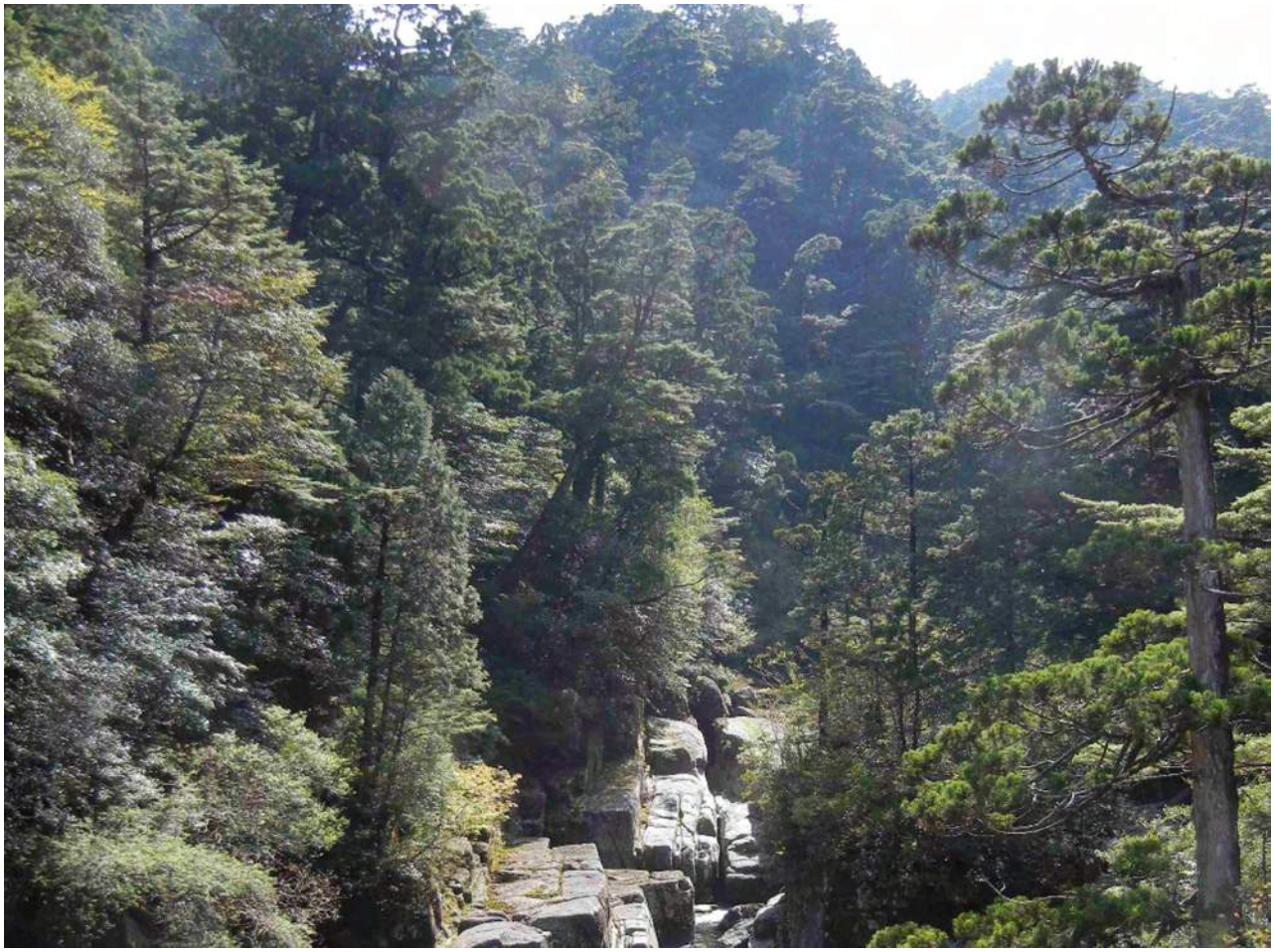
屋久杉ランド　千年杉　2013. 4. 13.

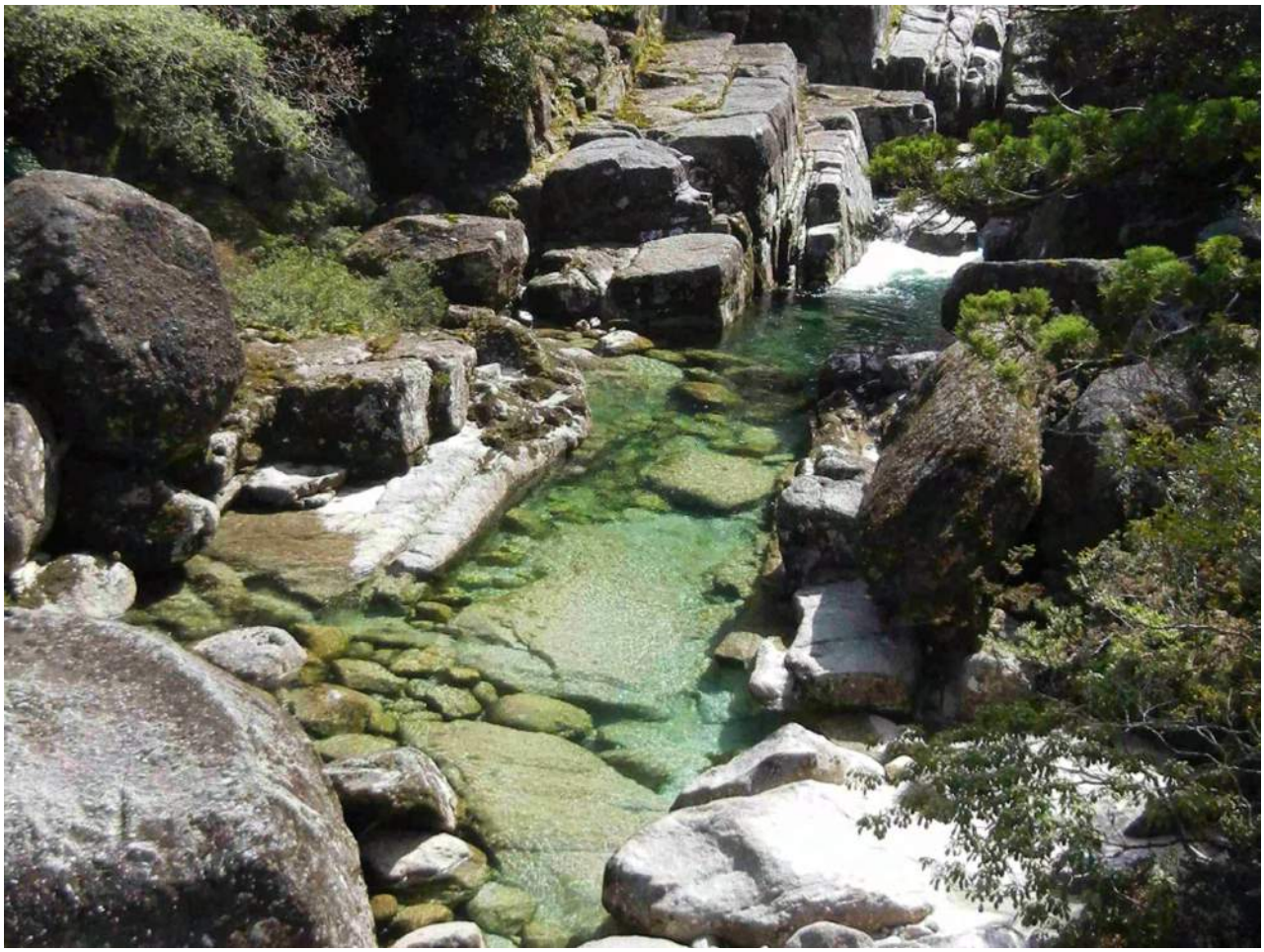
30分コース　出口
30min course exit 0.4km

80・150分コース
太忠岳　花之江河
80min course exit 1.4km



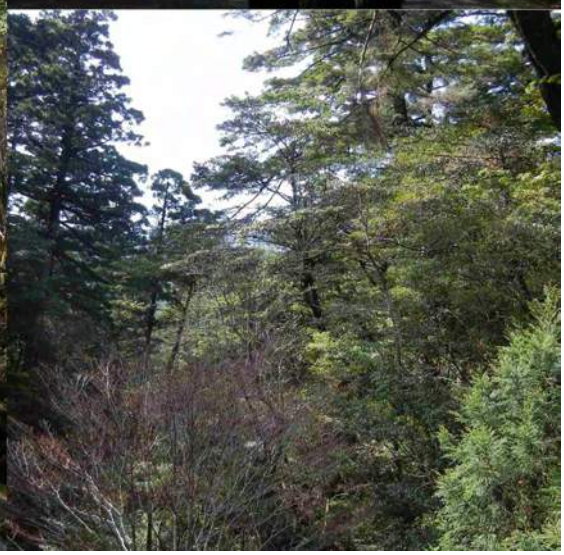
屋久杉ランド　滝川橋で　2013.4.13.





仏陀杉

仏陀杉



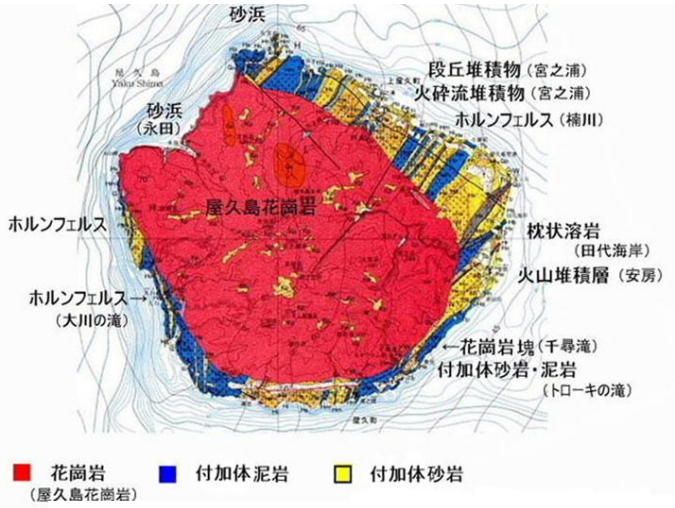
屋久杉ランド　清涼橋周辺　2013.4.13.

屋久杉ランド　入口より　左花折岳　右大忍岳　2013.4.13.

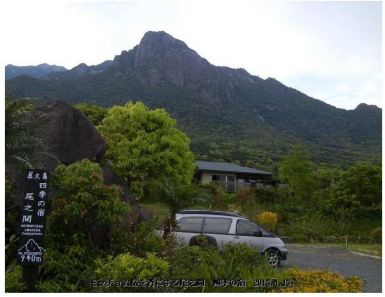
屋久杉ランドから山を下って　千尋滝へ向かう
野生サルたちが出迎えてくれる

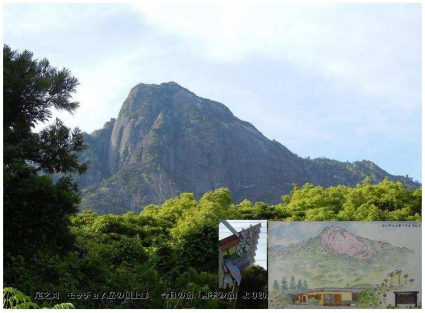
花崗岩の一枚岩を流れ落ちる千尋滝で　2013.4.13

１５００万年～1600万年前の花崗岩の一枚岩を流れ下る千尋の滝



モッチョム岳を背にする尾之間　四季の宿　2013.4.13.





尾之岡温泉

尾之岡温泉

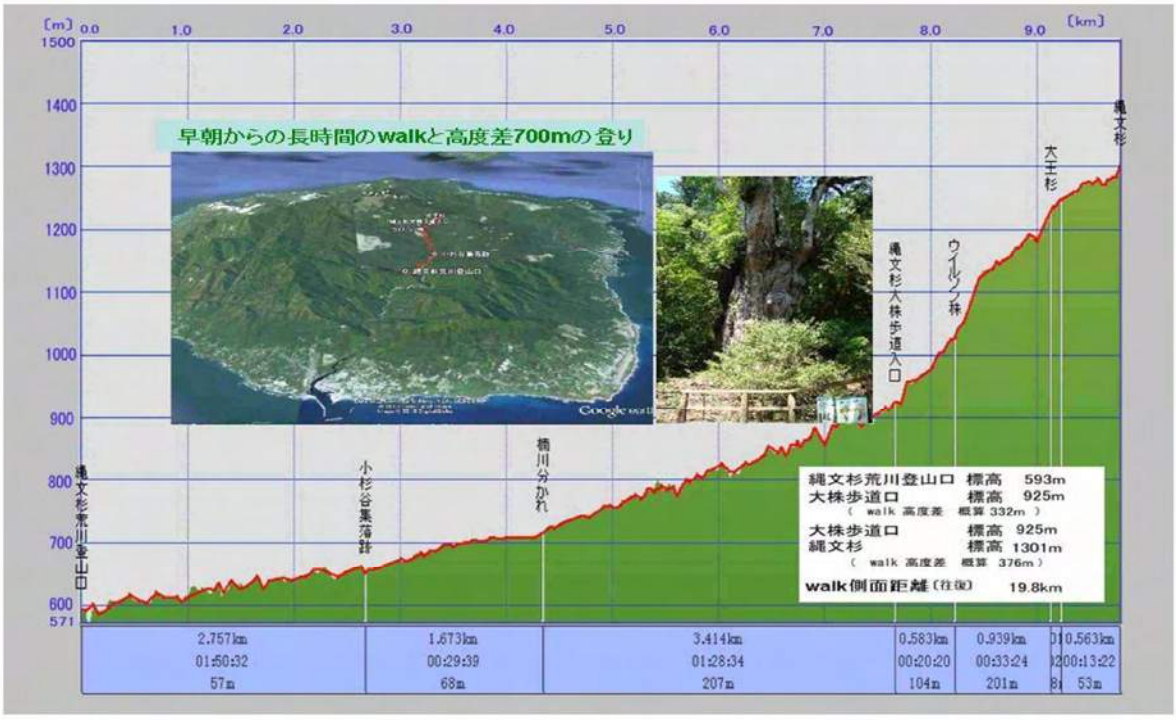
琵琶湖周航の歌をみんなで歌って　バーベキューパーティ散会　2013. 4. 13.

屋久島 第2日目 2014.3.4.14.

- ◆ 念願の縄文杉ハイク
- ◆ 夜 宿泊のホテル『いわさき』で
  《全員そろってのディナーパーティー》

いよいよ念願の縄文杉登山。朝4時起き。
真っ暗ではあるが空は晴れている。 本当にラッキーである
縄文杉までの長いトロッコ道と急な登りを縄文杉までたどりつけるだろうか・・・
不安と期待が入り混じる。 約1ヶ月 家内と二人で六甲周辺でこなしたトレーニングハイクの成果も試される。 期待一杯でガイドさんの車を待つ。

《荒川登山口⇔縄文杉登山 クルー》
旅楽 掘江ガイド メンバー: 武居・長瀬(隆)・野口・中西夫婦



4月14日早朝 4時 まだ真っ暗 ガイドの堀江さんの送迎車で宿を出発し
4時25分頃 荒川登山口へのバスが出る縄文杉自然館着 2013.4.14.

屋久島国立公園
Yakushima National Park
荒川登山口
Arakawa
Mountain Trail Entrance
環境省
林野庁

朝5時50分荒川登山口を縄文杉を目指して出発

小杉谷集落へ入る小杉谷橋手前　左手の枝谷に入るところに神社があり、
観光客を案内するガイドがみんなここで手を合わせ、橋を渡ってゆく　20013.4.14.

トロッコ道の横の森は苔むす深い森　あちこちに巨樹が見える

小杉谷のかつての中心集落小杉谷集落に入る小杉谷橋
この橋の手前から枕木道が板敷き道に変わって　歩きやすい　2013. 4. 14.

《7時15分》小杉谷小学校跡周辺　2013. 4. 14.

トロッコ道の横の森は苔むす深い森　あちこちに巨樹が見える

三 代 杉
THIRD GENERATION CEDAR

高塚山
屋 久 島 町

王杉

いよいよ　大株歩道を登って縄文杉へ
高塚山
縄文杉
大王杉
三代杉
ウィルソン株
トロッコ道
小杉谷
WC
大株歩道入口
トロッコ道終点
荒川分かれ
荒川ダム
荒川登山口
《8時40分》出発
荒川登山口コース

大　株　歩　道
屋久島は九州で最高峰の宮之浦岳をはじめ、永田岳、翁岳など1,000mをこえる山々からなる山岳島です。
この歩道は、通称大株歩道と呼ばれ、沿線には屋久杉の巨木がみられます。
なかでも樹令推定7,200年の縄文杉や大王杉は有名です。
また、5月から6月にかけてはヤクシマシャクナゲが咲き乱れ、訪れる人々の目を楽しませてくれます。
大株歩道入口

段梯子と階段のきびしい登り道が続く大株歩道　山腹の森をよじ登ってゆく感じである　2013. 4. 14.

ウイルソン株前　《10時12分》
あまりの人の多さに株の中に入るのをあきらめ、帰りに立ち寄ることに
正解でした

屋久島の固有種の野草ヒメルメルボウ

古い屋久杉の切り株　2013.4.14.

古い屋久杉の切り株　2013.4.14.

《10時52分　大王杉の手前》

森の樹木の切れ目から宮之浦岳が顔をのぞかせた　2013. 4. 14.

《11時46分》　縄文杉まであと少し　森の中で昼食

屋久島の固有種の野草「コミヤマカタバミ」

大王杉

『大王杉　2001/4.14.

大王杉のすぐ近く　枝のつながった夫婦杉の前で　2013.4.14.

縄文杉は山腹の深い森の中と思っていましたが、空近く稜線のすぐそば　標高1300mの地点　地形と景色の変化に納得です。

数段に折れ曲がった高い階段の向こうに「縄文杉」が立っていました　　2013.4.14.《12時20分》

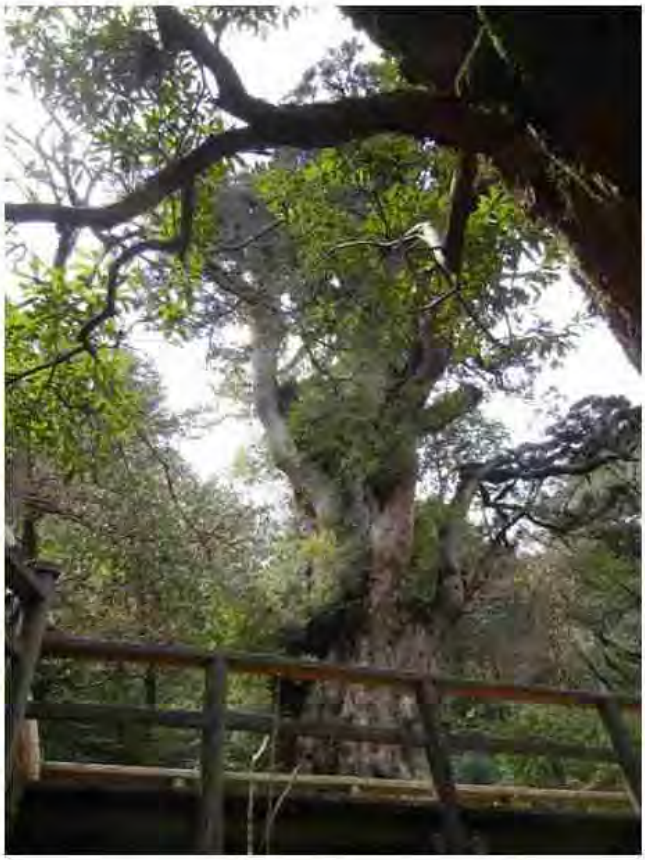
《12時20分》 **念願の「縄文杉」到着　2013. 4. 14.**

荒川登山口から8時間30分。ガイドの福江さんの絶妙のWalkコントロールで　意外なほど足の疲れもなく「縄文杉」に到着。
その堂々とした姿はまさに森の王者の風格です。

縄文杉まで登ったWV仲間と「縄文杉」をバックに　2013.4.14.

展望デッキ右手奥にももうひとつ展望デッキがあるのですが、
縄文の右枝が折れ、現在立ち入り禁止になっていました。
この堂々とした姿もいつまで見られるか・・・

やっと来ることが出来た縄文杉トレーニングのかいあって、足も大丈夫
京都芦生にも芦生台杉の巨樹があるが、屋久島「屋久杉」の堂々とした姿に「もう　京都にも屋久杉にも負けぬ巨樹があるとは言うまい」ただただすごい　そしてこれたことに胸一杯



ガイドさんが一番のアングルと教えてくれた展望デッキ下から見上げる縄文杉　2013. 4. 14.

《12時40分》　見てきた「縄文杉」のイメージを膨らませながら　下山開始

下山途中の山の斜面の樹木の中に鹿を見つけました

「縛文杉」から約1時間ほどでウイルソン株まで戻ってきました　　2013.4.14.《13時52分》
相変わらず人は居るが、ウイルソン株の中へ入れそう　ガイドさんの「帰りに」は正解でした

ウイルソン林　2013. 4. 14.

19mもあるウイルソンはの洞　見上げる壁にはてっぽうとハート型　2013.4.14.

19ウイルソンはの洞にて
見上げる壁にはてっぽうとハート型　2013.4.14.

ウイルソン林　2013.4.14.

昨日から気になっていた屋久島花崗岩　母相の中に大きな長方形の正長石が斑として入っていて、道のあちこちにこの破片がちらばっている。 行く先々で 目を凝らしてみるのですが、雲母の破片もあるのですが、鉄は見られませんでした

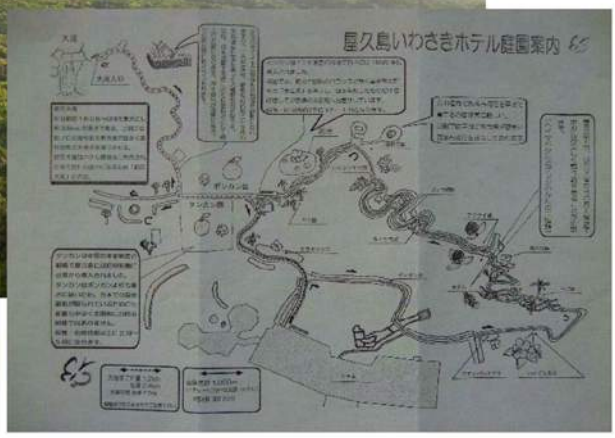
縄文杉荒川登山口 標高 593m
大株歩道口 標高 925m
(walk 高度差 概算 332m)
大株歩道口 標高 925m
縄文杉 標高 1301m
(walk 高度差 概算 376m)
walk側面距離(往復) 19.8km
縄文杉
大王杉
ウィルソン株
大株歩道入口
荒川分かれ
小杉谷
WC
荒川登山口
荒川ダム

念願の「縄文杉」　2013. 4. 14.

4. モッチョム岳の山麓　尾之間の朝

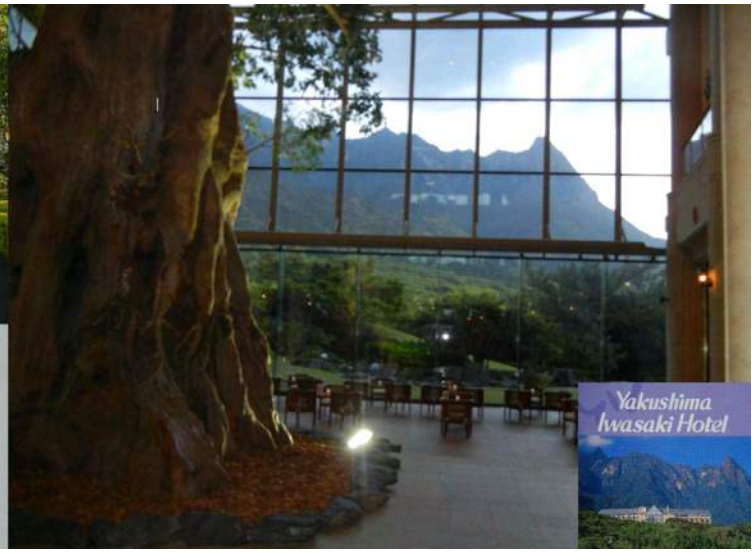
モッチョム岳山麓の森の中に広がるいわさきホテルの庭園を歩く

2013.4.15.早朝



尾之間の日の出　　2013. 4. 14.

Yakushima
Iwasaki Hotel


Yakushima
Iwasaki Hotel

デュランタ

約1時間の散歩を終えて戻るとすっかり明るくなって　きょうも快晴

ホテル9Fから眺めた尾之間の海岸　　2013.4.15.朝

屋久島3日目　屋久島世界遺産「照葉樹の森　西部林道」& 西海岸散策　2013.4.15.

北から南まで日本列島すっぽりの垂直分布が見られる原生林を歩く

世界遺産　西部林道　照葉樹の森　　2013.4.15
ガイドさんしか知らぬガジュマルの大樹から海岸へ森の中のふみ跡をたどる
この降り口のところで、吉岡さんが待っていてくれて、先の組と合流

水場へ行くのか、いきなり谷へ下りてゆく猪に出会いました　2013.4.15

照葉樹の森
西部林道　半山周辺
永田岬
屋久島灯台
半山
ガジュマル
西部林道
國割岳
大川の滝

西部林道から、ガイドさんの案内で踏み痕をたどって　森の中へ　2013. 4. 15.

西部林道　見上げる照葉樹の森の空　2013.4.15.

西部林道　照葉樹の森　2013.4.15.

ガジュマルの巨樹の前で

場所ははっきりしませんが、
「半山ガジュマル」と呼ばれる巨樹のようです

西部林道　照葉樹の森　半山ガジュマルの前　全員そろって　2013. 4. 15.

西部林道　照葉樹の森　2013.4.15.

ガジュマルの巨樹の前で

場所ははっきりしませんが、
「半山ガジュマル」と呼ばれる巨樹のようです

西部林道　照葉樹の森　半山ガジュマルの巨樹の中に入って　2013. 4. 15.

西部林道照葉樹の森で　2013. 4. 15.

西部林道　照葉樹の森　谷川で　ガイドさん差し入れのホウバの団子で休憩タイム　2013.4.15.

西部林道の道脇に　鹿と猿の群れが姿を見せてくれた　2013.4.15.

大川の渡船乗場に車を止め、昼食のため、まず浜辺へ出る　2013. 4. 15.

大川の滝海岸の浜〔屋久島西側海岸〕

↑大川の滝を流れ出る川の出口

大川の滝海岸の浜〔屋久島西側海岸〕と西部林道が走る山側

大川の滝　海岸から西部林道が走る国割岳を眺める　2013.4.15.

世界遺産登録理由のひとつとなった森林の垂直分布がくっきりと

大川の滝海岸で
海・山満喫の昼食
ビックリしたサフラン弁当

世界遺産の森そして誰もいない静かな浜　屋久島の自然の真っ只中での昼食　2013.4.15.

花崗岩の縁 ホルンフェンスの大岩壁を流れ下る
「大川の滝」 2013.4.15.

屋久島は堆積岩に花崗岩が貫入して出来た花崗岩の島。 この花崗岩貫入によって熱変成を受けた堆積岩は熱変成を受け、フォルンフェルス化する。

大川の滝周辺は4000万年ほど前に海底でたまった砂岩や泥岩が， 屋久島花崗岩による接触変成作用を受け，硬くなった場所．〔接触熱変成岩・フォルンフェルス〕
ここは屋久島花崗岩のすぐ縁で、フォルンフェルスの大岩壁を滝が高温を発てて、流れ落ちる。
フォルンフェルスの岩を示す層状の縞模様が見える。

花崗岩の縁 ホルンフェンスの大岩壁を流れ下る「大川の滝」で 2013.4.15.

花崗岩の縁　ホルンフェンスの大岩壁を流れ下る「大川の滝」 2013.4.15.

流れ落ちる滝のすぐそば　層状のフォルンフェルスが見える

粟生　さんご礁の浜で　サンゴをひらう　2013.4.15.

粟生　さんご礁の浜で
サンゴをひらう
2013.4.15.

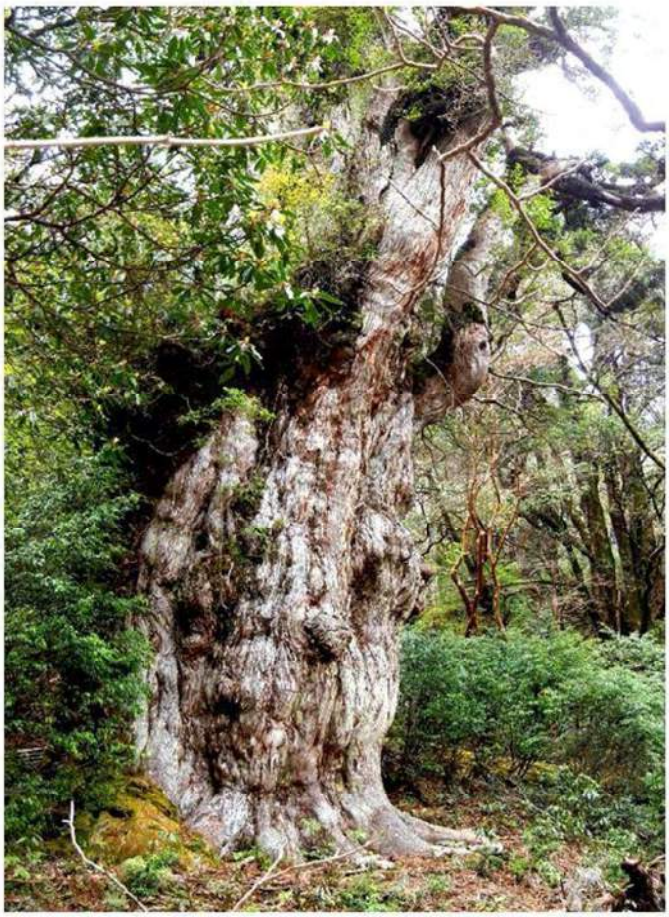
栗生　さんご礁の浜　ここえ海亀も上がってくると聞く　2013.4.15.

さんご礁の浜から南の尾之間方面を眺望　2013.4.15.

吉岡邸へお招きいただいて祝宴　屋久島合宿のフィナーレを楽しむ　2013.4.15.夕

吉岡さん自作の邸宅に招いてもらって祝宴 車座で飲んで酔っ払って　話が弾む　2013.4.15.夜

渡辺ご夫妻の見送りを受け、宮之浦行のバスで帰路に　2013. 4. 16. 朝



本当に楽しい屋久島の旅

屋久島の自然の中に身を置き、仲間とご一緒に語らい、
あっという間の三泊。毎日が楽しくて嬉しくて
私達夫婦には忘れられぬ思い出の旅になりました

吉岡さんご夫妻並びにお嬢さんご一家には大変なご苦
労とお心くばりに、感謝と感激で一杯です。
本当に有り難うございました。

2013. 4. 17.　神戸に帰り着いて

Mutsuo Nakanishi

私の屋久島　不思議な謎

屋久杉の形成　屋久杉と台杉は違うのだと初めて認識しました

スギは一般的に500年余りが平均的な寿命だといわれているが、屋久島では2000年を超えて生きる巨木が数多く現存している。その訳は、屋久杉は多雨による新鮮な水に恵まれながら、栄養が乏しい花崗岩の山地に育つためにゆっくりと時間をかけて緻密に成長することが出来る。栄養の乏しい花崗岩の大地とはいえ、多雨・多湿の屋久島だから成長できたと言える。 恵まれた地に育つスギの例では、360年程で直径 1．5mを越えるものが普通に存在するのですが、樹齢1660年を数える屋久杉でその直径は1．8m余りしかないという。
ゆっくり育つ屋久島の杉は年輪が緻密なため樹脂分が多く、硬く腐りにくいので長生きすると考えられ、それが用材としての品質価値となっている。

屋久杉(左)と秋田杉(右)の標本木　屋久島町歴史民俗資料館
ほぼ同じ大きさなのだが、屋久杉が千年以上の樹齢であるのに対し秋田杉は2百年に満たないという（インターネットより）
屋久杉の年輪は0.1mm程度といい、肉眼ではよく見えない

特に1000年を越える「屋久杉」と呼ばれる巨樹は曲がりくねった枝と節くれだった胴体を持ち、その成長が順調でなかった環境　つまり、日陰などで思うに任せぬ成長や、傷ついたりで用材に向いたまっすぐな成長が出来ず、切り倒されることを免れ、又、人の入らぬ原生林だったからこそ命をつなぎえて　1000年を越える巨樹「屋久杉になりえたと言う。

幾多の苦難の環境変化を乗り越えてきたその痕跡が、堂々としっかり大地をつかむ姿となって立っているのだと。

見るものみなに訴えかけるこの堂々とした姿のバックにはこの力強い生命力がある。
これから先　こんな姿の「屋久杉」は生まれてくるのだろうか・・・・　・とふっと気になる。

屋久島に来て　ガイドさんに始めて教えてもらった謎解きでした。

私の知る京都北山の奥には芦生台杉という千年杉の巨樹群がある。
切り株や倒木に芽を出した2代目が折り重なって一本の巨樹に育った杉（切り株・倒木更新による2代目の重合体）
私は「屋久杉」もこの台杉の仲間かと思っていましたが、「屋久杉」は全く異なる1本の樹木で　しかも、そのスケールの大きさに圧倒されました。もう「屋久杉と同じような巨樹はほかの場所にある」にもあるとは言うまいと。

良くぞ残ってくれた縄文の森　失えば二度と戻らぬ貴重なもりであることを体現できたことが何よりうれしい。

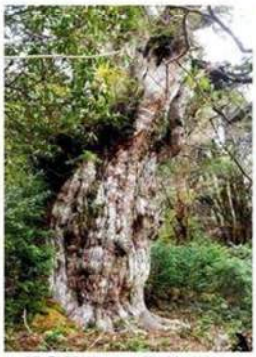
ロマンに満ちた「縄文杉」の年代　屋久島に7000年前　縄文人はいたのでしょうか　今回はであえずでした

樹齢は推定2600年～7200年と言われるが、計測されていないので、年代不明。

縄文杉の由来は、1966年、屋久町役場（当時）の観光課長だった岩川貞次氏により発見され広く紹介された。
縄文杉名前の由来は、当時推定された樹齢が4000年以上で縄文時代から生きていることから来たという説と、奔放にうねる幹の造形が縄文土器に似ているからという説がある。
周囲の樹木の年輪測定、幹周の大きさなどから当初、樹齢7000年以上と推定され話題になりましたが、
その後の調査で古木の周囲を3本程度の若い木が融合して包み込んでいる合体木である可能性が浮上し、外側の若い木の部分の年代測定では樹齢約2700年と判定されました。（芯部の古木は樹体保護のため未調査）
ただし、鹿児島大学農学部のその後の調査で、縄文杉は合体木ではなく、一つの木であることが証明されている。
また、調査によって倒木更新の痕跡も発見されている。
　また約7300年前に鬼界カルデラから広がった幸屋火砕流によって、屋久島を含む九州南部諸島の大型植物は全滅したと考えられており、縄文杉の樹齢は古くとも4000年以上はさかのぼらないとするのが定説になっているようです。
一方、 後代に持ち込まれた記録の無いヤク猿などの大型動物が現存していることから、屋久島全体が火砕流に飲み込まれたのではなく一部の動植物は生き延びたのではないかとする意見もある。

〈インターネット　屋久島　web　より　〉

ガイドさんからも同じ話しを聞いた。
屋久島へ来るまで「縄文杉の樹齢7000年」説や4000年説にぼんやりとすごい杉があると思っていたのですが、ガイドさんから、「約7300年前のアカホヤ海底火山の大噴火」の話が縄文杉の樹齢推定に大きな意味を持っていると聞いて、はっと気がつく。



奥岳の屋久島縄文杉やウイルソン株にも出会ってきました

アカホヤ噴火の火山灰とその後の厳しい寒冷化で、九州の動植物は行き場を失い、先住縄文人を含め、或るものは逃れ、或るものは絶滅していったことを思い出した。
以前から興味がある「南の海を越えてきた縄文人」 精密な磨製石器の道具を日本にもたらした人達も　このアカホヤ噴火で忽然と姿を消した。 屋久島・種子島はこのアカホヤ噴火の噴火口のすぐそば。 絶滅が基本か・・・・と。

アカホヤ噴火の大爆発と周りの状況を考えると縄文杉7000年説はちと古すぎる。 でも、屋久島にこの時を生き延びた猿が居るとすると・・・　一方、屋久島に居た縄文人はどうしたろう。 そもそも　屋久島に草創期の縄文人はいたろうか・・・・・・
帰りに訪れた草創期から　縄文遺跡が数多くある種子島では　このアカホヤ噴火以降　弥生時代に至るまで、遺跡数は激減したまま回復してこないと聞きました。
もし、大噴火・火砕流に見舞われた屋久島で、すっくと立ちその後の気候変動を幾多の屋久杉が乗り越えたとすると・・・・・・
ロマンに満ちた話である。　世界遺産の島　発掘調査は難しいと思われるが、どうでしょうか・・

屋久島は都会的??島を引っ張る若いガイドさんたち

◎ 縄文杉へのwalkの中で、ガイドさんの技量にビックリしていたのですが、ガイドさん同士が 実に気楽に道を譲ったり、会話を交わしたり、休憩場所で はなしたり。 それが縄文杉到達まで ずっとなんどもありました。
追い越したり、追い抜かれたりも。

初めは同じガイドグループかと思っていたのですが、我々の堀江ガイドだけでなくみんな気楽に 声掛け合って、案内してもらっている我々も 他のガイドについている人達も、みんな「縄文杉へ登る運命共同体」のような感覚に。
こんなにガイド制度がしっかりし、気楽にガイドが頼めるのは日本では屋久島だけかもしれません。

ガイド名鑑をながめると みんなあこがれて屋久島にやってきて、若い人も、もう年配の人も自分の生き方を進める生計の手段としてガイドをしているというのが大半。
「若い人達がみんな 生き生き。 老齢の我々も若い人と会話して元気がもらえる。 久し振りの感覚だ」と。

遠く離れた小さな島で「なにか 都会的だなぁ」
「若い島だなぁ」と感じた感覚は ここにあるのかもと。

島に住む地の人達とどんな交流があるのか
今回は知ることが出来ませんでしたが、先を見た素晴らしい島と感じています。

◎ また、縄文杉 縄文杉といいながらも 今回ほかの「縄文」に触れることが出来ませんでした。
縄文杉もさることながら この地帯に住む海を渡ってきた先住縄文人の先進縄文文化も アカホヤ火山噴火で絶滅したと推定され、その後 長い空白期をへて また、新たに縄文人たちが、住んだ。そんな文化ものぞいてみたい。
でも 後から入った痕跡がないヤクサルなど この島で生き抜いたとも。もしそうなら すごい。 その知恵は今にも・・・

本当に南から海を越えて日本列島にやってきた先進縄文人は絶滅し、日本人のルーツから消え去ったのか
これもまた謎
その痕跡が 屋久島にもあるだろうと・・・・

なんせ こんな面もある屋久島は不思議な島。
縄文の自然ばかりでなく屋久島の縄文や屋久島の鉄も面白い。

ついつい 風来坊の話で長くなりました

屋久島の砂鉄のこと

屋久島にも美しい砂鉄の浜がある

鬼界カルデラの位置

鬼界カルデラ火山灰堆積状況

屋久島行が決まって　屋久島でも砂鉄浜が見られると楽しみにしていましたが、インターネットを検索してもよく判らない。
屋久島から南には火山帯延び、有数の火山地帯で、鉱物資源帯がこれに重なる。　鹿児島湾から南の海上にはかつて、大噴火を起こした姶良・阿多・喜界カルデラの大カルデラが並び、噴火で形成された岩には大量の鉄分を含み、それらの風化とともに砂となって砂鉄が海底や浜にあるに違いないと。事実　鹿児島薩摩半島や屋久島には数多くの砂鉄が堆積する浜があるのに、屋久島ではほとんどその記述がない。

火山に由来する赤湯の温泉もないことから、屋久島には「砂鉄が堆積する島がない」と。

事実今回私の歩いた屋久島の西南海岸の川や海岸で砂鉄について検分することがなく、頭の中に「不思議や??」の思いを残りました。

そんなイメージを頭に　屋久島を離れ、種子島へ行くと南北に伸びる細長い種子島の海岸に西も東海岸にも点々と砂鉄の浜が取り囲んで素晴らしい砂鉄の浜の景色を作っていました。

北に薩摩・大隅半島　東に種子島　南に屋久島に取り囲まれて、喜界カルデラがあり、すぐ西には活火山があり、浜には砂鉄が見られるという口永良部島がある。

屋久島に砂鉄がないのはおかしい。
◎川が急流・海岸が崖で浜がないからでは??
◎今回行かなかった喜界カルデラに対峙する島の北側には砂鉄の海岸があるのでは・・・
そんな頭が沸いてきて　再度　屋久島　特に島の北海岸を調べなおすと屋久島にも素晴らしい砂鉄の浜があることを知りました。
楠川海岸の浜　永田海岸の浜　ここには砂鉄の浜があると言う。
どうも　屋久島では砂が堆積する広い浜が北側海岸にしかなく、　そこには砂鉄堆積の素晴らしい浜があるようだ。　これで納得です。

なお、種子島を含め、この地帯の砂鉄はチタンを多く含み、多々良製鉄には不向きで良質の鉄はなかなか作れなかったようだ。
また、昭和20年代に屋久島で水力発電の豊富な電気と種子島の砂鉄を使って製鉄が計画されたが　、うまく行かなかったようだ。

◆　今回見つけられなかったが、屋久島にも　砂鉄の浜がありました

屋久島の北海岸　宮之浦のすぐ西　白雲谷雲水峡へ入る楠川の海岸の砂鉄について　美しい写真・記事とともに砂鉄のある海岸が紹介されていました。　また、『永田いなか浜』にも白い砂浜の波打ち際にうっすら砂鉄の筋が見えて美しいと。
屋久島の川からはほとんど砂鉄見られず、又　尾之間や大川の滝海岸の浜では砂鉄が見られず、「屋久島では砂鉄の浜はない」と不思議がっていましたが、島の北海岸の浜には砂鉄が堆積する浜があるようです。

これで、種子島・屋久島いずれも　どうも海側から運ばれてきた砂鉄が島の海岸に堆積したものと納得しました。

それにしても　写真で見る　屋久島の砂鉄の浜「楠川」
満月に砂鉄がきらきら光る景色　ビックリでした。　今回出会えなかったのが残念ですが、「満月にきらきら光る砂鉄の浜」を知ったのはうれしい話。　こんな砂鉄の姿があるのだと。

「満月に光る砂鉄の浜　屋久島北部海岸「楠川」の浜」

http://guidesystem.blog117.fc2.com/blog-entry-21.html

屋久島の楠川海岸。
550年ほどの昔、戦国時代「第12代種子島忠時」楠川城跡の真下の砂浜です。
長田地区のいなか浜や前浜の花崗岩の白い砂と違い、黒っぽい小さな砂、砂鉄が混じってるので黒く見えます

この砂鉄は、満月の夜きらきらと光ります。不思議な、美しさです。
一度、皆様も島に来たら、ご覧ください。　　やー。屋久島は最高!.....びゅ～!

【参考】帰りに訪れた種子島　砂鉄の浜と砂鉄が描く文様　2013.4.16.

種子島　東海岸　西之表市　かなはま・鉄浜海岸

種子島　西海岸　西之表市　花里海岸

1. 屋久島の概要

N.P.O法人 エコロジー・カフェ　home pageより
http://www.ecology-cafe.net/glossary/yakushima.html

1993年 12月 11日に**世界自然遺産**に登録された屋久島は、九州最南端の佐多岬から南南西に約60kmの海上に浮かぶ周囲約132 kmの ほぼ円形 (東西約28km南北約24km) の島である。

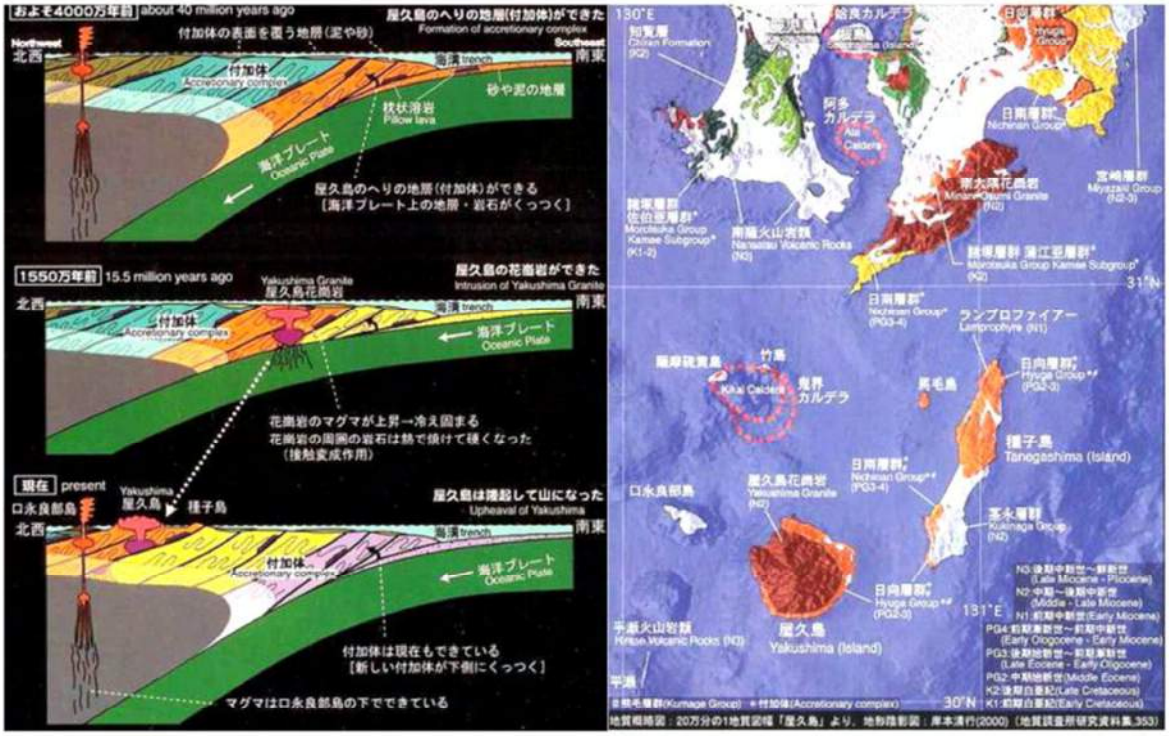
面積は約504km2 (東京 23区ほど) で、日本では 9番目に大きな島。しかし、車で海岸線の周遊道路 105kmを一周しても、2時間半程しか要しないことからも小さな島ともいえよう。

その屋久島には、**九州最高峰の宮之浦岳** (1936m) をはじめ 1000m を超す峰々が 46座、うち 1500mを超すものは 20座もある。平均斜度は 37°と極めて急峻で、大半が山岳、山地であり、平地は島の西部を除く海岸線にわずかにある程度である。
この地形が織り成す気候には、海岸域の**亜熱帯**から山岳地帯の**亜寒帯**までが含まれ、**九州から北海道まで**の気候が一つの島でみられるという。

また、広大なアジアモンスーンの中にあって、夏は南東モンスーン、冬は北西モンスーンの影響を受けるとともに、巨大な暖流である黒潮が北上しながら海洋から大気へ大量かつ活発に熱と水蒸気を供給している。
2000mにも及ぶ急峻な地形の上空では急激な冷却を受けるため、冬場の降水はやや少ないものの一年を通じて、猛烈な雷雲や雲霧が発生しやすい。
年間降水量は日本で最も多く、平地で 4500mm、山岳地で多い年には 10000mm 超ともなる。

この豊富な降水は、花崗岩の山肌を洗い、V字谷を刻み、湧水を生じ、幾多の瀑布となり、屋久島の自然を他に例のない類まれなものに育んできた。
自然水は、花崗岩に洗われ、海塩起源の Na-Cl 型の水タイプとなる。水質の硬度は 6ppm 以下と超軟水でミネラル養分に乏しい。
島の面積の 90%を占める森には、**樹齢 7200年といわれる縄文杉**をはじめとする樹齢千年を超える多くのヤクスギが生育している。この小さな島には、**被子植物 1136種**が分布するとともに、日本の**シダ植物約900種のうち 388種**、日本の**蘚苔類約1600種のうち 615種**が集中し、地衣類は樹上・岩上に豊かに生育するなど特異である。

2. 屋久島地形・地質の成り立ち



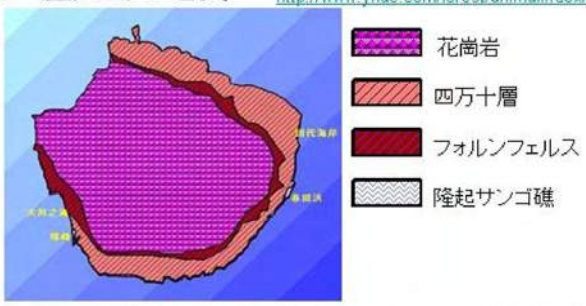
田村茂樹　屋久島の地質・地形・気候　http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/~spg/yakushima.pdf より

屋久島は堆積岩の層に花崗岩が貫入して出来た花崗岩の島　火山はない

3. 屋久島の地質

屋久島野外活動センター
http://www.ynac.com/forest/animalindex/basic.htm より

屋久島の自然・景色理解のために



屋久島は、海洋プレートの沈み込み帯に位置し、その付加体である堆積岩に、花崗岩が貫入してできた島です。
西は活火山の口永良部島、東には付加体のみでできた種子島があり、日本列島の基盤をなす付加体構造の見本市のような場所となっています。
中央の山塊は、巨大な花崗岩の塊で、この花崗岩体が屋久島を特徴づける山岳を形成しています。
隣の種子島は、花崗岩がないため平坦な地形です。
また、堆積岩の花崗岩との接点部分は、熱変成を受けてホルンフェルス化しています。
このホルンフェルスは非常に硬いため、大川の滝をはじめ、多くの滝を形成しています。
またこの変成帯に沿ってタングステンの鉱脈が走り、鉱山跡が点在しています。
一方、春田浜や栗生の塚崎には隆起珊瑚礁の海岸が広がっています。

花崗岩

屋久島の本体を形成する岩石で、巨大な長石の結晶を含むことから屋久島花崗岩とも言われている。

堆積岩

屋久島を取り巻く海岸線は、約4000万年前堆積の四万十層(熊毛層)と呼ばれる堆積岩。砂岩と頁岩が交互に積み重なり、地殻変動で著しく褶曲、断裂している。

枕状溶岩

海底火山でマグマが噴出する際、高圧で急激に冷やされ、枕状の塊が積み重なった形で形成された溶岩。海底火山から運ばれた枕状溶岩が東部の田代海岸で観察。

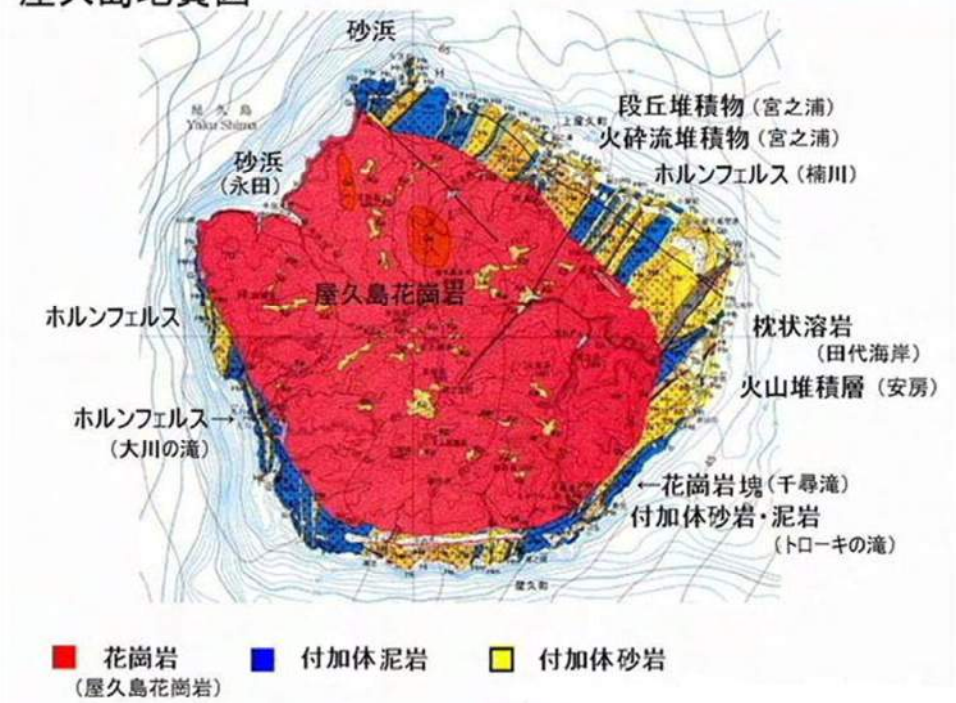
サンゴ

屋久島の東部、春田浜海岸や西部の栗生塚崎の一部等には、隆起(離水)珊瑚礁から成る石灰岩地帯がある。

幸屋火砕流

屋久島の自然・景色理解のために

屋久島地質図

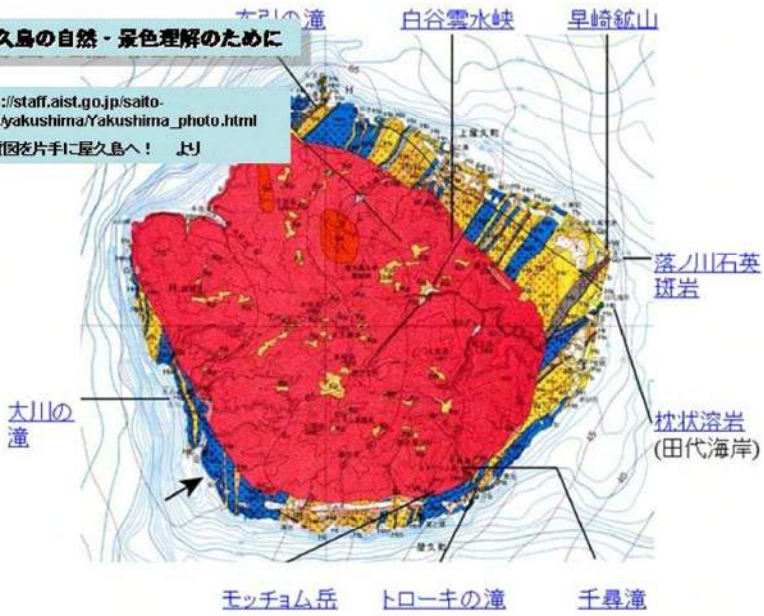


20万分の1 地質図幅「屋久島」 産業技術総合研究所地質調査センターWebより転載
（第63500-A-20071023-002号） 各箇所のキャプションは西村補足

http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/tigaku-yakusima07.06.22-24/9-0-2tiaituzu.JPG より

屋久島の自然・景色理解のために

http://staff.aist.go.jp/saito-mkt/yakushima/Yakushima_photo.html
地質図を片手に屋久島へ！ より



斎藤 眞・小笠原正継・長森英明・下司信夫・駒澤正夫 (2007) 20万分の1地質図幅「屋久島」より

屋久島南西沖から屋久島中央部を望む. 中央右は七五岳.

千尋滝 1600～1500万年前の屋久島花崗岩にできた滝

モッチョム岳 － 屋久島花崗岩の岩壁.

早崎鉱山 － タングステン鉱山跡. ここの直下にある屋久島花崗岩から伸びてきた脈にタングステン鉱物が含まれる

落ノ川石英斑岩 － 4000万年ほど前の付加体内部の衝上断層に沿って貫入した岩脈. 地下浅くにある屋久島花崗岩の仲間.

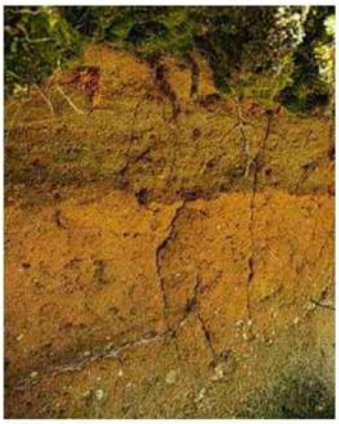
飛流落とし (白谷雲水峡)
1600～1500万年前の屋久島花崗岩にできた滝.

大川の滝 － 4000万年ほど前に海底でたまった砂岩や泥岩が, 屋久島花崗岩による接触変成作用を受け, 硬くなっています. ここは屋久島花崗岩のすぐ縁です.

屋久島花崗岩

屋久島の本体を形成する岩石で、巨大な長石の結晶を含むことから屋久島花崗岩とも言われる。 写真では、白い長方形の斑として写っています。花崗岩はマグマが地下深くでゆっくり冷えて固まった岩石です。従って屋久島は、マグマが地表に噴出する火山ではありません。
屋久島の花崗岩は今から約1400万年前に形成された比較的新しい時代の花崗岩で、同時代の花崗岩は、紀伊半島から四国南部、九州南部に点在しています。

縄文杉へと続く山道で、次から次へと現れる岩に多数の四角の斑が入っているのにビックリ。歩道に入れたコンクリートの模様??かと。 ガイドさんに質問してこれが屋久島花崗岩の特徴だと聞きました。



幸屋火砕流と縄文杉・屋久杉の年代

屋久島の北約40kmの海底に、約7300年前に大噴火をおこしたと言われる鬼界カルデラ・海底火山がある。 大噴火の際に海面を四方へ飛散した火砕流は、鹿児島県本土南部や種子島、屋久島を覆い、九州南部の先進的な縄文文化を壊滅させたといわれています。
この火砕流を幸屋火砕流と呼ぶ。
屋久島でも、宮之浦岳頂上近くをはじめ、各地に厚さ数十cmから2m以上の厚さで堆積しており、島中が火砕流に覆われたことが伺われます。

一説では、この火砕流で屋久島の森は焼き払われたといわれますが、現在の森が焼き払われたとして想像されるような焼けこげた大木や大量の木炭は火砕流の中に観察できません。従って火砕流の頃の屋久島がどのような森に覆われていたのか、また火砕流は本当に森を焼き払うほどの高温で屋久島を覆ったのか、よくわかりません。

花崗岩という非常にミネラルの乏しい岩石から成るこの島に、喜界カルデラから大量のミネラルが運ばれ、それがその後の屋久島の森の形成に影響を与えたことは間違いないでしょう。
写真では風化した花崗岩の粘土の上に見える、黄褐色の層が幸屋火砕流です。

屋久島の自然・景色理解のために

4. 屋久島の平地部（海岸段丘）

平地は　海岸部の縁に沿って周囲にごく少しの面積しかない

海岸段丘

島内には、主に堆積岩地帯に海岸段丘が発達する。海岸段丘（台地）とは、波食棚が海水準の低下や隆起によって地上に現れたものである。

- 高位段丘面……形成年代不詳。
- 中位段丘面……3 段に分けられる。M1 面は 12.5 万年前に形成されたことが分かっている。
- 低位段丘面……K-Ah を挟むことから、縄文海進時に形成されたと考えられる。

※谷の遷急点は、段丘の形成と関連されて形成された可能性もあるが、詳しいことは分かっていない。

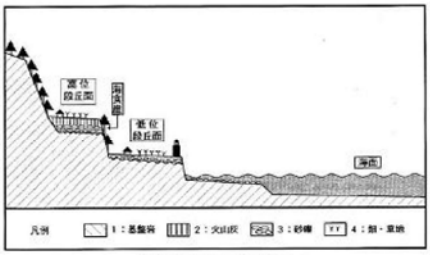


図1.5 海岸段丘模式断面図（大矢，原図）

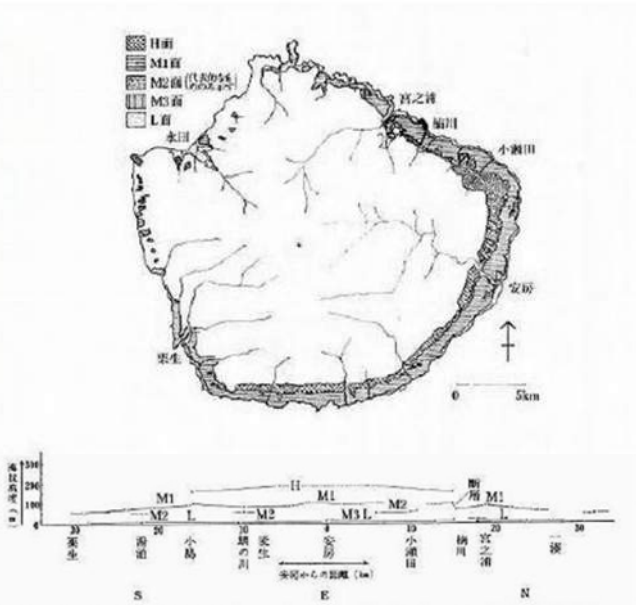
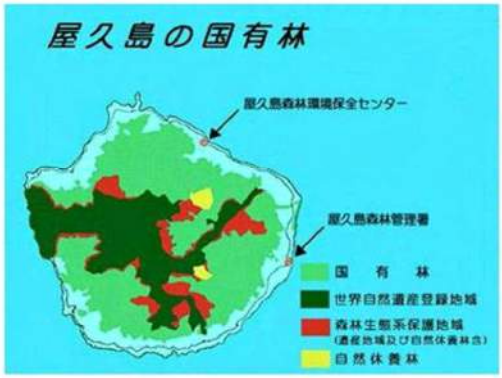


図 3.6.2　屋久島の海成段丘分布と縦断面［町田，1969］　南西部から反時計まわりに北部の海岸までの縦断面形を示す。

5 屋久島 世界遺産の森



2000メートル近い山々に黒潮からわく雲がぶつかるため、屋久島には「1月に35日雨が降る」と言われるほど多くの雨が降る。この雨のおかげで、植物が育ちにくい花崗岩の島に、多様で豊かな森が広がっている。

屋久島の森に入ると、地面の多くが苔に覆われている。苔は水を貯え、乏しい土壌が流れないように守っている。花崗岩の上でも、苔があれば木々は成長することができます。

苔は森に息づく植物たちのゆりかごなのである。

YAKUSUGI MUSEUM
屋久杉自然館 ホームページより

屋久島の自然・景色理解のために

http://yakusugi-museum.com/data-yakushima-yakusugi/202-sekai-isan.html

屋久島 世界遺産の森

●屋久島が世界遺産登録として評価されたポイント
屋久島は1993年、白神山地とともに自然遺産として、日本ではじめて世界遺産登録リストに登録された。

屋久島の遺産登録地は島全体の約20%にあたる、10,747ha。
原生自然環境保全地域と、国立公園の特別保護地区及び第一種特別地域にほぼ重なる範囲である。
また、そのほとんどが国有林の森林生態系保護地域の保存地区でもあり、明治以降は伐採されていない地域である。
遺産登録にかかわる国際自然保護連合(IUCN)の屋久島の調査報告では、
世界遺産の登録基準を満たす要件として次のような点が評価されています。

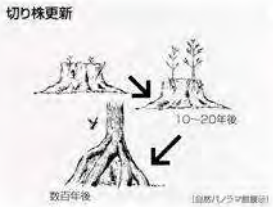
- ◆ 日本の自然景観の重要な要素であり、固有植物であるスギのすぐれた生育地である。
- ◆ 各地で急激に減少している照葉樹林が原生状態で残されている。
- ◆ 東アジアの南から北の植物へと、垂直分布として変化する植生が見られる。

伐採跡の切り株更新

屋久島では2代目・3代目の小杉を見ることが出来る

樹齢1000年以下の小杉

屋久杉の代表例「縄文杉」



屋久島の自然・景色理解のために

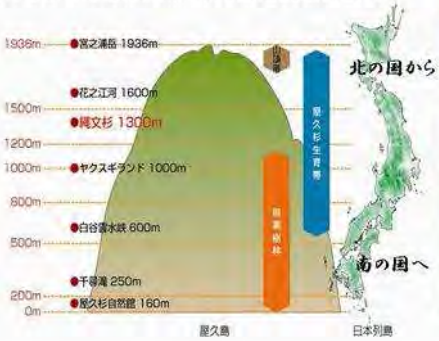
《屋久島の森　垂直分布》

屋久島の魅力の一つであり、世界遺産登録に大きく影響を与えた要素でもある垂直分布。
2000m近い山頂は、ほぼ北海道並の気候でありながら、平地に至ると亜熱帯地方に見られる植物などで彩られる。

屋久島は簡単に言うと日本全土の気候を一つの島で併せもっているといっても過言ではない。
屋久島は一つの小さな島でありながらこういった多種多様の気候をもっており、そこに生息する植物は屋久島固有のものも多く、まさに自然の博物館と比喩したい。

世界遺産に登録された地域はなんと島の面積の2割にも及ぶ。そのほとんどは国有地となっているが、一部西部林道周辺に民有地を含み、海岸線までも世界遺産の登録に指定されているのは屋久島だけだ。

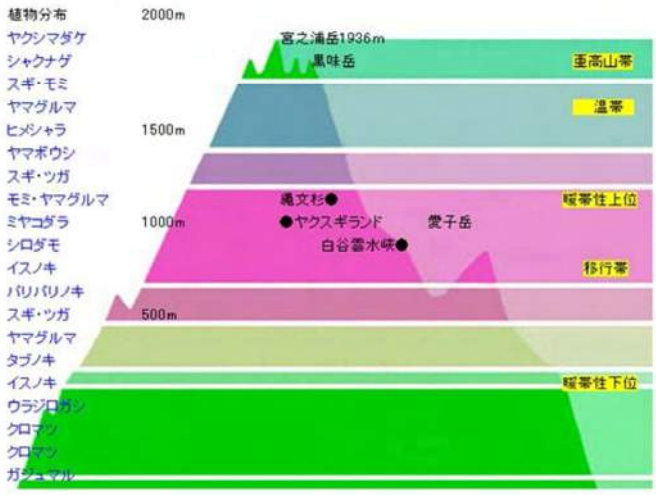
島の西方にある 西部林道から国割岳（標高1,323m）を望む海まで続く山の斜面にあでやかな緑に輝く世界遺産（垂直分布）を見ることができる。



西部林道《国割岳山腹》の垂直分布

屋久島では日本の森林帯で一般的に見られるブナ、トウヒ、シラベなどは見られません。
また、南限植物であるスギ、モミ、ツガ、ヒメシャラなどや北限植物、固有植物などは多く生育しています。

天然のスギは標高600～1,800m付近まで生育します（杉林帯）が
樹齢1000年を超える「屋久杉」や巨木は標高1000m～1300m地帯に集中（屋久杉林帯）しています。



屋久島では日本の森林帯で一般的に見られるブナ、トウヒ、シラベなどは見られません。また、南限植物であるスギ、モミ、ツガ、ヒメシャラなどや北限植物、固有植物などは多く生育しています。

天然のスギは標高600～1,800m付近まで生育します(杉林帯)が
樹齢1000年を超える「屋久杉」や巨木は標高1000m～1300m地帯に集中(屋久杉林帯)しています。

屋久島合宿スケジュール

企画からセット・実行まで　すべて吉岡ご夫妻の世話になりました

ホスト：　吉岡夫妻&田脇さん一家ほか吉岡families
参加者：　山口・武居・長瀬（隆）・野口・寺本
　　夫婦で参加した 長瀬（寧）・角田・渡辺・中西

◆ **4.13.　尾之間　四季の宿に集結**

吉岡ご夫妻の出迎えを受けて、屋久島空港到着後
到着時間に応じて、それぞれ、吉岡夫妻の案内で、
ヤクスギランド・千尋の滝・吉岡邸などを見学

◎　夕方、尾之間　四季の宿に集結
宿で吉岡ご夫妻セットによるパーティ

◆ **4.14.　3組に別れ、「屋久杉」を訪ねる**

1.　「大株歩道・縄文杉」を訪ねる
2.　屋久杉・こけの幻想的な「白谷雲水峡」
3.　屋久杉の森「屋久杉ランド」

宿は尾之間　ホテル いわさき に移動
夕方　吉岡ご夫妻・一日遅れで到着した
渡辺夫妻を含め、ホテルで全員で会食

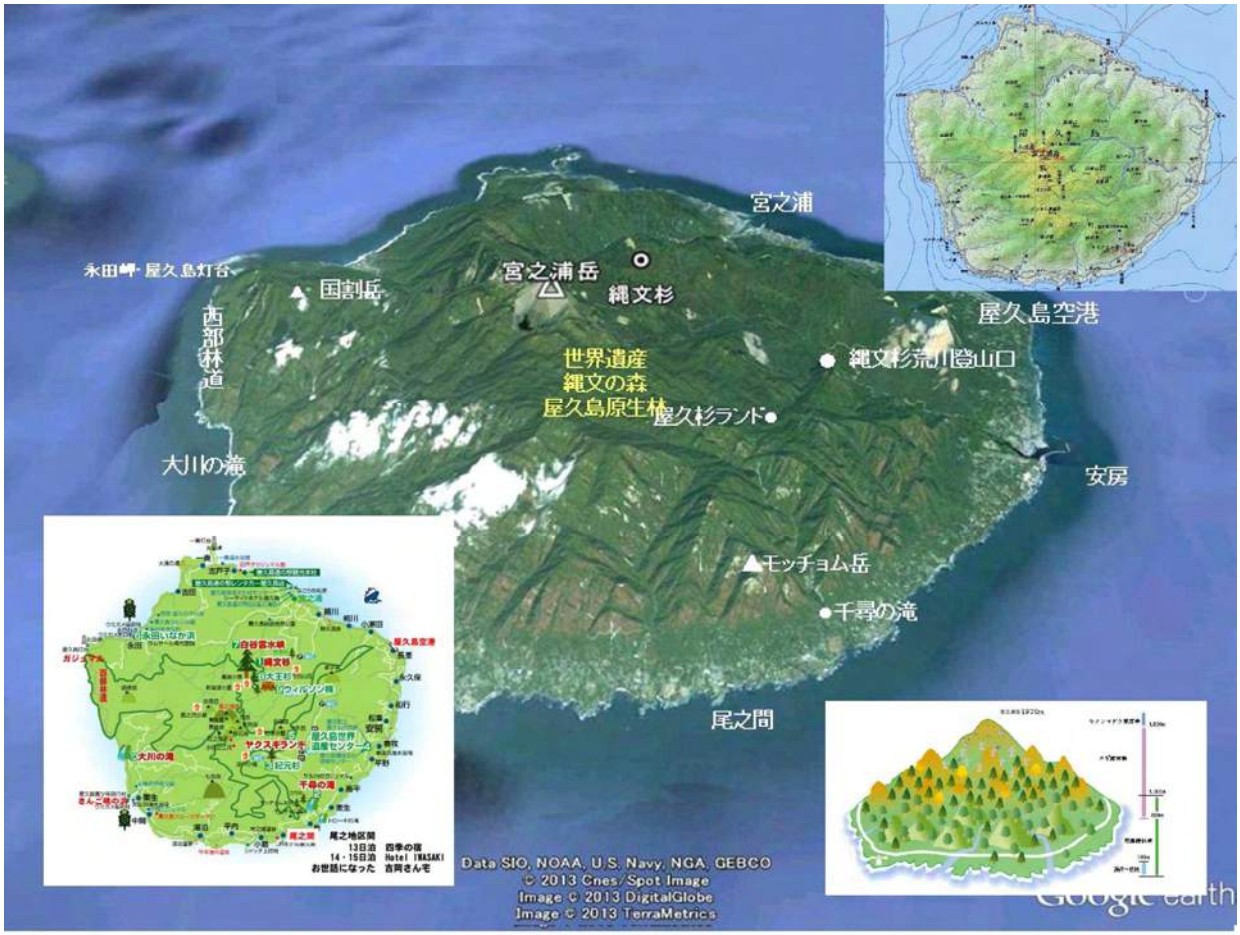
◆ **4.15.　照葉樹の森　西部林道ほか見学**

夕方　吉岡邸に招いていただき　祝宴

・巨樹半日ガジュマルと照葉樹の森
・「大川の滝」&海岸から世界遺産の森林垂直分布
・粟生　さんご礁の海岸

夕方　吉岡邸に招いていただき　うれしい祝宴

◆ **4.16.　朝　それぞれ帰路に**

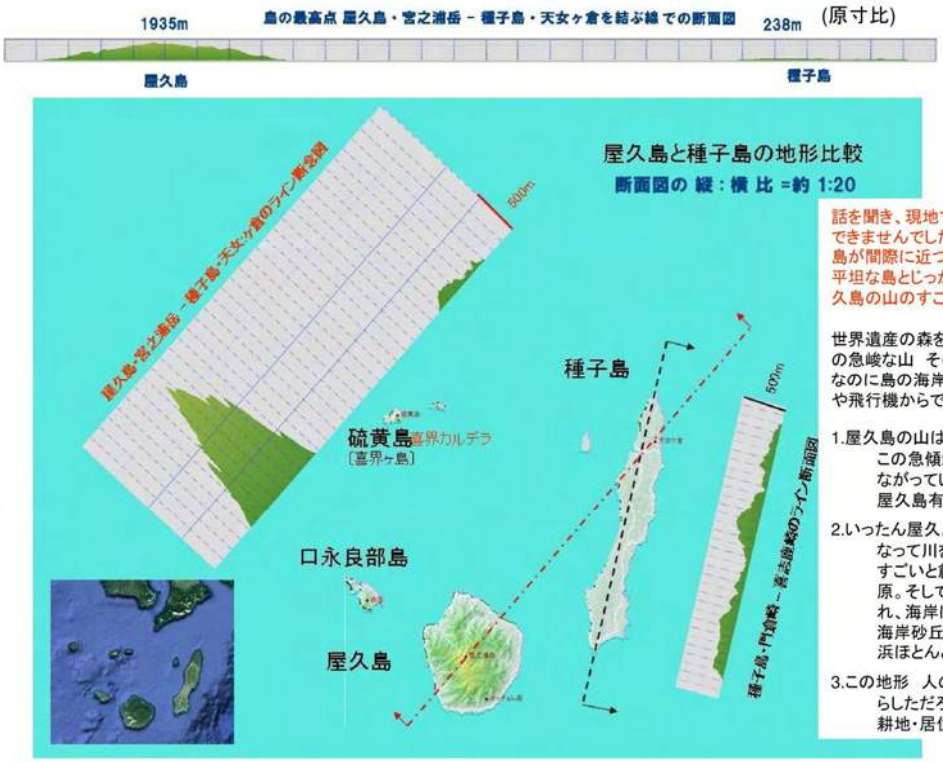


【参考】

屋久島・種子島理解のために

屋久島と種子島　隣り合う二つの島を断面図で比べてみる

種子島と比較することで屋久島の山のすごさを実感する



話を聞き、現地で見ても　そのすごさを実感できませんでしたが、海上にでて、あの種子島が間際に近づくまで　水平線にへばりつく平坦な島とじっかんされ、その対比として屋久島の山のすごさが改めて見えてきました。

世界遺産の森を今に残す原動力　屋久島の急峻な山　その主峰宮之浦岳は小さな島なのに島の海岸どこからも見えない。海上や飛行機からでないと見えないと聞く。

1.屋久島の山は海の上にそそり立つ壁。
　この急傾斜の山が海中までそのままつながっている。
　屋久島有の気候の原因が実感される。

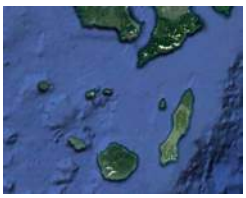
2.いったん屋久島に雨が降ると雨水は急流となって川を流れ下る。そのスピードはすごいと創造され、巨岩ゴロゴロの川原。そして　砂鉄は一気に海まで流され、海岸にとどまれない。
　海岸砂丘がほとんどない地形で砂鉄浜ほとんど形成されない。

3.この地形　人の暮らしに多大な影響をもたらしただろう。
　耕地・居住場所・人口

屋久島の眺め　　左：飛行機より安房周辺　　右：ジェット船より　宮之浦港

種子島の眺め　　左：飛行機より　門倉岬　　右：ジェット船より　西之表港

（　港の町並比較から　屋久島では街のすぐ後ろに迫力ある高い山並が並んでいるのが見て取れる）



海上から見る種子島は水平線にへばりつく線のように見える

2013.4.30.作成 by Mutsuo Nakanishi

2013.4.30.作成 by Mutsuo Nakanishi

4.

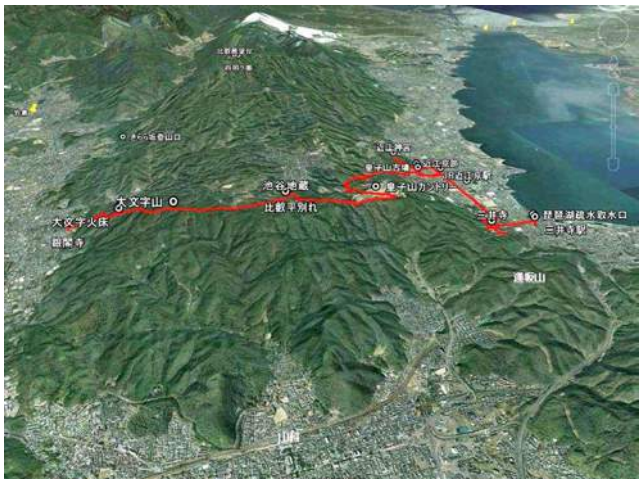
屋久島縄文杉　トレーニングハイク(最終回)

下鴨→銀閣寺から大文字山越→大津三井寺へ

長時間の下りロード　2013.4.26.

4.13.-4.16.まで　屋久島合宿に参加し、縄文杉まで行ってきました。　その最終回に予定していた「屋久島行トレーニングハイク　大文字山越のハイク」を家内が体調を崩したため、パスして屋久島へ出かけました。
屋久島から帰って、「気になるので、やっぱり大文字越して　トレーニングハイクの終了にしよう」と晴天の4.26朝　下鴨から大津へ大文字山越のハイクに出かけました。
大津への大文字山越は学生時代以来で、見る風景も新鮮。　新緑の中に咲くミツバツツジに日本しゃくなげなど思わぬ春景色にも出会え、ラッキーでした。
また、日頃見慣れた三角の秀麗な比叡山がどっしりと構えた台形の姿だったのにもびっくり。　おもわぬ比叡の姿にも出会えました。

大文字山越でみえる比叡山　左:四明岳　右:大比叡　2013.4.26.
正面　丘の上の住宅地が比叡平



1.　下鴨から銀閣寺の大文字山登山口へ

早朝の高野川 比叡山がもやっている 2013.4.26.

さつきが咲き始めた高野川土手　2013.4.26.

久しぶりに京大北部構内を抜けて北白川・銀閣寺へ　2013.4.26.

北白川街道の入り口 久しぶりに眺めるお地蔵さんと大文字山 2013.4.26.

北白川街道の入口のお地蔵さん　変わらぬお姿で　2013.4.26.

銀閣寺道の交差点で　2013.4.26.

銀閣寺前　まだ朝早いので閉門されている

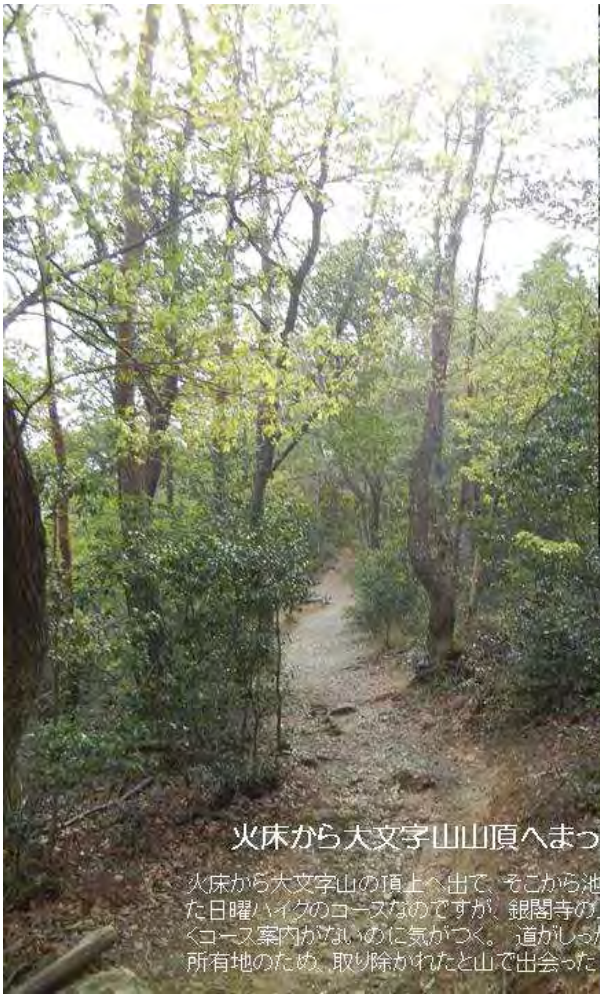
銀閣寺への坂道　2013.4.26.

銀閣寺前から吉田山を振り返る　2013.4.26.

2. 銀閣寺の登山口から、火床を経て大文字山山頂へ

石段が出てくるとすぐ上が大文字の火床　　2013.4.26.

大文字山　火床からの京都の街　展望　　2013.4.26.



火床から大文字山山頂へまっすぐ登ってゆく尾根道　2013.4.26.

火床から大文字山の頂上へ出て、そこから池谷地蔵へ下ってゆくコース　ポピュラーなコースで京都市民に親しまれた日曜ハイクのコースなのですが、銀閣寺の上り口からも含め、以前あった案内板などがすべて取り除かれ、まったくコース案内がないのに気がつく。　道がしっかりしているので、迷うことはないが、この大文字山地域はすべて個人所有地のため、取り除かれたと山で出会った日曜登山の人に教えてもらった。　でも　道はよく整備されている。

新緑の中　ミツバツツジが満開の登山道がはなやいでみえる

466m 大文字山頂上　2013.4.26.

以前は雑木林の真っ只中で、まったく展望が利かない頂上でしたが、南側の雑木林が取り払われ、正面に花山天文台そして蹴上から山科が眺められる。こんなになってるんだとびっくりでした。

3. 大文字山から池谷地蔵尊を経て大津京へ下る

大文字山を下って、如意ヶ岳の北斜面に出るとよく手入れされた杉林が広がっていました

杉林を抜けると　北側谷の向こうにどっしりとした比叡が見える　2013.4.26.

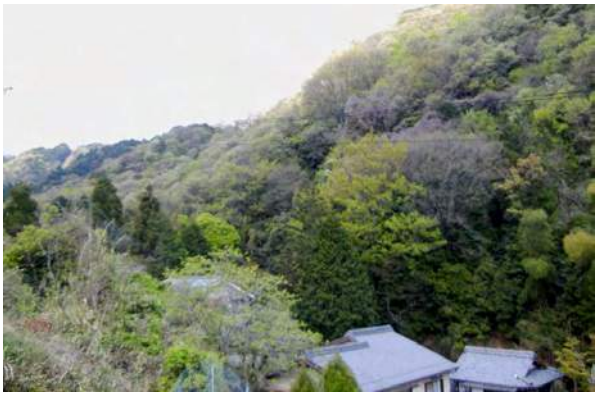
四明岳と大比叡の二つの峰が並ぶ姿にびっくり　これが比叡か…と

屋久杉を見て帰ったところで、杉の年輪が気になる　2013.4.26.

屋久杉の緻密な年輪(<0.5mm)と比べるとはるかに成長が早い

杉林に沿う林道を抜けると池谷地蔵尊の前　いきなりシャクナゲの花が飛び込んでくる

池谷地蔵尊は花の寺　2013.4.26.
数多くの山野草や薬草を育てておられた。
ここは薬草園がある深山なんだと



谷間を抜けると司会がぱっと開け、
皇子ヶ丘の市街地表示に
このまま川に沿って下れば
近江京　近江神宮前へ出る

4. 大津京(近江京)界隈の近江京関連遺跡をめぐって三井寺へ

《 近 江 神 宮 》

柳川沿いを西大津バイパスをくぐると近江神宮の前に出る。
ここは建つ大智天皇の大津京(近江京)

近江神宮　2013.4.26.

《　近江大津宮　錦織遺跡　》

史跡　近江大津宮錦織遺跡

西暦六六七年、天智天皇は新都（南の滋賀里と対峙した白鳳期の戦いが敗北に終わった後、郷部を伝鳥から近江に移しました。この近江に選ばれた地が大津宮です。天智天皇は律令制に基づいた天皇を中心とする統一国家を作ろうとしましたが、遷都後わずか五年でこの世を去り、その後に起きた王申の乱によって大津宮自体も廃墟となってしまいました。わずか五年五カ月の短命の都でした。

大津宮の位置については長らく、南志賀説、近江説説等があり、その位置については宿命に明確にすることができませんでしたが、昭和四九年にこの調査（二月）でわれた発掘調査により、事態発に整然と並ぶ大型の柱穴が十三箇発見されました。この遺構は東西に細長い建物跡と推定され、発掘された柱穴の規模や建物の規模などから、宮に関連するものとしか考えられず、ここが大津宮の有力な候補地として注目されるようになりました。その後、昭和五三年に、この建物跡の続きの部分を発掘調査したところ、さらに東に延びる柱列が発見され、このことにより、この部分は「内裏南門」と宮のなかを区切る塀であることが明らかとなりました。

ここに、長年追い求め続けられてきた大津宮の位置が確定され、昭和五四年に建物跡の見つかった部分が国の史跡に指定されました。その後に発見された宮殿遺の建物跡などの遺構がある場所も順次史跡に追加指定されています。

近江大津宮錦織遺跡　第一地点

史跡　近江大津宮錦織遺跡第一地点

昭和62年12月25日指定

今、私たちがいる地点は、大津宮の中心である内裏の東南隅にあたります。

右手に見える2列に並ぶ柱は、内裏の入口の門から東にのびる回廊の一部と考えられています。

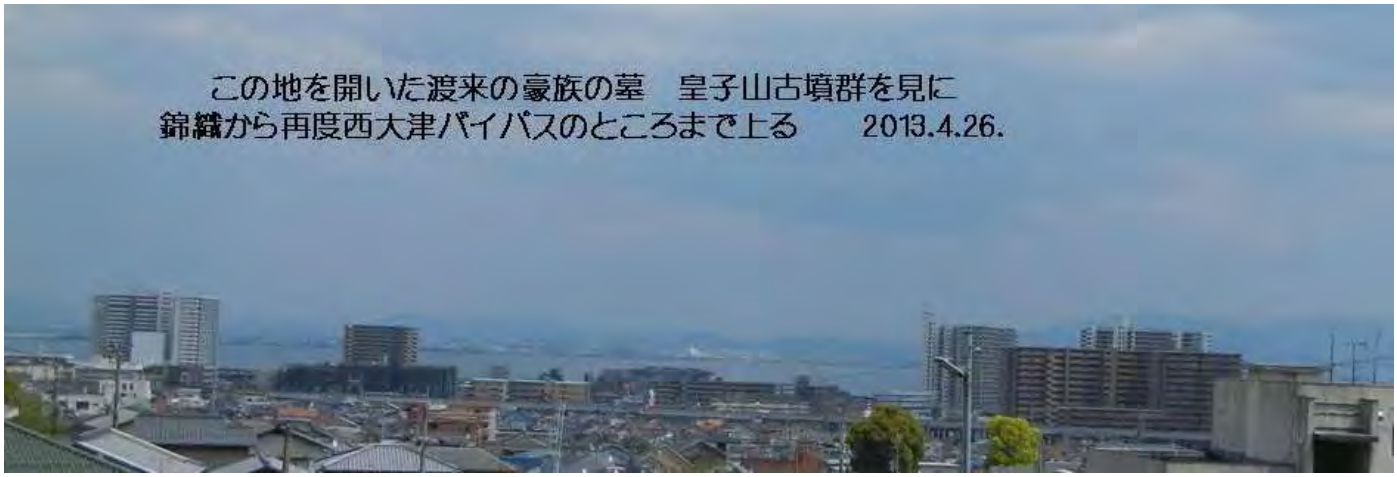
また、左手に見える1列に並ぶ柱は、回廊から北にのびる塀の一部と考えられています。

ここから北に約80m離れたところから内裏正殿の跡（「第2地点」）が見つかっていますが、この間からは何のところ、宮殿の時代の遺構は見つかっていません。

この空間は、儀式などに使われる祭具を埋納するための場所であったと考えられます。

平成10年10月

《　皇子山古墳　》



皇子山古墳と周辺の遺跡

大津市錦織一丁目

皇子山古墳が造られている錦織・皇子が丘地域は、大津宮が営まれていた地としで全国的によく知られています。しかし、この地は、大津宮遷都がうわれるかなり以前から、人々が定住し、活発に活動していたことが、いままでの発掘調査で明らかになっています。縄文時代の土器片が錦織や国鉄湖西線西大津駅付近から出土しており、遺構は発見されなかったものの、すでに、縄文時代に人々の活動がはじまっていたことがわかります。

弥生時代から古墳時代にかけて徐々に遺跡が多くなり、古墳時代の初めには近江で最も古いといわれている皇子山一号墳が琵琶湖を見下ろす皇子山の頂上に造られます。これに続いて、六世紀後半から七世紀初めにかけて、山手の丘陵一帯に小さな古墳がいくつも造られるようになります。この付近では、宇佐山の麓一帯に三〇基余りの古墳（宇佐山古墳群・山田古墳群）が知られています。当地域を含めた坂本から皇子が丘にかけての飛鳥時代の古墳は大部分が横穴式石室をもち、しかもその他の地域とは異なったドーム状の天井を有したつくりとなっており、それぞれの地域に居住する氏族の違いによるものといわれています。すなわち、ドーム状の天井をもつ横穴式石室は、当地域一帯に居住していた渡来系の氏族（錦織・大友・三津氏など）が残したものだというのが定説となっています。さらに、この渡来系の氏族たちが、のちの大津宮遷都にあたって大きな力となったことは容易に推測できると思います。いま、大津宮については、発見から一〇年、発掘調査により徐々に建物の配置などが明らかになりつつあります。いまからそう遠くない時期に、大津宮の全貌がはっきりすることでしょう。

このように、当地域は、市内でも早くから開かれた地域のひとつとして、皇子山古墳・大津宮（いずれも国指定史跡）をはじめ貴重な埋蔵文化財が多く残されています。我々は、これらの貴重な文化遺産を大切に守り、多く後世に伝えていかなければなりません。

昭和六十年三月

大津市教育委員会

皇子山古墳　1号前方後円墳　近江京が開かれる前　近江を開いた渡来の豪族の墓と見られている

《 三 井 寺 》

琵琶湖疎水　2013.4.26.

三井寺駅の東すぐの琵琶湖から取水された水が京都に流れこんでゆく。 京都の生命線。これで 京都の街から大文字山越で琵琶湖までのハイクが無事完了

風来坊 2013

5.

戦国時代の街並みがそっくり残る重要伝統的建造物群保存地区

橿原市今井町　寺内町「今井」walk　2013.5.25.

中世の環濠集落を発祥とし、称念寺を中心とした寺内町として発展した「今井」。江戸時代にも自治が行われてきた日本でも極めて珍しい歴史を持つ町である。

戦国時代には高い軍事力を誇った今井町は環濠で囲まれており、あたかも城塞都市の雰囲気。　織田信長と敵対して、本願寺とともに抗戦の構えも見せたが降伏し、町存亡の危機に直面したが、今井町ゆかりの今井宗久らのとりなしもあって町はそのまま残され、商業都市として引き続き発展。現在も広大な領域に戦国時代、江戸時代からの町並みと道路がそのまま残っている(基本的には16世紀のままと聞く)。１９９３年に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、約５００棟が昔からの建築であり、重要文化財８棟、県文化財２棟、市文化財４棟がある。現在も一般の方々が生活する、生きた町であるのも魅力。

写真やTVのコマーシャルなどで出てくる落ち着いた町並みに常々一度　訪れたかった町である。

橿原へ行く機会に畝傍山に登ろうと地図を広げていて、畝傍山のすぐ北側　JR桜井線の南に碁盤の目の町割が残る「今井」の地を見つけて、帰りに立ち寄ってきました。

　寺内町「今井」はあまりにも有名なので、町並みは残るにしても、町並みそのものが観光化していると想像していたのですが、寺内町「富田林」もそうでしたが、昔の環濠に囲まれた古い町並みの中で　かつての賑わいはありませんが、ごく普通に一般の人が生活している静かな集落。　碁盤の目の町並みとはいえ、かつての武装都市。両側にびっしり商家が建ち並ぶ街中の道はいたるところでカギ状に折れ曲がっており、街中を貫く広い道が作れなかったことが、この落

ち着いた町並みを残したのだろうか・・・。もっとも　そのため、交通の発展・そして車社会の展開から取り残され、今の町並みが残ったともいえる。
街中に車が入れないというのでなく、ちょうどヨーロッパの都市の旧市街地と同じで、対向車がすれ違える程度の幅を持つ道が碁盤の目状に町割されていて、生活道路として車は走れるのですが、通常の街中を猛スピードで走り抜けられない。　日本の車社会そして都市が転換期にある今、この落ち着いた町並みが本当の町並みではないか・・・・と。
重要伝統的建造物群の町並みを観光・商業化車優先で生活空間が忘れ去られた日本の都市を新たに見直す、いい手本と思えた寺内町「今井」ではないか・・・と。
　もちろん　、この伝統の町並みの中で暮らすには　数々の知恵と工夫があるのだとと思われますが、今回はその生活の中身に立ち入ることはできませんでした。
外側からですが、垣間見た戦国時代の街並みがそっくり残る重要伝統的建造物群保存地区寺内町「今井」の walking の写真アルバムです。

《　重要伝統的建造物群保存地区　寺内町「今井」　》

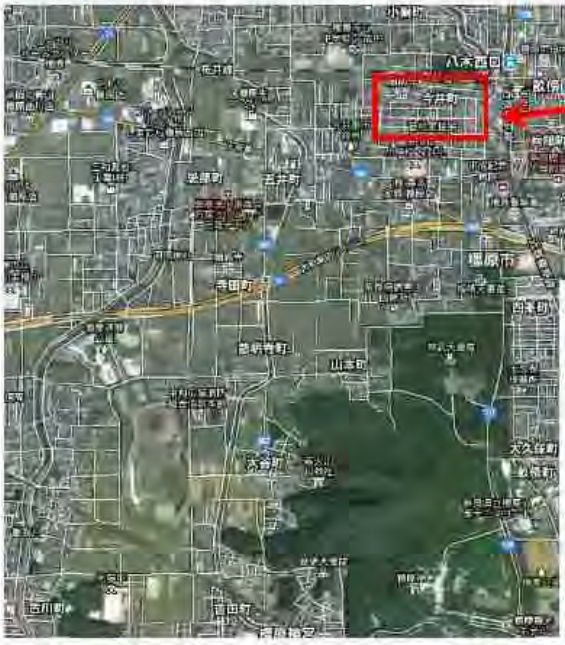
戦国時代　一向宗（浄土真宗）称念寺を中心とした寺内町として誕生した「今井」は　何度か焼き討ちにもあうが、文禄年間には　戸数１１００軒人口約４０００数百人を要する町に発展。
一向宗と敵対する織田信長に対抗するため、東西 600m、南北 310m の周囲に環濠土居を築き、西、南、東、北、新、今の六町に整然と町を分け割、9 つの門から木橋を通って濠を渡り、外部の道路と連結。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させて敵の侵入に備える」武装宗教都市を完成させ、財力豊かな町として大いに発展した。
本願寺の降伏に伴い、武装放棄しましたが、街はそのまま残り、江戸時代には商工業都市としてさらに発展。俗に、「今井千軒」「海の堺　陸の今井」と呼ばれるほどの財力を持ち、江戸幕府も一目おく自治都市になっていった。

この今井の繁栄は明治維新により富豪が消滅し、大正時代の鉄道開通で町の賑わいが大きく変化してゆくまで続いた。
現在は　かつての寺内町の町割もそのままに、江戸時代以来の伝統様式の町並みがそっくりそのまま残している。
慶安 3 年（1650）の今西家をはじめ、すぐれた民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせている。　しかも、この町並みの中で今も通常の暮らしが営まれているのも魅力。

戦国時代の街並みがそっくり残る重要伝統的建造物群保存地区

橿原市今井町　寺内町「今井」

現在も一般の方々が生活する生きた町であるのも魅力



重要伝統的建造物群保存地区　寺内町「今井」

戦国時代　一向宗(浄土真宗)称念寺を中心とした寺内町として誕生した「今井」は　何度か焼き討ちにもあうが、文禄年間には戸数1100軒人口約4000数百人を要する町に発展。
一向宗と敵対する織田信長に対抗するため、東西600m、南北310mの周囲に環濠土居を築き、西、南、東、北、新、今の六町に整然と町を分け割、9つの門から木橋を通って濠を渡り、外部の道路と連結。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させて敵の侵入に備える」武装宗教都市を完成させ、財力豊かな町として大いに発展した。
本願寺の降伏に伴い、武装放棄しましたが、街はそのまま残り、江戸時代には商工業都市としてさらに発展。
俗に、「今井千軒」「海の堺　陸の今井」と呼ばれるほどの財力を持ち、江戸幕府も一目おく自治都市になっていった。
　この今井の繁栄は明治維新により富豪が消滅し、大正時代の鉄道開通で町の賑わいが大きく変化してゆくまで続いた。
現在は　かつての寺内町の町割もそのままに、江戸時代以来の伝統様式の町並みがそっくりそのまま残している。
慶安3年(1650)の今西家をはじめ、すぐれた民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせている。しかも、この町並みの中で今も通常の暮らしが営まれているのも魅力です。

南に畝傍山、すぐ傍を飛鳥川が北へ流れ下る寺内町「今井」の入口で

寺内町「今井」は畝傍山のすぐ北側　南へ流れ下る飛鳥川の西岸にあり、すぐ北側に東西に走る桜井線の鉄橋・川に沿って東側を近鉄橿原線が走る。　近鉄八木西口駅・JR畝傍駅が　寺内町「今井」の北東側すぐ　飛鳥川対岸にある。
近鉄八木西口駅を出るとすぐ西に飛鳥川の土手で、桜井線鉄橋の傍に「今井町」の案内板がある。
有名な寺内町「今井」なので、観光名所化しているとおもっていましたが、　ひっそり案内板があるだけ。
「今井」の町の中もまったく同じで、観光化した町並みを創造していたのですが拍子抜け。
伝統的な住居群が立ち並ぶ町並みの中で　今井の人たちがごく普通に暮らしている街。
土産物屋も　町並みを利用した喫茶店もレストランもない。　もう　びっくり。
落ち着いた静かな町並み　寺内町そのものが今井の普段の暮らしの中にそっくりそのまま残っている。
奈良の観光地の真っ只中で　伝統的な住居群の中で、暮らすには規制もあり、大変なのでしょうが・・・・・。
商業化・観光化させずに町並みを残すには住民の協力なしにはできない。
テレビや写真などで見る町並みと暮らしが　何の演出もなしに目の前に広がっている。
寺内町「今井」の重要性をいまさらながら感じました。

2013.5.25　by Mutsu Nakanishi

八木西口の駅をでると JR桜井線の鉄橋が架かる葛城川の東岸
その傍らに寺内町「今井」の案内板がひっそり建っていました　2013.5.25.

南に畝傍山、すぐ傍を葛城川が北へ流れ下る寺内町「今井」の入口　2013.5.25.

高木家・河合家が並ぶ中尊坊通り

通りの左側の白い屋根が現在修復中の称念寺
残念ながら修復中で境内に入れませんでした

今井は碁盤の目に整然と町割されているが、
街中の路はいたるところで「かぎ状」に折れ曲がって、走り抜けられない

今井の町並の西端の堀端　今西家住宅の横で

「今西家住宅」

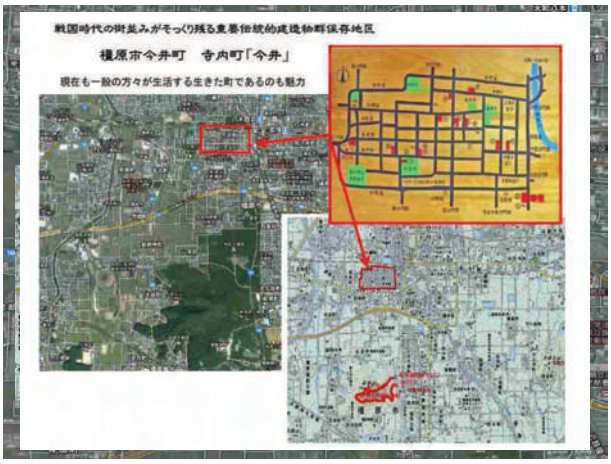
今井の惣年寄筆頭をつとめた家筋である今西家の邸宅。慶安3年(1650年)に建てられた「八つ棟」と呼ばれている建物で、国の重要文化財に指定されている。本町筋に面した建物は、白漆喰塗こめの外壁で、入母屋造り破風を前後くい違いにみせ、本瓦で葺いた城郭のような外観をもつ。中は柱をたてず広い空間があるのが特徴で、ここで裁判が行われ、いぶし牢(拷問部屋)も残っている。

現在地

旧米谷家住宅

蓮妙寺

今井・寺内町



≪　【写真アルバム】寺内町「今井」街並み Walk ≫

中世の環濠集落を発祥とし、称念寺を中心とした寺内町として発展した「今井」。江戸時代にも自治が行われてきた日本でも極めて珍しい歴史を持つ町である。
戦国時代には高い軍事力を誇った今井町は環濠で囲まれており、あたかも城塞都市の雰囲気。 織田信長と敵対して、本願寺とともに抗戦の構えも見せたが降伏し、町存亡の危機に直面したが、今井町ゆかりの今井宗久らのとりなしもあって町はそのまま残され、商業都市として引き続き発展。
現在も広大な領域に戦国時代、江戸時代からの町並みと道路がそのまま残っている(基本的には16世紀のままと聞く)。 １９９３年に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、約５００棟が昔からの建築であり、重要文化財８棟、県文化財２棟、市文化財４棟がある。 現在も一般の方々が生活する、生きた町であるのも魅力。

写真やTVのコマーシャルなどで出てくる落ち着いた町並みに実々一度　訪れたかった町である。
橿原へ行く機会に畝傍山に登ろうと地図を広げていて、畝傍山のすぐ北側　JR桜井線の南に碁盤の目の町割が残る「今井」の地を見つけて、帰りに立ち寄ってきました。
寺内町「今井」はあまりにも有名なので、町並みは残るにしても、町並みそのものが観光化していると想像していたのですが、寺内町「富田林」もそうでしたが、昔の環濠に囲まれた古い町並みの中で　かつての賑わいはありませんが、ごく普通に一般の人が生活している静かな集落。 碁盤の目の町並みとはいえ、かつての武装都市、両側にびっしり商家が建ち並ぶ街中の通はいたるところでカギ状に折れ曲がっており、街中を貫く広い通が作れなかったことが。この落ち着いた町並みを残したのだろうか・・・。もっとも　そのため、交通の発展・そして車社会の展開から取り残され、今の町並みが残ったともいえる。
街中に車が入れないというのでなく、ちょうどヨーロッパの都市の旧市街地と同じで、対向車がすれ違える程度の幅を持つ通が碁盤の目状に町割されていて、生活道路として車は走れるのですが、通常の街中を猛スピードで走り抜けられない。　日本の車社会そして都市が転換期にある今、この落ち着いた町並みが本当の町並みではないか・・・・と。
重要伝統的建造物群の町並みを観光・商業化車優先で生活空間が忘れ去られた日本の都市を新たに見直す。いい手本と思えた寺内町「今井」ではないか・・・・と。

重要伝統的建造物群保存地区　寺内町「今井」

戦国時代　一向宗（浄土真宗）称念寺を中心とした寺内町として誕生した「今井」は　何度か焼き討ちにもあうが、文禄年間には戸数1100軒人口約4000数百人を要する町に発展。
一向宗と敵対する織田信長に対抗するため、東西600m、南北310mの周囲に環濠土居を築き、西、南、東、北、新、今の六町に整然と町を分け割、9つの門から木橋を通って濠を渡り、外部の道路と連結。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させて敵の侵入に備える（武装宗教都市を完成させ、財力豊かな町として大いに発展した。
本願寺の降伏に伴い、武装放棄しましたが、街はそのまま残り、江戸時代には商工業都市としてさらに発展。
俗に、「今井千軒」「海の堺　陸の今井」と呼ばれるほどの財力を持ち、江戸幕府も一目おく自治都市になっていった。
　この今井の繁栄は明治維新により富豪が消滅し、大正時代の鉄道開通で町の賑わいが大きく変化してゆくまで続いた。
現在は　かつての寺内町の町割もそのままに、江戸時代以来の伝統様式の町並みがそっくりそのまま残っている。
慶安3年（1650）の今西家をはじめ、すぐれた民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせている。 しかも、この町並みの中で今も通常の暮らしが営まれているのも魅力です。

南に畝傍山、すぐ傍を飛鳥川が北へ流れ下る寺内町「今井」の入口で

寺内町「今井」は畝傍山のすぐ北側　南へ流れ下る飛鳥川の西岸にあり、すぐ北側に東西に走る桜井線の鉄橋・川に沿って東側を近鉄橿原線が走る。 近鉄八木西口駅・JR畝傍駅が　寺内町「今井」の北東側すぐ　飛鳥川対岸にある。
近鉄八木西口駅を出るとすぐ西に飛鳥川の土手で、桜井線鉄橋の傍に「今井町」の案内板がある。
有名な寺内町「今井」なので、観光名所化しているとおもっていましたが、　ひっそり案内板があるだけ。
「今井」の町の中もまったく同じで、観光化した町並みを創造していたのですが拍子抜け。
伝統的な住居群が立ち並ぶ町並みの中で　今井の人たちがごく普通に暮らしている街。
土産物屋も　町並みを利用した喫茶店もレストランもない。　もう　ひっそり。
落ち着いた静かな町並み　寺内町そのものが今井の普段の暮らしの中にそっくりそのまま残っている。
奈良の観光地の真っ只中で　伝統的な住居群の中で、暮らすには規制もあり、大変なのでしょうが・・・・。
商業化・観光化させずに町並みを残すには住民の協力なしにはできない。
テレビや写真などで見る町並みと暮らしが　何の演出もなしに目の前に広がっている。
寺内町「今井」の重要性をいまさらながら感じました。

2013.5.25.　by　Mutsu Nakanishi

八木西口の駅をでるとJR桜井線の鉄橋が架かる飛鳥川の東岸
その傍らに寺内町「今井」の案内板がひっそり建っていました　2013.5.25.

南に畝傍山、すぐ傍を飛鳥川が北へ流れ下る寺内町「今井」の入口　2013.5.25.

今井の町はこの土手の右手一帯に広がっている
夕方に行ったこともあって　観光客はほとんどいない
落ち着いた伝統的建造物群の町並み散策ができました

高木家・河合家が並ぶ中筋坊通り

河合家住宅

「今西家住宅」

今井の歴年寄筆頭をつとめた家筋である今西家の邸宅。慶安3年（1650年）に建てられた「八つ棟」と呼ばれている建物で、国の重要文化財に指定されている。

本町筋に面した建物は、白漆喰塗（この外壁で、入母屋造り破風を前後くい違いにみせ、本瓦で葺いた城郭のような外観をもつ。中は柱をたよりに広い空間があるのが特徴で、ここで裁判が行われ、いらし年、村間奉屋まで預っている。

落ち着いた伝統的建造物群の町並み散策ができました

風来坊 2013

6.

青空から白雲へ　新緑の風に乗って　ほのかに漂うバラの香り

須磨離宮庭園 の バラ　　2013.5.28.

あおぞらから白雲へ　今年はいつもより早い入梅宣言　春の終わりを彩る春のバラ

「須磨離宮公園のバラが今一番の見頃と教えてもらって、久しぶりに近くの須磨離宮へ

うす曇の空と新緑の須磨の山をバックに西洋式庭園の中　一面に咲くすばらしいバラを眺めてきました。

2013.5.28.　Mutsu Nakanishi

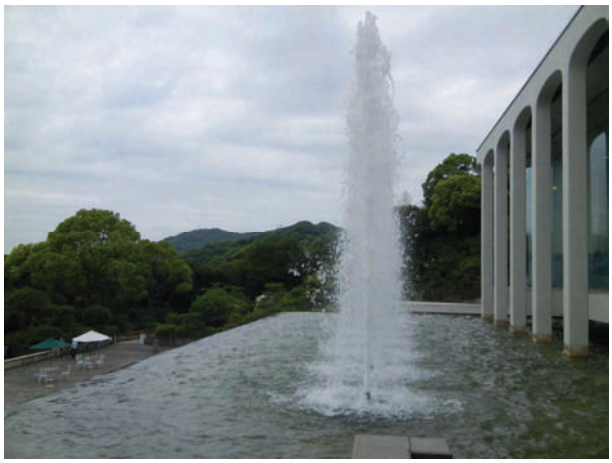
須磨浦を眺める西六甲連山の山裾の高台に須磨離宮がある　須磨離宮の正面　2013.5.28

須磨離宮公園
春のローズフェスティバル
Rose
Festival 2013
4/12(日) ▶ 6/30(日)
王侯貴族のバラ園へようこそ
花しょうぶ観賞会

青空から白雲へ
新緑の風に乗って　満開のバラの花の香りがただよう庭
庭のバラは　今が盛りと咲き誇って
例年にない満開のバラ　今年はバラの花の当たり年か???????
入梅宣言もあって　いよいよ春から初夏へ
庭先の花も華やかな春の草花に変わって　紫陽花も咲き始めましました
2013.6.1.　from Kobe
【おしまい】

青空から白雲へ
新緑の風に乗って　ほのかに漂うバラの香り
須磨離宮庭園のバラ
2013.5.28.
By Mutsu　Nakanishi

≪　【写真アルバム】須磨離宮のバラ　≫



青空から白雲へ
新緑の風に乗って　ほのかに漂うバラの香り

須磨離宮庭園のバラ

2013.5.28.

【　おしまい　】

By Mutsu　Nakanishi

青空から白雲へ

新緑の風に乗って　満開のバラの花の香りがただよう庭

庭のバラは　今が盛りと咲き誇って
例年にない満開のバラ　今年はバラの花の当たり年か???????

入梅宣言もあって　いよいよ春から初夏へ
庭先の花も華やかな春の草花に変わって　紫陽花も咲き始めましました

2013.6.1.　from Kobe

青空から白雲へ

新緑の風に乗って　満開のバラの花の香りがただよう庭

【 おしまい 】

入梅宣言もあって　いよいよ初夏へ
紫陽花が庭いっぱいを飾るのも　もうまじかです

2013.6.1.　from Kobe　By Mutsu　Nakanishi

園来坊 2013

7.

初夏の尾瀬ケ原・尾瀬沼を歩く

初夏６月　尾瀬の草花　2013.6.16.＆6.17.

東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって尾瀬へいってきました。

水芭蕉の季節には少し遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。

また、念願の尾瀬ケ原の中での小屋泊　ビールを飲みながらの夕景や朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色など尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした

東京での会で久しぶりに出かけた関東　時期的にはちょっと遅いのですが、尾瀬の水芭蕉が見たくなって、
6月16日未明　土砂降りの東京から上越新幹線「Maxたにがわ」で尾瀬への群馬側の入口　沼田・上毛高原へ
高崎を過ぎると上越国境には青空もみえる　以前同じような天候で尾瀬に入ると快晴だった　今日はラッキーと

上越新幹線　トンネルを抜けると　上毛高原駅付近　車窓から眺める水上・沼田側　雲が切れて明るい

上越新幹線　上毛高原駅の朝　シーズンの日曜日早朝とはいえ、静かなもの　2013.6.16.

梅雨とはいえ尾瀬は観光シーズン　バスに乗れるかと心配でしたが、降り立った上毛高原駅・バスで通過した沼田駅も静かなも
尾瀬の群馬側登山口　片品村の戸倉や大清水まで　ここからまだ約2時間もかかる。
いずこも同じであるが、ツアーや登山客の多くは東京から直接登山口へ高速バス・ツアーバスやマイカーで向かう

上毛高原駅からバスで利根川に合流する片品川沿いの谷間を約2時間　遡って片品村戸倉鳩待峠バス連絡所へ

尾瀬への群馬側登山口のひとつ「大清水」へは　バスでさらに東へ15分遡る　　金精峠を越えて日光へ向かう街道筋。
現在多くの人が向かう鳩待峠は　群馬から尾瀬を経て会津へ向かう古くからの沼田街道の峠道
小型バスに乗換えて北へ約20分ほどである。
尾瀬の自然保護のため現在車道は鳩待峠でストップ　　一般車の鳩待峠への通行も遮断されている。
天候も回復してきたので、尾瀬をゆっくり楽しめそうなので、尾瀬ヶ原東電小屋の宿泊を予約し、鳩待峠へ

1.　6 月 16 日　尾瀬ケ原 Walk　尾瀬ケ原に水芭蕉を訪ねる

《　鳩待峠から　尾瀬ケ原の西端　山の鼻へ　》

ツアーの人で一杯の　至仏山の山裾　尾瀬ヶ原の西の端「山の鼻」

久しぶりの尾瀬　残雪の至仏山が出迎えてくれる

《　山の鼻から　尾瀬が原の中央をまっすぐ東へ　木道を行く　》

山の鼻の湿原で水芭蕉に出会う　ちょっと時期が遅くもう　満開は過ぎて　大きな葉が目立つ

2013.6.16.

もう盛りは越えましたが　水芭蕉が　川沿いや湿原に咲いてしました
尾瀬ヶ原　山の鼻周辺で　　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　山の鼻周辺　水芭蕉の群生地で　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　山の鼻周辺　水芭蕉の群生地で　2013.6.16.

山の鼻から川上川となって尾瀬を流れ出る川の橋に出る
振り返ると残雪をいただく至仏山が堂々とした姿で座っている
この橋を渡ると　少し時期が遅いが　水芭蕉が咲く　広い上田代の湿原

橋を渡ると正面の燧ケ岳まで　池塘・湿原が拡がる広大な尾瀬ヶ原の中をまっすぐ木道が伸びている
尾瀬ヶ原　上田代　2013.6.16.

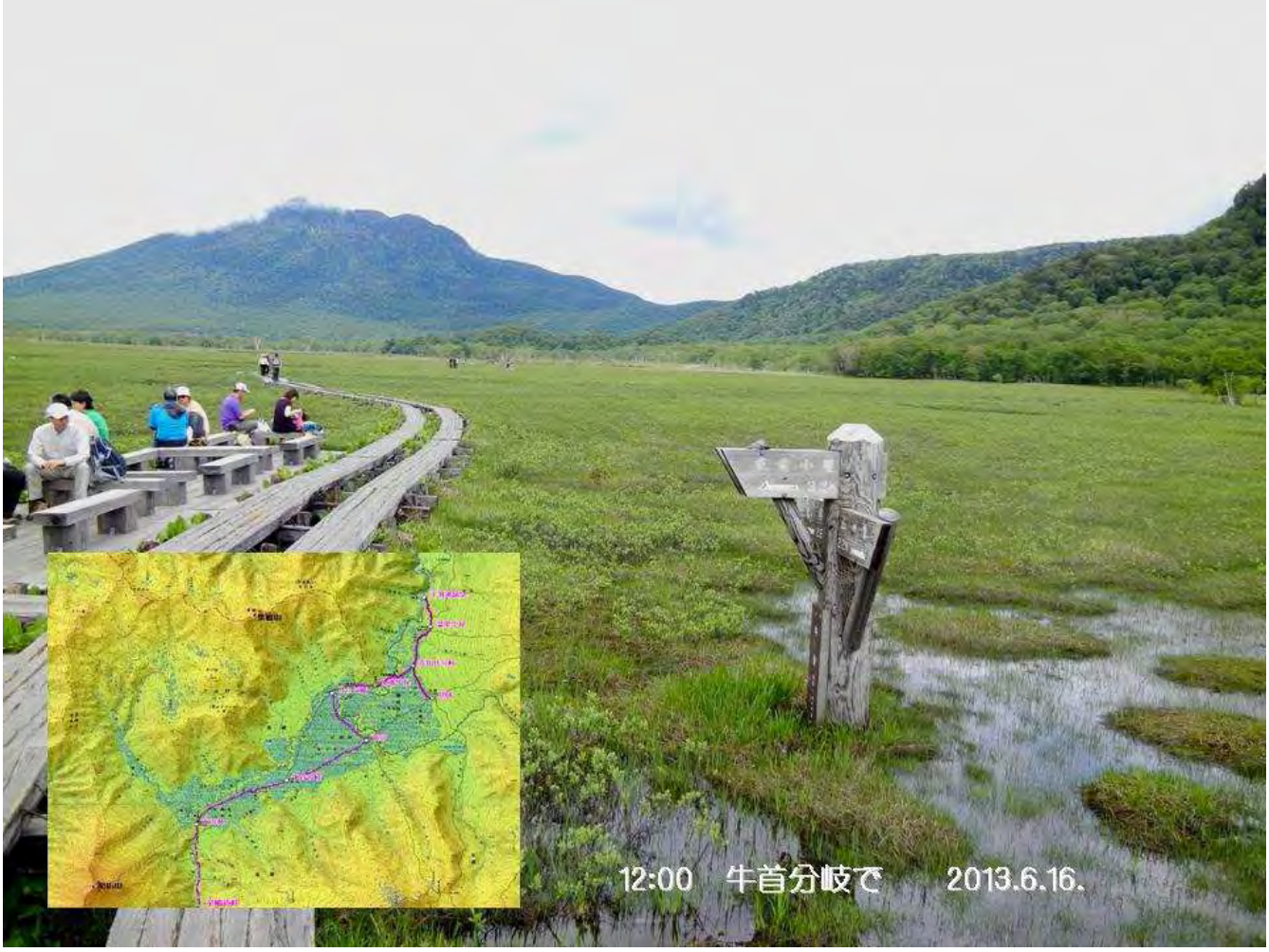
《 尾瀬ケ原　上田代湿原　2013.6.16. 》

レンゲツツジ

尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.

尾瀬ケ原の中央部では　どんどん人が減ってきて、山の鼻へ向かう人が多い
東京へその日のうちに帰りつくには　昼過ぎには　尾瀬ケ原を出ねばならないためか???

《　尾瀬ケ原の北の縁沿いを流れるヨッピ川方面への分岐　牛首　》



雲が切れ　正面に燧ケ岳、振り返ると至仏山の山頂がくっきりと広々とした尾瀬ケ原の向こうに
山に向かって　人影が少なくなった尾瀬ケ原の中央を木道が伸び、静かな尾瀬ケ原が戻ってきた

《　尾瀬ケ原の中央　中田代の池塘群　》

水芭蕉は盛りを過ぎていましたが、レンゲツツジほか　今が盛りの花が数々
湿原歩きを楽しませてくれる

ワタスゲ

オゼタイゲキ

水芭蕉

タテヤマリンドウ

ヒメシャクナゲ

チングルマ

《　湿原を流れる川が地下に消えて伏流する伏流点　竜宮　》

13:00　《竜宮》の伏流口　　2013.6.16.
左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり(伏流)、
木道の反対側一帯の湿原に噴出す「竜宮」の地名のいわれだと

竜宮周辺　中田代の水芭蕉　　2013.6.16.

ヨッピ川沿いの東電小屋へ向かう木道との分岐　竜宮十字路　奥に竜宮小屋の森が見える

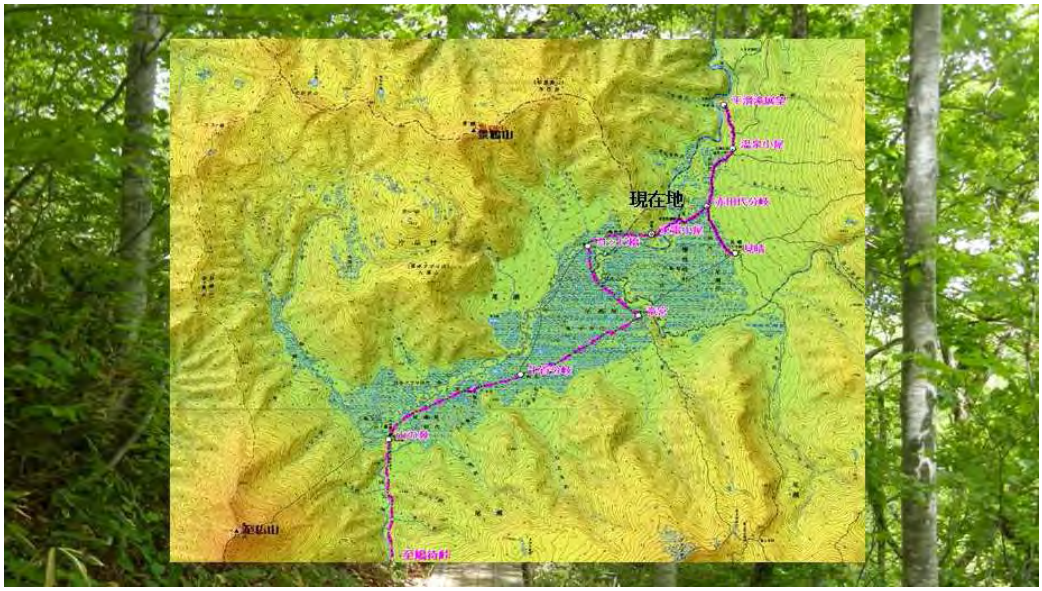
《　竜宮十字路から左　ヨッピ川沿いの東電小屋へ向かう　》

《　ヨッピ川　吊橋周辺 この橋の西側がヨッピ川　ここより東側は只見川となって東側　新潟へ流れてゆく　》

熊の多い景鶴山山麓周辺　木道の所々が橋になっていて、熊などが木道を通り抜けられる・
木道脇に設置されている熊の注意板や鐘など゛ともに　熊と人が遭遇しない工夫がなされている。

湿原の向こうに　今日の宿泊東電小屋がみえる　　2013.6.16.　2:00

《　荷物を預け　東電小屋から新潟･福島の県境の谷　只見川の流れに沿って　平滑の滝へ　》



東電小屋の北側の森には　只見川沿いの渓谷に素晴しいブナの森が広がっていました

橋を渡ると燧ケ岳の広い裾野に広がる湿原　赤田代に出て、燧ケ岳を背に広い尾瀬ケ原の東部分見渡せる

只見川沿いの谷 と 南の尾瀬ケ原 見晴との分岐　　見晴へちょっと寄り道

↓只見川 新潟 / 福島県境　　背後に燧ケ岳

(赤田代T分岐)　　(　尾瀬ヶ原　下田代　)　　↓見晴

温泉小屋・三条の滝へ← ↓ →見晴へ

赤田代　T分岐

尾瀬ヶ原の東の端　見晴

下田代の向こうに　尾瀬ケ原全体がみわたせ、　右端に残雪の至仏山も見える

正面に見晴の建物がみえてきた　**2013.6.16.**

山小屋が立ち並ぶ尾瀬ヶ原の東端《見晴》　この奥へ燧ケ岳・尾瀬沼への道が続く

見晴から　西に広がる尾瀬ヶ原全体を眺める　2013.6.16

《　赤田代に戻って　只見川沿いの谷を温泉小屋･平滑の滝へ　》

《　暮れてゆく尾瀬ケ原　　東電小屋より　2013.6.16.夕　》

小屋の前で　刻々変化して暮れゆく尾瀬の夕景を楽しむ

尾瀬の夕景を楽しみながら　今日はこの東電小屋で一泊
観光シーズンで尾瀬ケ原の山小屋はツアー客で満杯でごったがえしているが、尾瀬ケ原の本道から外れた景鶴山の麓の森にある東電小屋は満員ではあるが、静かなもの。
私も別館の2段ベットが4つ入れられた相部屋ながら、宿泊は私一人の個室が確保できました。

2. 2013.6.17. 夜明けの尾瀬ケ原　　朝霧に包まれた東電小屋周辺の散策

ヨッピの川の川霧をも期待したのですが、川霧はありませんでした

湿原の草の頭を白くしているのは蜘蛛の網が原因か???

朝霧が動分薄くなってくると　湿原の表情がよく見えてくる　2013.6.17.
湿原の草の頭に夜露がついて白くなって　押し寄せてくる白い波のようになっている

樹木の新芽にも水滴がいてこんな景色に

5:45　尾瀬ケ原の朝の景色　早朝の散策から戻って
朝日に小屋の影が湿原に映し出され、至仏山の頂上も見え出した
6時の朝食を済ませて　出発だ

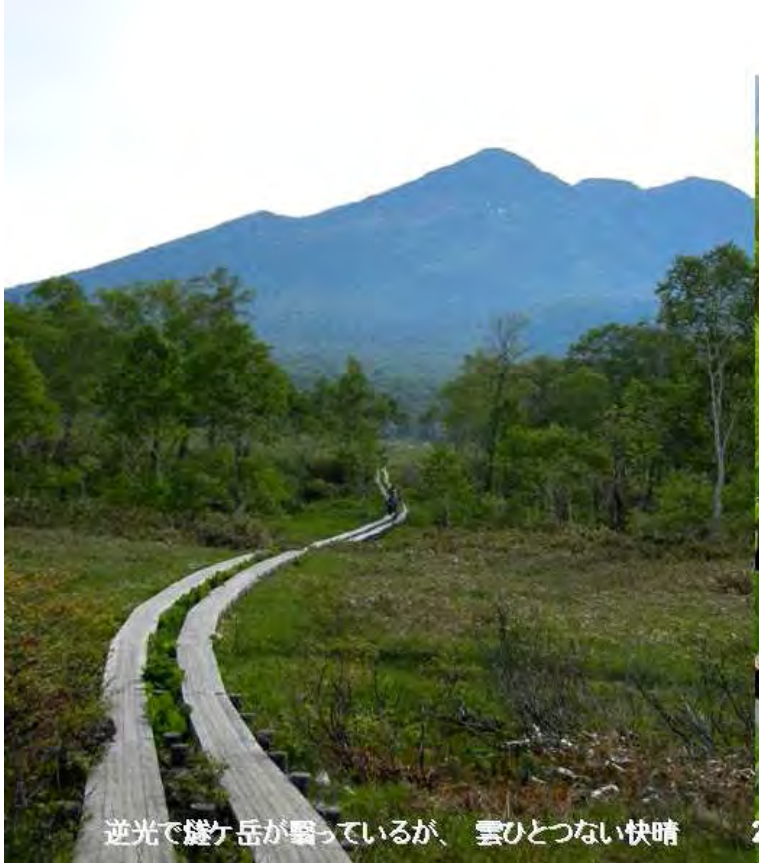
3.　6月17日　尾瀬ケ原から尾瀬沼へ　尾瀬ケ原から尾瀬沼へ出て　三平峠から大清水へ下る

《　6 月 17 日　尾瀬ケ原から尾瀬沼へ　尾瀬ケ原中央を横切って　竜宮へ　　》

朝 6 時 30 分東電小屋を出発して　朝霧の漂う尾瀬ケ原竜宮へ戻って　そこから尾瀬沼へ向かう

ヨッピの吊橋から 竜宮 十字路に出て まだ７時前 尾瀬ケ原に人影なし 2013.6.17.

逆光でシルエットしか見えない燧ケ岳へ向かって歩く 竜宮小屋の森を通り抜けて見晴らしへ



逆光で燧ケ岳が霞っているが、 雲ひとつない快晴

2013.6.17.竜宮→見晴で

燧ケ岳の麓の林の中に見晴の建物が見えてきました

《　見晴から尾瀬沼へ　沼尻川が流れ下る谷を遡って　尾瀬沼へ　2013.6.17.　7;17　》

《　谷筋が明るくなって　木道に残雪　沼尻川の瀬音が大きく聞こえてくると白砂乗越（白砂峠）周辺　》

尾瀬ヶ原側と尾瀬沼側を隔てる白砂峠　2013.6.17.

白砂峠を越えるとまもなく尾瀬沼への入り口　白砂田代　まだ尾瀬沼は見えないが周囲の森の景色が素晴しい

《　白砂田代湿原で　》

静寂に包まれた森と池塘　そして初夏の緑の濃淡の美しさには　思わず東山魁夷の世界だと　2013.6.17.

甘砂田代を抜けると又森の中。この周辺 ピンクのツツジ（ムラサキシオツツジ）が美しい 2013.6.17.

ピンクのツツジ（ムラサキシオツツジ）が美しい 2013.6.17.

《　森を抜けるとパッと視界が開け、目の前に尾瀬沼　沼尻平にでました　2013.6.17.　8:52　》

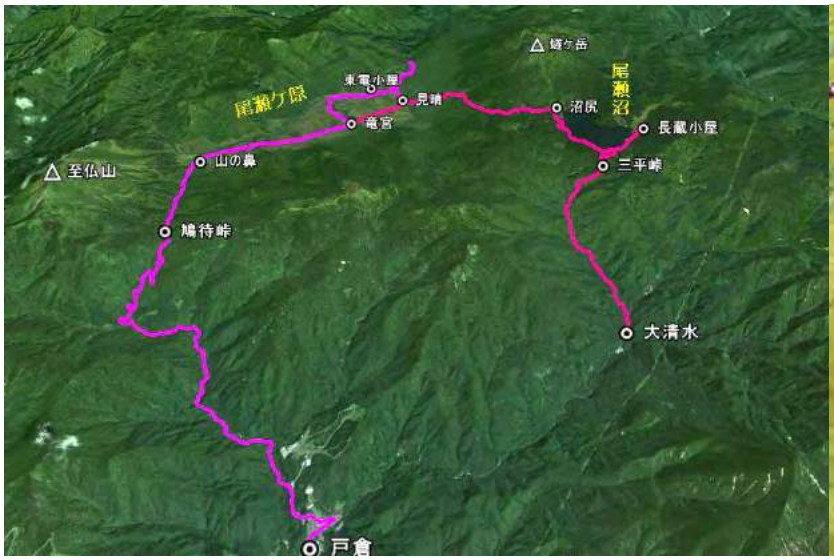
東側から眺めた沼尻平　左に尾瀬沼の岸にある休憩所　右の木道の先が白砂峠

正面南　尾瀬沼

東側

北側　燧ケ岳

沼尻平からながめる燧ケ岳　　2013.6.17.



《　沼尻から　燧ケ岳を眺めながら　人の少ない西湖岸の木道を通って長蔵小屋へ　9:00　》

次はいつになるかわからぬので、平野さんの長蔵小屋は是非見て帰りたいが、記憶にある大清水までの道は遠くて長い。　切符を取っているので　長蔵小屋から沼山峠を経て会津側へはくだらない。

コースタイムは今のところ順調なので goo。　でも　2 時過ぎには三平峠へ登らないと大清水を経て神戸までは帰れない。　水芭蕉と燧ケ岳を眺めながらの Walk　時間を気にしつつ、湖岸の木道を長蔵小屋へ

西湖岸の木道をしばらく行くと富士見峠への分岐　小屋で今は行きがあるので進めないと聞いた道との分岐

富士見峠への分岐周辺から尾瀬沼の向こうに燧ケ岳がくっきりと　　2013.6.17.

三平峠下周辺から眺めた燧ケ岳　2013.6.17.

長蔵小屋周辺で　　2013.6.17.

《　尾瀬沼　長蔵小屋　　頭にある印象とは違う長蔵小屋の横に出る　10:07　》

頭にあるのは会津側　大江湿原側から見る長蔵小屋とは随分ちがう。　こんな樹木につつまれていただろうか‥‥と。

長蔵小屋から眺める燧ケ岳　2013.6.17.

長蔵小屋から元の三平峠下へ戻る途中で眺めた草花

《　三平峠下に戻って　三平峠から大清水へ　　10:25　》

つづら折れの木道階段道を何度か折れるとあっけないほどで　三平峠にたどり着く　　2013.6.17.

尾瀬沼から大清水へ下る峠　三平峠　2013.6.17.　10:55　　ここからは大清水まで長いくだり道

峠を越えると群馬県側の山々が見え、深い谷に随分高地にいることが知れる。　2013.6.17.

急なくだり道を谷底へと降りてゆく　道はよく整備されているがきつい

山腹のトラバース道から谷筋へ降りるきつい下りに変わるともう里も近い　2013.6.17.

足には本当にきつい三平峠からの悪戦苦闘の約１時間　やっと市ノ瀬休憩所
やれやれである。　でも　ここからはまた、大清水まで１時間の車道歩きが続く

時間的には余裕が出てきたので、川の瀬音を聞きながら大清水へ下る

12:30　約 45 分ほどで　大清水の登山口に下山　一つ前のバスに乗れそう　2013.6.17.

12:30　大清水到着

12時55分上毛高原行　一本早くバスに乗れる　急いで着替えをして　蕎麦を食べてバスを待つ

4.　6月初夏　尾瀬で出会った草花　と　尾瀬の森

東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって尾瀬へいってきました。
水芭蕉の季節にはちょっと遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。

また、念願の尾瀬ケ原の中での小屋泊　ビールを飲みながらの夕景・朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色　尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした

尾瀬で見かけた初夏の花 【1】 2013.6. 16.& 17.

尾瀬で見かけた初夏の花 【2】 2013.6. 16.& 17.

尾瀬ケ原・尾瀬沼 Walk の森

鳩待峠-山の鼻　川のせせらぎを聞きながら柔らかい緑の森が続く　　2013.6.16.

尾瀬ケ原　山の鼻　2013.6.16.

尾瀬ケ原　ヨッピの林　　2013.6.16.

只見川が流れる景鶴山山麓のブナの森　　2013.6.16.

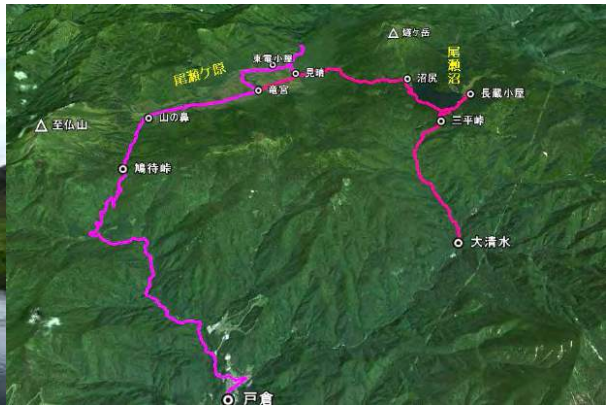
尾瀬ケ原　竜宮小屋の森

尾瀬ケ原から尾瀬沼へ抜ける燧ケ岳山腹 段小屋坂周辺　2013.6.17.

尾瀬沼　白砂田代湿原で　2013.6.17.

尾瀬沼　西岸の木道　　2013.6.17.

三平峠から大清水の山腹で　　2013.6.17.



【参考】　　【風来坊　Country Walk】尾瀬ケ原･尾瀬沼

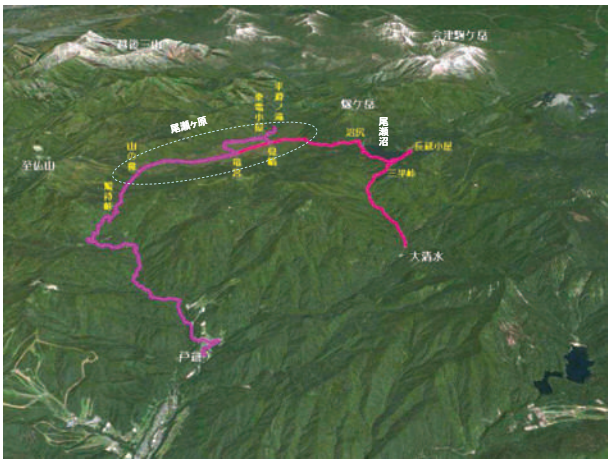
1. 尾瀬の秋　紅葉の尾瀬ヶ原　　上越側　鳩町峠から会津側御池小屋へ　　1990.10
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/mnyama02.pdf
2. 夏の尾瀬　尾瀬沼･尾瀬ヶ原　　2000.7.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/mnyama03.pdf
3. 初夏　水芭蕉の尾瀬　探勝　　2001.6.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/mnyama07.pdf

初夏の尾瀬ケ原・尾瀬沼を歩く　2013.6.16.&17.

初夏の尾瀬ケ原・尾瀬沼を歩く　2013.6.16.&17.

東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって尾瀬へいってきました。
水芭蕉の季節にはちょっと遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。

また、念願の尾瀬ケ原の中での小屋泊　ビールを飲みながらの夕景・朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色　尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした



東京での会で久しぶりに出かけた関東　時期的にはちょっと遅いのですが、尾瀬の水芭蕉が見たくなって、
6月16日未明　土砂降りの東京から上越新幹線「Maxたにがわ」で尾瀬への群馬側の入口　沼田・上毛高原へ
高崎を過ぎると上越国境には青空もみえる　以前同じような天候で尾瀬に入ると快晴だった　今日はラッキーと

上越新幹線　トンネルを抜けると　上毛高原駅付近　車窓から眺める水上・沼田側　雲が切れて明るい

上越新幹線　上毛高原駅の朝　シーズンの日曜日早朝とはいえ、静かなもの　2013.6.16.

梅雨とはいえ尾瀬は観光シーズン　バスに乗れるかと心配でしたが、降り立った上毛高原駅・バスで通過した沼田駅も静かなもの
尾瀬の群馬側登山口　片品村の戸倉や大清水まで　ここからまだ約2時間もかかる。
いずこも同じであるが、ツアーや登山客の多くは東京から直接登山口へ高速バス・ツアーバスやマイカーで向かう

上毛高原駅からバスで利根川に合流する片品川沿いの谷間を約2時間　遡って片品村戸倉鳩待峠バス運賃所へ

尾瀬への群馬側登山口のひとつ「大清水」へは　バスでさらに東へ15分遡る　金精峠を越えて日光へ向かう街道筋。
現在多くの人が向かう鳩待峠は　群馬から尾瀬を経て会津へ向かう古くからの沼田街道の峠道
小型バスに乗換えて北へ約20分ほどである。
尾瀬の自然保護のため現在車道は鳩待峠でストップ　一般車の鳩待峠への通行も遮断されている。
天候も回復してきたので、尾瀬をゆっくり楽しめそうなので、尾瀬ヶ原東電小屋の宿泊を予約し、鳩待峠へ

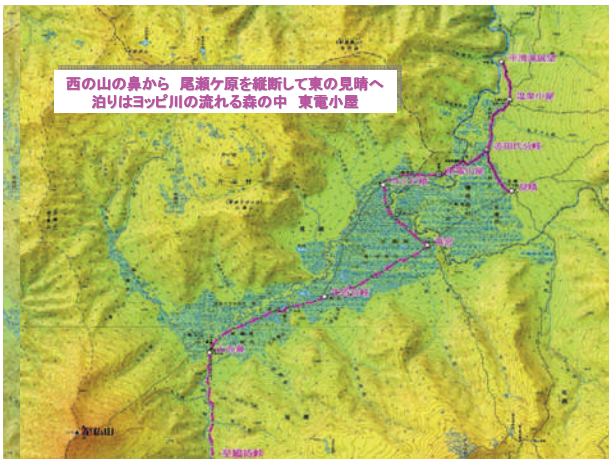
行列が続く鳩待峠から尾瀬ヶ原　山の鼻への木道　傍らにシラネアオイの花　2013.6.16.

鳩待峠から尾瀬ヶ原　山の鼻へ　2013.6.16.

木道からは　樹木の間から雪が残る至仏山が見えてくるとまもなく山の鼻

11:28　尾瀬ヶ原の西端　山の鼻　すごい人並み　2013.6.16.

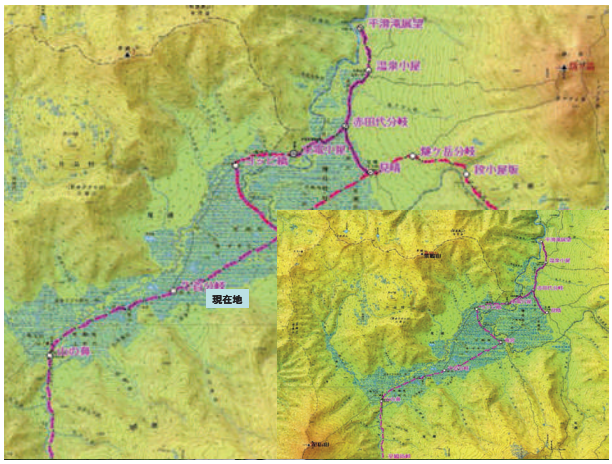
尾瀬ヶ原の西端　山の鼻　2013.6.16.

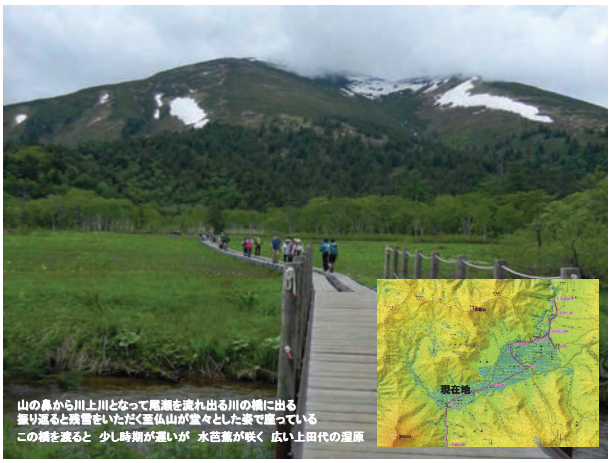


西の至仏山麓《山の鼻》から　東の燧ケ岳山麓《見晴》へ
11:30　尾瀬ヶ原の真ん中を縦断する木道を行く　2013.6.16.

尾瀬ヶ原に入ってすぐ　木道両側の湿原に水芭蕉　　山の鼻 2013.6.16.

尾瀬ヶ原に入ってすぐ　木道両側の湿原に水芭蕉　　山の鼻 2013.6.16.
木道は尾瀬を訪れたツアーの人たちが行列で一杯　尾瀬ガイドを先頭に胸や袖に"trapics" "ツーリズム"JTB旅物語"などのワッペンをつけた一団が湿原を行列をなしてゆく　スピードが合わないので　右に左に　木道を渡りながら追い越して　ゆったりと歩きながら景色を楽しめる位置取りを時ながら歩く





山の鼻から川上川となって尾瀬を流れ出る川の橋に出る
振り返ると残雪をいただく至仏山が堂々とした姿で座っている
この橋を渡ると　少し時期が遅いが　水芭蕉が咲く　広い上田代の湿原

山の鼻から川上川となって尾瀬を流れ出る川の橋から　尾瀬ヶ原の西端　至仏山と山の鼻

もう盛りは越えましたが　水芭蕉が　川沿いや湿原に咲いてしました
尾瀬ヶ原　山の鼻周辺で　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　山の鼻周辺　水芭蕉の群生地で　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　山の鼻周辺　水芭蕉の群生地で　2013.6.16.

橋を渡ると正面の燧ケ岳まで　池塘・湿原が拡がる広大な尾瀬ヶ原の中をまっすぐ木道が伸びている

尾瀬ヶ原　上田代　2013.6.16.

11:50　尾瀬ヶ原　上田代　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　上田代　2013.6.16.

正面の燧ケ岳に向かって　尾瀬ヶ原　上田代を行く　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　上田代より　振り返って　残雪の至仏山を眺める　2013.6.16.

東から　山鼻へ向かう人の列　尾瀬ヶ原　上田代で　2013.6.16.

12:00　牛首分岐で　2013.6.16.

ヨッピ川が流れる尾瀬ヶ原の西側　景鶴山が中央に見える山裾　2013.6.16.

左から尾瀬ヶ原の中央へ頭を突き出す牛首　牛首分岐より　2013.6.16.

尾瀬ヶ原のほぼ中央　牛首分岐周辺　池塘に姿を映す燧ケ岳　2013.6.16.

水芭蕉の有名な群生地　中田代　大堀川周辺　2013.6.16.

水芭蕉の有名な群生地　中田代　下ノ大堀川周辺　2013.6.16.

水芭蕉の盛りも終わり、一面大きく育った葉ばかりの群落になっていました

上ノ大堀川水芭蕉群生地で　2013.6.16.　有名な水芭蕉群生地も今は葉ばかり
でも2年前の大水で尾瀬ヶ原が水浸しで大量の砂が入って植生も大きく変わったと聞いて　心配していましたが、
ほぼ同じ水芭蕉群生地の景色が見られて安堵

水芭蕉は盛りを過ぎていましたが、レンゲツツジほか　今が盛りの花が数々
湿原歩きを楽しませてくれる

13:00　《竜宮》の伏流口　　2013.6.16.
左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり（伏流）、
木道の反対側一帯の湿原に噴出す「竜宮」の地名のいわれだと

《竜宮》の出流口　2013.6.16.
左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり、木道の反対側一帯の湿原に湧出す
竜宮の地名のいわれだと

左右の川の合流点《竜宮》の吸込み口　2013.6.16.

《竜宮》木道の反対側の湧出口側　2013.6.16.
木道の北側で水が湧き出し川になっている

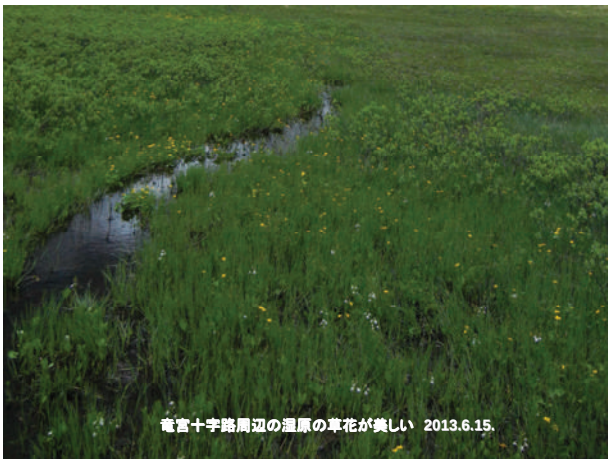
中田代　竜宮周辺　の水芭蕉
2013.6.16.

竜宮十字路周辺　2013.6.15.

竜宮十字路周辺　2013.6.15.
向こうの林の中に建つ竜宮小屋が見える

竜宮十字路からヨッピ川が流れる北側の縁の東電小屋へ　2013.6.15.

竜宮十字路からヨッピ川が流れる北側の縁の東電小屋へ　2013.6.15.
正面に見える山が尾瀬ヶ原北側に聳える燧ヶ岳　この森には数多くの熊が住むと聞く



竜宮十字路周辺の湿原の草花が美しい　2013.6.15.

木道を離れ、尾瀬ヶ原の中央を北へ横切る木道にはいると静寂そのもの
12時を過ぎ、ツアー客がほとんど尾瀬ヶ原から帰路について　静かな尾瀬がゆっくり楽しめる　尾瀬ヶ原に皆を取った特典か・・・・

ヨッピ橋の袂で牛首からヨッピ川に沿って尾瀬ヶ原の北縁の道に合流する

13:44　ヨッピ橋　2013.6.15
この周辺の森には熊が数多く生息。鹿や猪の糞が木道脇に多くも散在されている。

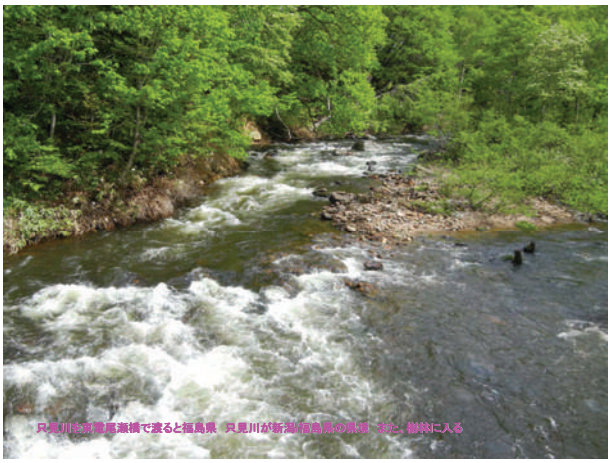
樹林を抜けるとヨシッ田代の湿原　ここにも水芭蕉が咲いていました 2013.6.16.

木道の所々黒くなった箇所になっている　人と熊が鉢合わしないための熊の通り道とのこと 2013.6.16.

田代の向こうに霧のかかった燧ヶ岳を背に今宮の湿 東電小屋の建物が樹林の中に見える 2013.6.16.

14:00　尾瀬ヶ原北線　原山の麓の樹林の中にある東電小屋 2013.6.16.

東電小屋の北側　ヨッピ川さいの川原には美しい広葉樹の森が広がっていました。このヨッピ川は北の県只見に流れ下って只見川となる。
このヨッピ川が流れ下る駒ケ岳と景鶴山系の間は深いおおいで、平滑ノ滝・三条ノと美しい滝がある。
また、時間があるので、荷物を小屋に預け、滝を見に行く。2013.6.16.



赤田代　T分岐

尾瀬ヶ原の東の端　見晴

下田代の向こうに　尾瀬ケ原全体がみわたせ、　右端に残雪の至仏山も見える

正面に見晴の建物がみえてきた　2013.6.16.

温泉小屋の横を通り抜けると谷沿い山腹の厳しい道を下る　2013.6.16.

はるか下を眺望を楽しみつつ、流れ下る川をちらちら眺めながら厳しい下りが続く。

川幅一杯を　白濁した水が轟音を響かせ、流れ下る平滑ノ滝遊歩　2013.6.16.

15:17　川幅一杯を　白濁した水が轟音を響かせ、流れ下る平滑ノ滝遊歩　2013.6.16.

どこか川が見える位置を探してくだりやしたが、滑りが大変なので　ここでストップ　元来た道を引き返す。

帰路　温泉小屋周辺から眺めた赤岳代　2013.6.16.

15:40　約2時間60分程度の難路から、小屋に入って来る。
小屋の前のベンチに座って　ビールを飲みながら、眺望の素晴らしさを楽しむ
一度やりたかった小屋泊りのゆったりとしたひと時の楽しみ　実現した。

小屋の前で　刻々変化して暮れゆく尾瀬の夕景を楽しむ

東電小屋
尾瀬の夕景を楽しみながら　今日はこの東電小屋で一泊
観光シーズンで尾瀬ケ原の山小屋はツアー客で満杯でごったがえしているが、尾瀬ケ原の本道から外れた景鶴山の麓の森にある東電小屋は満員ではあるが、静かなもの。
私も別館の2段ベットが4つ入れられた相部屋ながら、宿泊は一人の個室が確保できました。

【尾瀬WALK　第2日目　2013.6.17.】
◆　6月17日夜明け　朝霧の尾瀬ヶ原
◆　6月17日　尾瀬沼・長蔵小屋から三平峠越えで大清水へ
東電小屋→見晴→沼尻→三平峠下⇔長蔵小屋→三平峠→大清水

6.17.夜明け　楽しみにしていた朝もやの尾瀬ケ原の散策
朝モヤでかすむ尾瀬ケ原の景色が見たくて、早朝　薄明かりがさすのを待ちかねて　尾瀬ケ原の散策へ。　散策から帰って、朝6時の朝食を済ませて出発することにした。
今日は神戸まで帰るので、時間的にはさほど余裕はないが、会津側へ降りなければ何とかなるだろうと。
6.17.朝　4:45　東電小屋の夜明け
今日も快晴　梅雨がうそのようなすばらしい快晴　燧ケ岳の左肩の方から日が差し、
尾瀬ケ原には朝霧がたちこめ、日が差すと共に刻々とその表情を変えてゆきます。

6.17.朝　4:45　東電小屋の夜明け
今日も快晴　梅雨がうそのようなすばらしい快晴　燧ケ岳の左肩の方から日が差し、
尾瀬ケ原には朝霧がたちこめ、日が差すと共に刻々とその表情を変えてゆきます。

東電小屋の東ヨッピ川（只見川）沿いに広がる湿原にも朝霧が立ち込め、景鶴山を覆う雲も刻々と動いている
2013.6.17.早朝　東電小屋より

朝霧が随分薄くなってくると　湿原の表情がよく見えてくる　2013.6.17.
湿原の草の頭に夜露がついて白くなって　押し寄せてくる白い波のようになっている

霜がおりたのなら、原全体が白くなるのですが、　蜘蛛が草の間にかけた網に夜露がついて
それが白く光っているようだ。 早朝日が昇るまでの光景のようだ

ヨッピの川の川霧をも期待したのですが、川霧はありませんでした

湿原の草の頭を白くしているのは蜘蛛の網が原因か???

事実だとすると 人の入らぬ湿原には無数の蜘蛛がいるようだ

樹木の新芽にも水滴がいてこんな景色に

レンゲツツジの枝にこんな立派な網がかかっていました

夜露のついた湿原の草の葉にはこんな小沢山の水滴が…

5:45　尾瀬ケ原の朝の景色　早朝の散策から戻って
朝日に小屋の影が湿原に映し出され、至仏山の頂上も見え出した
6時の朝食を済ませて　出発だ

◆　6月17日　朝6時30分出発
尾瀬沼・長蔵小屋から　三平峠越で大清水へ帰る
東電小屋→見晴→沼尻→三平峠下⇔長蔵小屋→三平峠→大清水

6時30分　東電小屋出発　今日は尾瀬ケ原から尾瀬沼　三平峠から大清水に下山して神戸に帰る
今日は　早朝の尾瀬ケ原を散策しながら竜宮へ戻って　そこから見晴→尾瀬沼へ出て、長蔵小屋から大清水へ下山する。
タイムリミットは大清水2時15分発上毛高原行のバスに乗ること。　ひとつ前のバスにのれるかどうか･･･
一度　小屋に泊まって　夕方と朝の景色をゆったりと眺めたいとの希望が今回の東電小屋泊でかなえられて満足でした。
ツアーの人たちのコースから離れた東電小屋　シーズンとはいえ、落ち着いた静かな雰囲気だったのもラッキー。
朝食を終わって　6時30分小屋を出発。　なお、小屋の主人が須磨出身の方だったのにもびっくりした。

東電小屋の主人から、「朝モヤ見るのだったらヨッピ橋から竜宮へ尾瀬ケ原の中央部横断が一番
また、尾瀬ケ原では水芭蕉の時期はもう過ぎているが、尾瀬沼は今がいいと教えてもらって、　東
へ出て直接見晴へは行かず、早朝の尾瀬ケ原を散策しながら、西へ出て、ヨッピ橋から尾瀬ヶ原の中央を竜宮へ横切って
そこから見晴→尾瀬沼へ出て、長蔵小屋から大清水へ下山する。

ヨッピ川越しの至仏山にかかっていた雲もすっかり取れて　今日は素晴しい快晴だ　20013.6.17.

ヨッピ吊り橋を渡って尾瀬ケ原に出ると東の燧ケ岳・西の至仏山共に雲ひとつなく望えていました

尾瀬ケ原 中田代の池塘に姿を映す至仏山　2013.6.17.

尾瀬ケ原 中田代の池塘に姿を映す至仏山　2013.6.17.

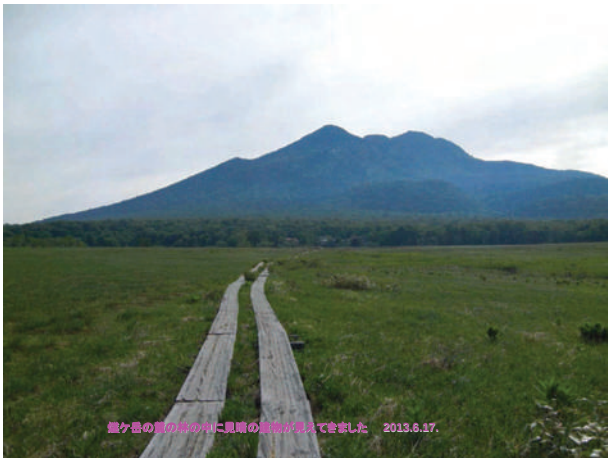
ここにも蜘蛛が立派な網をかけていました

ヨッピ吊り橋→竜宮　尾瀬ケ原中央の景色　2013.6.17.

6:50　まだ朝早くで　誰も歩いていない竜宮十字路で　2013.6.17.

東の見晴へ向かうとすぐ、尾瀬沼から流れ下ってきた沼尻川が竜宮小屋のある森を流れる　20130.6.17.

逆光で燧ケ岳が霞っているが、雲ひとつない快晴　2013.6.17.竜宮→見晴で



燧ケ岳の裾の林の中に見晴の建物が見えてきました　2013.6.17.

7:17　見晴に尾瀬沼にある長蔵小屋関連の第二長蔵小屋がありました　2013.6.17.

見晴からは　視界の開けぬ照葉樹林が美しい森の中
燧ケ岳の山裾を登って　沼尻川が流れ下ってくる谷間　段小屋坂を上って、
白砂峠越から尾瀬沼の沼尻へ出る
きつくはないが、約2時間の登りが続く

見晴の燧ケ岳・尾瀬沼への登り口　2013.6.17.
振り返ると樹木の間から下に見晴の小屋が見える

見晴から15分ほど登ると燧ケ岳への登山道を分岐　2013.6.17.
燧ケ岳はまだ雪があって　今週はまだ登れないと東電小屋で聞きました

視界の開けぬ長い段小屋坂の始まりであるが、
美しいブナやいろいろ花が咲いていて、　気持ちの良い登りである

沼尻川が流れる谷沿いに燧ケ岳の山腹を巻きながら登ってゆく道なので、
幾つもの枝沢を渡りながら登ってゆく

空が明るくなり、道がぬかるみ、木道に残雪がでてくると峠（白砂乗越）ももうまじかです　2013.6.18.

谷筋全体が見えるようになり、沼尻川の流れが見えてきました

8:27　やっと白砂峠　この峠をくだると尾瀬沼　2013.6.17.

残雪の残る白砂峠を越える　2013.6.17.

峠道脇の湿地には名前の知らない花が数つも　2013.6.17.

8:36　急な岬道を降りると白砂田代　2013.6.17.

白砂田代の山際の湿地には水芭蕉がきれいに咲いていました　2013.6.17.

白砂田代の水芭蕉(1)　2013.6.17.

白砂田代の水芭蕉(2)　2013.6.17.

白砂田代の水芭蕉(3)　2013.6.17.

白砂田代の北側には燧ケ岳の頂上が姿をのぞかせ、
取り囲む森の緑が水芭蕉以上に美麗しい　2013.6.17.　白砂田代で

白砂田代で　2013.6.17.

白砂田代で　2013.6.17.

白砂田代で　2013.6.17.

白砂田代を抜けると又森の中　この周辺　ピンクのツツジ（ムラサキシオツツジ）が美しい　2013.6.17.

ピンクのツツジ（ムラサキシオツツジ）が美しい　2013.6.17.

8:52　森を抜けるとぱっと視界が開け、尾瀬沼の北西岸　沼尻平　2013.6.17.

尾瀬沼　沼尻平　概略　（写真合成）

東側から眺めた沼尻平　左に尾瀬沼の岸にある休憩所　右の木道の先が白砂峠

正面南　尾瀬沼

東側

北側　燧ケ岳

沼尻から眺める尾瀬沼　2013.6.17.

尾瀬沼　沼尻休憩所　2013.6.17.

沼尻から眺める燧ケ岳登山道入口　2013.6.17.

沼尻の対岸　富士見峠への分岐周辺から眺めた燧ケ岳　2013.6.17.

8. ひまわりの夏

無理せず　元気にお過ごしください

2013年盛夏

ひまわりの夏　太陽に向かって一斉に笑顔を向けるひまわり

今年も野原一面を埋め尽くす　元気なひまわりの群れに出会えました

小野市　ひまわりの丘公園で　2013.7.16.

佐用町林崎　ひまわり畑　2013.7.19.

2013. 6. 16.　小野市ひまわりの丘で

2013. 6. 16.　小野市ひまわりの丘で

2013. 6. 16.　小野市ひまわりの丘で

2013. 6. 16.　小野市ひまわりの丘で

ひまわりの夏 2013

佐用町林崎 ひまわり畑で 2013.7.19.

千種川が流れ下る　たたらの郷　佐用町下野　中国道の高架橋　2013.6.19.

千種川が流れ下る山郷　佐用町　徳久地区　2013.6.19.

古代のたたらの郷で今年も元気なひまわりが咲きそろいました

佐用町林崎のひまわり畑を流れ下る千種川　2013.6.19.

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

古代たたらの郷　佐用町下野を流れ下る千種川　2013.6.19.

ひまわりの夏 2013

今年も元気なひまわりの笑顔に出会えました
自宅でもひまわりと朝顔がさいています

無理せず　元気に　この夏を乗り切りましょう

２０１３年盛夏

佐用町林崎　ひまわり畑で　2013.7.19.

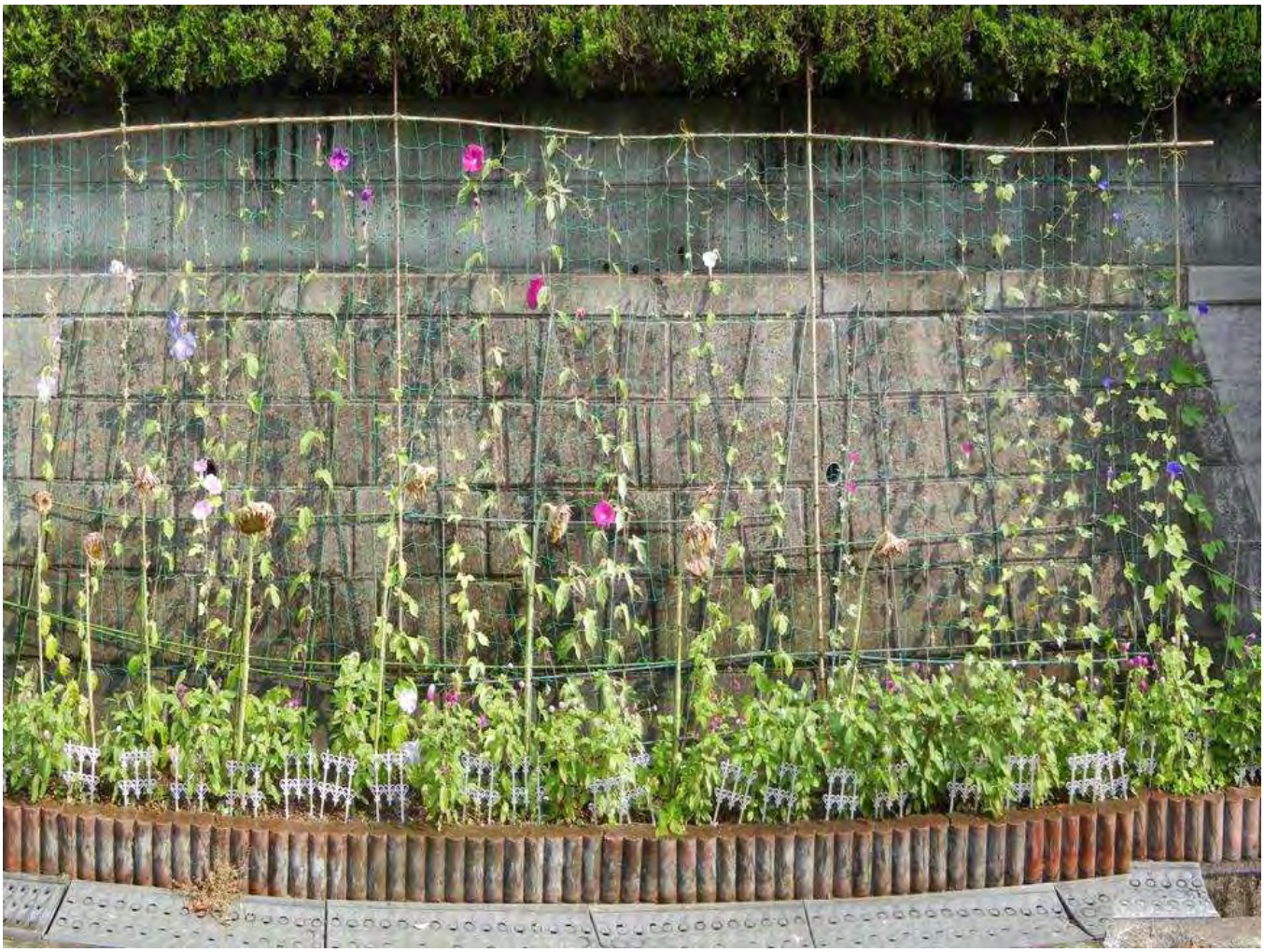
【写真手帳】

2013 年夏　朝顔帳　2013.8.10.　by Kikuko Nakanishi

夏の早起きの楽しみ　今年も数多くの朝顔が咲き、すがすがしい朝を演出してくれました
今年の我が家の朝顔帳をスライド動画にまとめました

揺めカーテン越しに、暑さ忘れては、ふっと一息。これも好きな夏のひとときな

ほおづきと朝顔が庭先の窓辺に緑のカーテンをかけてくれます。



今年は石面と空間を取って網をかけて　高く　朝顔を這わせましたが
横側からも　朝顔の姿を楽しめました

2013年夏　朝顔帳　　From Kobe　by Kikuko Nakanishi

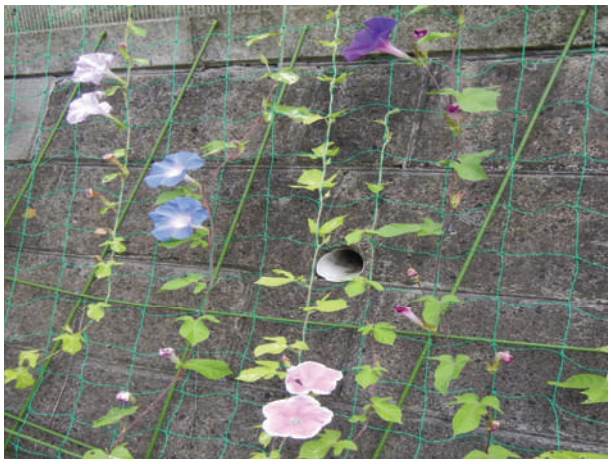
2013 年夏　朝顔帳　2013.8.10.　　by Kikuko Nakanishi

≪ 【写真アルバム】2013年夏　朝顔帳 ≫

桔梗朝顔 白
紅ちぢり

ほおづきと朝顔が庭先の窓辺に緑のカーテンをかけてくれます

緑のカーテン越しに　庭を眺めては　ふっと一息　これも好きな夏のひととき



《 2013年夏　今年咲いた朝顔を ひとつひとつ ご紹介 》

碧水

旭光

彩光錦

彩光錦

天下一

雪の円山

雪の円山

彩光錦

彩光錦

彩光錦

平安の泉

雪の円山

雪の円山

紅ちどり

花一番

新団十郎

新田十郎

万博藤娘

万博藤娘

万博藤娘

初嵐

初嵐

初嵐

平安の海

彩光錦
初嵐

初嵐

彩光錦

彩光錦

桔梗朝顔　白

桔梗朝顔　紫

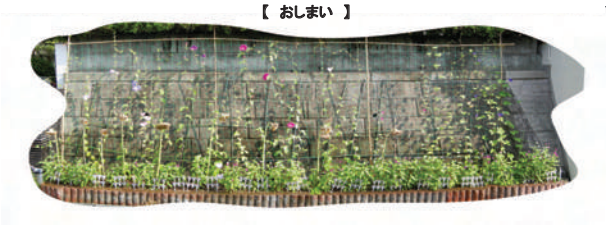
桔梗朝顔　紫

月夜野

毎朝　数多くの花が　楽しませてくれました　　From Kobe by Kikuko Nakanishi

2013年夏　朝顔帳　From Kobe by Kikuko Nakanishi

【 おしまい 】



旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」 2013. 9. 16. 夜

築地初島大神宮 だんじり と だんじりが ぶつかり合う「山あわせ」

「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて 各町内の地車（地車と書いてだんじりと読む）が引き廻され、街を練る「だんじり祭」が行われている。

私のふるさと尼崎にも 南部の旧尼崎の城下町に今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。

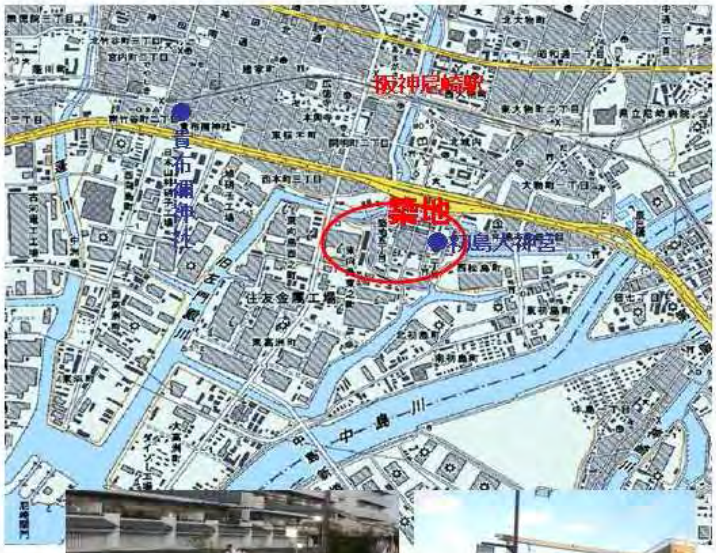
かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。
だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。
子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

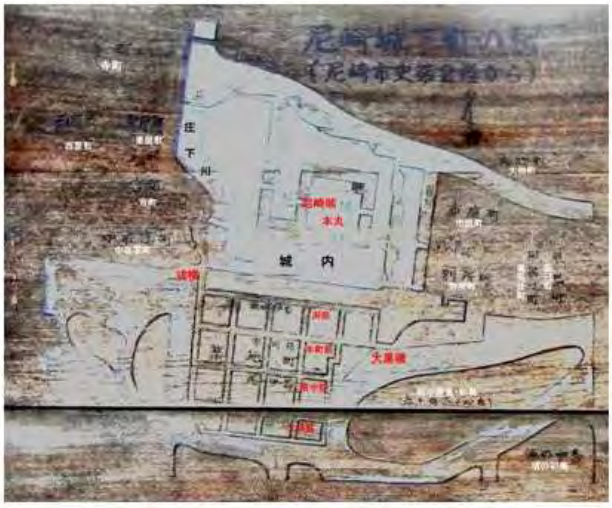
一昨年の夏　尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。
そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば　ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

昨年はよう出かけませんでしたが、この9月16日の夕方　わくわくしながら、築地初嶋大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残こる街。
この築地の南側　運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。
久しぶりに　「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



1.　尼崎城下　築地町　案内　戎橋にある案内板より



築地への西の入口　戎橋ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年(1617)から築城された尼崎城、その南方には当時葭(あし)の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(往還筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。

2.　阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通って築地　初嶋大神宮へ

阪神尼崎駅の南東側　庄下川の東側に広がる城内地区　2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、
阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景　新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、
今では尼崎の新しい顔のひとつになっている。

阪神尼崎駅に降り立ったのは**16**時**45**分　築地だんじり祭の「山あわせ」は**18**時過ぎと聞く。
たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる庄下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通って築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい町づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変化していると聞く。築地の街やその南の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。
祭の前にちょっと歩いてみたい。

阪神尼崎駅南側　庄下川に面した城内地区　かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという

江戸の初め　西の守りとして　3 重の堀に囲まれ、4 層の天守閣を持つ水城があった

尼崎城を中心とした城下　町民の町 8 町　そして　城西の町（中在家・宮町）そして　城南の築地町には 300 年続く庶民の祭「だんじり祭」が今も受け継がれ、続いている。

開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる　　2013.9.16.

ここはかつて　国鉄尼崎駅から南へ　金楽寺を通って　築地にあった尼崎港駅まで通じていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、　確か高校生の時代まで線路が残っていました
交通体系が大きく変化した今、　南には国道43号線の高架がみえ、その向こうに築地の高層住宅群が見えている

阪神高速の高架をくぐると　尼崎城下 築地町への入口　城内橋　2013.9.16

水路を渡ると築地　かつての中国街道・往還筋　築地の本町通には祭礼のちょうちんが掲げられていました

また、水路の東には大官町・小嶋の地車が「山あわせ」を待っていました

築地の東側の端周辺　だんじりの山あわせはこの公園の広場で行われる

だんじりの「山あわせ」を待つ広場

初嶋大神宮　浦の松島とよばれ、南に大小の島々が浮かぶ海が正面に広がっていた

初島大神宮にお参りを済ませましたが、まだ地車の山あわせには１時間以上あるので、築地の街から南側に広がる住金の工場群を取り囲む向島の水路に沿って、久しぶりに歩きました。

3.　築地の東端から水路に沿って　東向島をぐるりとめぐる

築地の街の南は住友鋼管（現新日鉄住金）の工場群が立ち並ぶ工場街。かつてよく通った工場ですが、高潮をされるため、ぐるりと防潮壁でかこまれ、この東向島のウォーターフロントはほとんど知らない。

築地の街の東端から南へ水路沿いに歩いて、ぐるりと１週して、築地の街の西の入口「戎橋」に戻ってきました。

ちょうど夕暮れ　水路は夕日に輝いて美しく光っていました。

築地の南東端の水路船溜り周辺で　左　北の船溜り　右　南　新中島大橋から尼崎港

東向島の工場群を取り囲む水路防潮堤と水路沿いに建ち並ぶ工場建屋

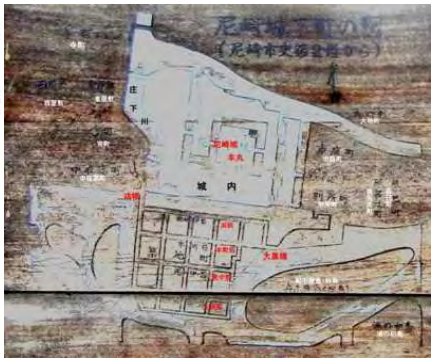
久しぶりに塀の外側から見る工場内　　向島の運河沿いより一本北の通り南側から

北側　向島と築地・中在家を別ける五合橋線　築地橋から眺める夕日

庄下川に架かる 43 号線陸橋

すぐ南側　東西の水路に架かる築地の西入口　戎橋

4.　築地本通を山あわせに向かうだんじり　いよいよ「築地だんじり祭」も最高潮



いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ

いよいよ築地の街に地車が繰り出し、大神宮も人で一杯に。御祓いを受けて出陣する地車を見に戻る

次々と各町内の地車が築地本通に集まってきて、行ったりきたり。
町中にだんじり囃子が響き渡り、順次　東の「山あわせ」の広場へ向かってゆく。

いよいよ　築地だんじり祭のクライマックス「山あわせ」が始まる

4. 築地だんじり祭のクライマックス「だんじりの山あわせ」

だんじり囃子が鳴り響く中、２台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく　肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

規制されたルールの中での戦い（演技）とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。

子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

築地の友人宅でご馳走になって、午後７時を過ぎて、いよいよ山あわせ場へ

広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。軽快なだんじり囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く　「見たかったのは　これや」と。　童心に返って楽しみました

9時を回って　興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了

「山あわせ」が終わって　みんな満足感一杯の顔

2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了

地車はそれぞれ　築地の街中へ繰り出していって　祭りのフィナーレを楽しむ

築地本通に繰り出した地車　町中が一緒になって　祭りのフィナーレを楽しむ

築地初島大神宮　だんじり祭　　2013 年 9 月 16 日夜

わがふるさと尼崎の 2013 年築地だんじり祭
誰がなんと言おうと　子供の頃を思い出しつの　血が騒ぐ祭でした
興奮で　いまだに　だんじり囃子のリズムが耳についています

【参考　和鉄の道　Country walk 】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
   50 数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf
2. 工都尼崎を支える「尼崎港　閘門（尼崎）ロック」walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf

参考　尼崎の歴史　旧尼崎城　城下町とだんじり祭り

今もだんじり祭が残る城南の築地 と 城西（中在家・宮町・屋敷町）地域

江戸時代の尼崎藩

尼崎市南部の旧尼崎城下町　8 町

尼崎の歴史 1.　旧尼崎城下町

尼崎は大阪湾の奥　淀川や猪名川・神崎川の河口に位置し、「川尻」と呼ばれ、古代から漁業の盛んなところであると共に、海路瀬戸内へ向かう重要地点。海岸沿いに数多くの島・砂洲が点在する風待ちの湊であり、その海岸には西宮で京へ向かう西国街道と分岐した脇街道　中国街道が大阪へと通じ、尼崎地域（尼崎・大物・塚口・神崎など）は港・街道・淀川から数々の物資が集まる集散地として、中世には堺と並ぶ自由都市として栄えた。

戦国時代を経て、江戸時代の初めには　尼崎の海岸に　大阪西の守りとして「3 重の堀を持ち、本丸には 4 重の天守と 3 重の櫓を有し、直接海へ出られる尼崎城とその城下町が築かれ、南浜の南端には、中国街道を通す為に木橋で東西に直行させるなど、港のある城下町として繁栄する。

尼崎の城下町は、武家屋敷の区画とは別に、町人たちが住む町屋の区画があり、城の東側の大物・辰巳・風呂辻・市庭・別所の 5 町は、中世以来の港町である大物・尼崎の区域。そして城の西側　宮町・中在家の 2 町は城の用地となった地区からそれまで砂州であった新開の地に移して作られた町である。八つ目の新しい町「築地」は、それまで城の南端を通っていた中国街道を迂回させるため、城の南側の葭島〔よしじま〕を造成して寛文 4 年（1664）につくられた。

水城がある城下町であり、港･街道･淀川から数々の物資が集まる集散地として栄えた｢尼崎｣。中世以来の港町であった大物町・東町だけでなく、城の城下として新しく作られた中在家などの城西地域や築地にも港の施設がありました。
寛永 12 年（1635）の城下絵図によれば、大物町と東町（辰巳・風呂辻・市庭・別所町）の町場には、「舟乗場」の文字や港の施設である「石カンキ（雁木〔がんぎ〕）」が描かれていて、辰巳町の長遠寺浜と大物橋のたもとの大物浜に大坂への舟乗り場があり、大物浜に面する町並みは旅籠屋が軒を並べていた。また、辰巳町には大坂への街道が通る佃島との間を往復する渡し場もあり、この渡し場が尼崎藩領の東の境だったという。
「別所浜」（別所町南側の浜）には漁業や商売の神様の戎社が祀られていて、廻船や漁船などの荷の積み下ろし、取り引きでにぎわい、別の城下絵図には、中在家町東端（庄下川の西岸）にも雁木が描かれ、また、中在家町の浜には魚市場に多数の漁船が着岸している様子が描かれている。

城下で最も人口の多い町中在家町は、南側には大阪湾にでる水路に面し、街中を走る中国街道・水路沿いには魚市場・生魚問屋をはじめ漁業関係の商人や漁師の町屋が立ち並ぶ東西に細長く延びる湊町。江戸時代　綿作用肥料として干鰯の需要が増えるとイワシを求めて関東地方にまで出漁していたこともあるなど栄え、南側の水路を通り、魚を近海や西国各地から入荷するとともに、城下や京都・大坂方面に売りさばいたという。
また、新しく尼崎城の南側　水路を隔てて　砂洲を埋め立て作られた城下町「築地」は　当初ほかの町から移住してきた人たちが住む漁師町であったが、水路の北の浜沿いには材木問屋が立ち並び、寺町の寺々を建てた大工や商家の町屋並ぶようになり、中在家と共に中国街道が通る城下町として栄えた。
そして、中在家や宮町など城西地区の地域の西北端には貴布禰神社、築地には初島大神宮が鎮座し、これらの町の発展と共に勇壮なだんじり祭りが代々受け継がれ、今に続いている。

「図説尼崎の歴史」等より抜粋整理

尼崎の歴史 2.　近代から現在までの尼崎の発展

明治に入ると農業や漁業も引き続き盛んでしたが、綿や菜種といった近世以来の商品作物や城下町の繁栄を担った中在家の魚市場などは、明治の半ば頃から徐々に衰退。しかし、明治後半から始まった海岸部の広大な埋め立て地には数多くの工場が誘致されるのを皮切りに、尼崎の臨海部は大正・昭和を通じ、重化学工業地帯として発展し、城下町も徐々に活気を取り戻し、特に旧中国街道の道筋にあたる本町通商店街（現在の国道 43 号線沿い）は、明治後半頃から昭和戦前期にかけて、阪神間でも有数の活況を呈するなど、尼崎は工業都市化が進み、人口も急速に増え、旧城下町は尼崎の中心市街地として大いに発展する。しかし、第二次世界大戦が起こると空襲と疎開で南部の旧城下町を中心とした尼崎の市街地は消失を免れた築地や寺町などを含め、かつての賑わいを失ってゆく。
戦後復興期にはいると尼崎の南部地域には重工業を中心とした大工場群が立ち並ぶ「鉄のまち」としていち早く復活を果たす。　かつて中国街道が通り、旧城下の中心だった本町通には　南部の大工場群を結ぶ東西交通の要として広い国道 43 号線が建設されると共に、工場街と居住地が南北に分断され、街の中心も北に移ってゆく。

戦後尼崎の市街地もまず商店街の再建から始まり、杭瀬・出屋敷などの商店街が活気を取り戻し、
戦時疎開と空襲によりかつての面影を失った本町通商店街の多くの店が移転、開設した中央商店街も、
これに続き、現在の阪神尼崎駅から出屋敷駅へと続く中心商店街が形成されてきました。
そして、築地や中在家などの旧城下町は中心市街地から、その地域に根ざした街へと移ってゆく。
一方、工業生産も、昭和 25 年の朝鮮戦争にともなう特需景気によって息を吹き返し、やがて高度

経済成長期にかけて、鉄鋼を中心とする工業都市尼崎が復活を遂げていきました。
この時期の尼崎にとっての最大の課題は、工業用水の汲み上げによる地盤沈下が原因となって、毎年のように繰り返される高潮被害を防ぐための防潮堤の建設でした。
特に昭和 25 年のジェーン台風は、戦前の室戸台風以上に深刻な被害を尼崎市域にもたらしました。
このため、尼崎の海岸部全域を覆う大防潮堤の建設が計画され、昭和 30 年度中に完成。
尼崎港は防潮堤の外に新たに作られた大型船岸壁とスエズ運河式の閘門から出入りする旧来の内港の二つに分かれた。

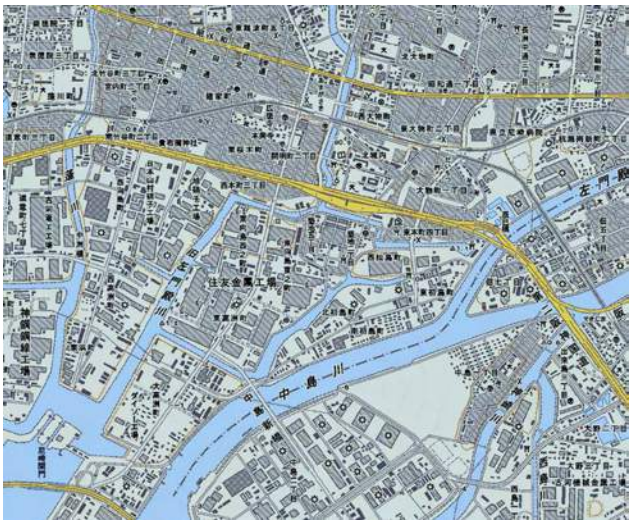
工業都市としての繁栄から脱皮し、21 世紀への新しい街づくりへ

高度経済成長期には、工業生産の拡大に加えて、北部を中心とした住宅地開発も一層進み、市域の農地は急速に失われ人口の増加も著しく、昭和 45 年には 55 万 4 千人とピークを迎えるが、同時に、地盤沈下に加えて大気汚染や河川水質汚濁、騒音等の公害問題が一層深刻となるなど、急速な都市化の弊害がさまざまな形であらわれた。
工業用水道の設置（昭和 33 年給水開始）や公害防止協定の締結（昭和 44 年第 1 次協定）など、抜本的な公害対策がはかられ、さらに昭和 48 年の第 1 次オイルショック以降、日本経済の構造変化が進むなか、戦前以来の尼崎の工業も大きな転換をせまられ、工場の転出や閉鎖、人口の減少など、都市としての活力の停滞を余儀なくされてゆく。
こうしたなか、1980 年代から 90 年代にかけて、都市環境の整備・保全や市民福祉の充実、産業構造の転換、文化の振興など、市民の生活や意識の変化、時代の要請に応じた施策が取り組まれてきた。
また、平成 7 年には阪神・淡路大震災によって大きな被害を受け、その復興もまた大きな課題となった。
このように、現在　尼崎市は引き続きさまざまな都市課題に直面しているが、これらの課題の解決と都市の活性化をめざして、21 世紀における新たなまちづくりが進められている。
そんな中で、 尼崎のだんじり祭は「尼っ子の血が騒ぐ」と尼崎の人たちの「ふるさとと」して今も街づくりの一翼を担っている。

尼崎南部の旧尼崎の城下町地域は第二次世界大戦の空襲と疎開による街の空洞化と戦後の南部重工業地帯の大きな発展によって、尼崎の中心市街地の役割を終えましたが、多くの人々が住むそれぞれの地域の中核市街地として生き続けている。そして、地域の人たちによって継承され地域の支えとなってきたのが地域伝統の祭り「だんじり祭」である。

中在家町・宮町など城西地域　「貴布禰神社のだんじり祭」
南の築地地区　築地「初嶋大神宮のだんじり祭」。

私のふるさとは旧城下町ではなく、もう少し北の地域なのですが、子供の頃　私の町にも「八幡神社のだんじり」があり、また、貴船神社や初島大神宮のだんじり祭にはよく見物に連れて行ってもらいました。
そして、耳には　あの尼崎独特のだんじり囃子の鐘の音と激しくぶつかり合うだんじりの記憶が残っていて、私もまただんじり囃子をきくと血が騒ぎます。



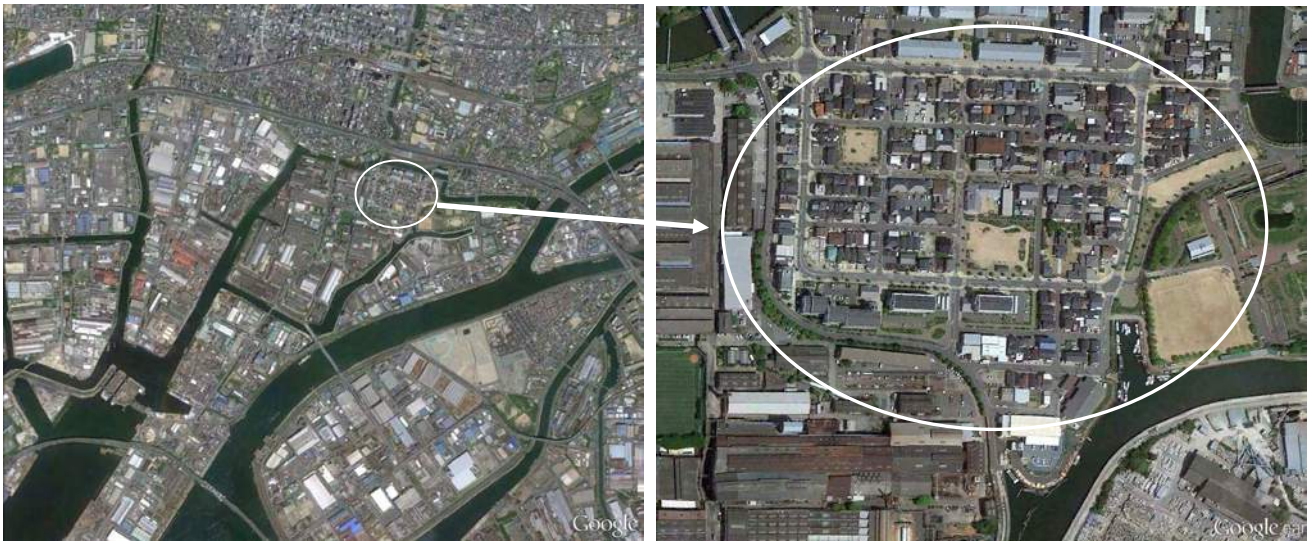
3. 尼崎の「地車・だんじり」

「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、このほか河内・和泉や神戸・尼崎などにもあり、それぞれ、神社の大祭にあわせて　各町内の地車（地車と書いてだんじりと読む）が引き回され、街を練る。そして地域によって、それぞれ地域に根ざした引き回しが行われる。

尼崎では、地車と地車が前の部分を上げてぶつかり合う尼崎独特の「山あわせ」が行われる。
かつては、街中で繰り広げられた「山あわせ」別名「だんじりのけんか」と町ではいい、かつては激しい荒くれの祭で、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止された。現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。
２台の地車が向かい合い、前の部分を上げながらぶつかりあい、上手く肩背棒といわれる棒（地車の引き棒）を先方の地車に乗せて、相手の地車を制してしまうと勝負ありという演技である。
演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中で　地車と地車がぶつかり合う戦いで、迫力満点である。

尼崎　築地だんじり祭「山あわせ」2013. 9. 16. 夜

子供の頃には　祭りというとこの「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、足が遠のいていましたが、一昨年の夏　貴布禰神社の夏祭・「だんじり祭の宮入巡行」を見て、今度はぜひ「山あわせ」を見たいと。そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番　ぜひ見においで」と声をかけてもらった。
昨年はよう出かけませんでしたが、この９月16日　「初嶋大神宮大祭のだんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。
　また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にある街で運河の南の向島地区はよく通った工場街。「山あわせ」が始まる前に　時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



かつての尼崎城下　築地の町の位置

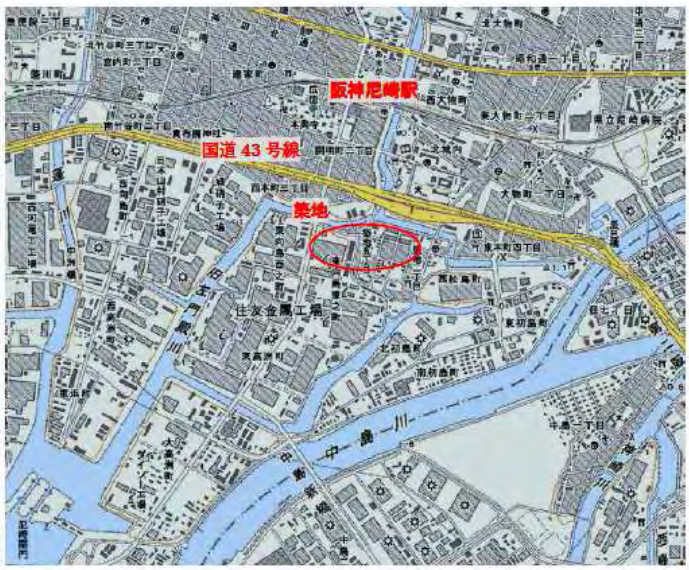
江戸時代初期に築かれたかつての尼崎城下　築地

尼崎の漁師たちや魚問屋が、関東にまで進出していたという話もあり、

東京の「築地」は　この「尼崎の築地」から名づけられたという人もいる

築地初島大神宮　だんじり祭　　2013 年 9 月 16 日夜

【参考】　今昔の尼崎城下　周辺地図



西の守りの要　城から直接海へ出られた水城　3重の堀と4層の天守閣を持つ尼崎城

現在の地図に重ねた尼崎城と城下　築地の街

明治42年尼崎町明細地図

現在のほぼ尼崎港・海岸線ができ、大工場が建ち始めている。
戦後　街の大半が地盤沈下で　ゼロメートル地帯となり、ほぼこの地図の範囲が　尼崎閘門と防潮堤で囲まれ、このさらに南が埋め立てられできた海岸町大型船岸壁が作られた

【　写真アルバム　】

旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」

築地初島大神宮　だんじり と だんじりが ぶつかり合う「山あわせ」

2013.9.16.夜　　by Mutsu Nakanishi

一昨年の夏　尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。
そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば　ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

昨年はよう出かけませんでしたが、この9月16日の夕方　わくわくしながら、築地初嶋大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残こる街。
この築地の南側　運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。
久しぶりに　「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。

旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」

築地初島大神宮　だんじり と だんじりが ぶつかり合う「山あわせ」

2013.9.16.夜

「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて　各町内の地車（地車と書いてだんじりと読む）が引き廻され、街を練る「だんじり祭」が行われている。

私のふるさと尼崎にも　南部の旧尼崎の城下町に今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。

かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。

だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。

そしてうまく　肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。

子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

一昨年の夏　尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。

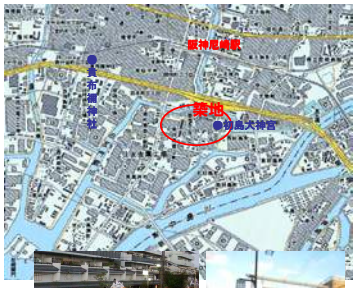
そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば　ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

昨年はよう出かけませんでしたが、この9月16日の夕方　わくわくしながら、築地初嶋大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残こる街。

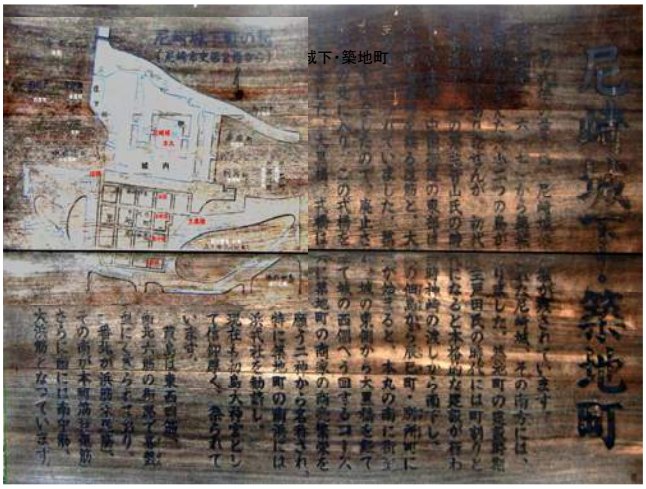
この築地の南側　運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。

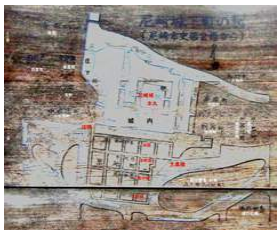
久しぶりに　「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



尼崎城下 築地町の西の入口　戎橋　2013.9.16

橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました





築地への西の入口　戎橋ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年（1617）から築城された尼崎城、その南方には当時蔦（あし）の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

蔦島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋（木屋筋）、その南が本町筋（往還筋）、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。

1．阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通って築地へ　2013.9.16.

阪神尼崎駅の南東側　庄下川の東側に広がる城内地区　2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、
阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景　新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、
今では尼崎の新しい顔のひとつになっている。

阪神尼崎駅に降り立ったのは16時45分　築地だんじり祭の「山あわせ」は18時過ぎと聞く。

たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる庄下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通って築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい町づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変化していると聞く。築地の街やその南の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。

祭の前にちょっと歩いてみたい。

尼崎の景色が大きく変化する中で、変わらぬ姿にほっとする阪神尼崎車庫の倉庫　2013.9.16.

江戸の初め　西の守りとして　3重の堀に囲まれ、4層の天守閣を持つ水城があった

阪神尼崎駅南側　庄下川に面した城内地区　かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという

尼崎城を中心とした城下　町民の町8町　そして　城西の町（中在家・宮町）そして　城南の築地町には
300年続く庶民の祭「だんじり 祭」が今も受け継がれ、続いている。

庄下川沿い、現在は中央図書館になっているが、城壁が復元された尼崎城跡　2013.9.16.

城跡公園から振り返る北側の阪神尼崎駅　今はこんなに美しいところになっているのだと
子供の頃は　ここは県立尼崎病院だった　　2013.9.16.

図書館の南側　開明橋のとおりに出ると昔にタイムスリップした感じ　　懐かしい古い建物が並んでいる　2013.9.16.
左手の南側は本丸があった辺りである

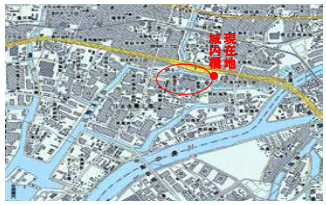
城内高校

旧中央図書館

開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる　　2013.9.16.
ここはかつて　国鉄尼崎駅から南へ　金楽寺を通って　築地にあった尼崎港駅まで通じていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、　確か高校生の時代まで線路が残っていました
交通体系が大きく変化した今、　南には国道43号線の高架がみえ、その向こうに築地の高層住宅群が見えている

国道43号線の高架橋　この高架の向こうには庄下川河口から尼崎港を巡る運河が張りめぐらされていて、
高架橋をくぐり、城内橋をわたると築地。 高架橋の向こうに だんじり の姿が見える　2013.9.16.

国道43号線の高架橋下　築地の街への入り口
高架橋南の運河にかけられた城内橋を渡ると築地である　2013.9.16.



阪神高速の高架をくぐると　尼崎城下 築地町への入口　城内橋　2013.9.16

築地の北側を東西に流れる水路に架かる城内橋から西側を眺める　2013.9.16.

築地の震災復興まちづくり

平成7年1月8日撮影

平成七年一月一七日、阪神・淡路大震災に伴う地盤の液状化により多大な被害を被った地区の住民は「まちづくりは住民の手で」を合い言葉に、震災復興まちづくりに取り組みました。

築地地区のまちづくりの目標は「明るく住み良い環境を保ち、災害に強い歴史文化的魅力のあるまちづくり」です。復興後も震災の記憶を忘れずに地区住民が一緒になってまちづくりに取り組んでいきます。

この写真は震災の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の地区の様子がよくわかります。尚、写真の中に書き込んだ町名は震災当時のものです。

橋を渡って　街中へ入らず　運河沿いを東へ
運河の向こうに　大官町・小嶋　二つの地車が見えている

ひとつ通りを南に行くとほん町通り　かつての中国街道・往還筋
通りには提灯が飾り付けられていて、西へ少し行けば初嶋大神宮
南に地車が見えるので　其処までいってからお宮さんへ

運河がカギ状に曲がる角　向こう側に　尼崎浄化センターがある広い公園の端
に本町一丁目の地車がいる　　ここがほぼ、築地の東端。
初嶋大神宮へお参りしようと西へ戻る

すぐ西側に細長いひろばがあり、ここが「山あわせ」が行われる松島公園
「山あわせ」は6時30分頃からと教えてもらった。
街のあちこちで　法被姿の地車の引き手の姿にであう　　まだ、17時　随分時間がある

「山あわせには　せまいなぁ」ときになりましたが、「山あわせ」では人は公園の中には入れず、公園の周囲から、見るのだという。「山あわせ」　がやれるように作った公園で、公園の周囲には取り囲む柵、南側には公園を見渡せる斜面・高台になっていると友達に教えてもらいました。

公園の西端にも地車が見える　丸嶋の地車でした

この公園沿いの道をぐるりと回りこむと初嶋大神宮の正面に
この通りが、築地の大浜筋　かつては海に面し　向かいには大小の島
が浮かぶ景勝地　「浦の初島」と呼ばれていたという。
また、鳥居の両側の常夜燈は文化年間　生魚を京都で売りさばいたり、
御所に納めていた仲買商仲間が寄進したものという

祭にしては夜店もないなぁ　と意外でしたが、　神社の西の通りから、
本町筋にぴっしり夜店が出ていました。

初島大神宮のすぐ南は向島　高潮防備の防潮堤を張り巡らせた住友鋼管
夕暮れ　向島の周囲を取り囲む運河の縁を久しぶりにぶらぶ歩きました

東向島運河沿いから中島新橋　その奥　阪神湾岸線　尼崎港に掛かる大橋　2013.9.16.

東向島運河沿いから北側の遠望　　工場建屋の向こうが築地　2013.9.16.

久しぶりに見る工場内運搬車用線路　　2013.9.16.

かつては長い鋼管を満載して幾台も連結した運搬車がひつきりなし
工場には「カーンカーン」と鋼管同士が接して発する甲高い音・クレーンの音など　　活
気ある音が鳴り響いていましたが・・・・

向島の真ん中を南北に尼崎港へ結ぶ五合橋線　大高洲橋の北側に出る　17:20　2013.9.16.

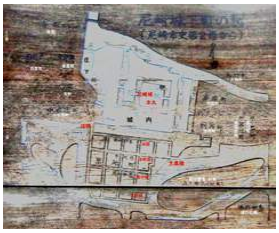
五合橋線を北へ　住友鋼管の工場群の中をぬけて　築地へ向かう　2013.9.16.

30分ほどの東向島の道路をあるきました
本当に新しい街づくりで　ウォーターフロントは楽しくなりました
築地橋の夕日がも格別でした

いったん　国道43号線まで出て、庄下川の川岸から南へ
築地の西の入口に掛かる戎橋から築地に入りました　17:43

向島をぐるりと1周して、築地の西の入口　戎橋から本町通
り・往還筋へ戻ると、だんじり囃子を響かせながら
「山あわせ」に向かう地車が次々と賑べ向かってゆく

尼崎城下 築地町の西の入口　戎橋　2013.9.16
橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました



初島大神宮横ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年（1617）から築城された尼崎城、その南方には当時蘆（あし）の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

蔵島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋（木屋筋）、その南が本町筋（往還筋）、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。

築地本通を山あわせに向かう だんじり

いよいよ「築地 だんじり 祭」の「本祭」が始まり、築地の街も最高潮

いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ

そろそろ街中もにぎやかになってきました
本通を歩いていて、築地だんじり祭りを誘ってくれた友達に出会って、
「　ええところへ来た　　大神宮でお払い受けてから、一杯やって
それから「山あわせ」に」と　　ご馳走になった

社殿に登って　御祓いを受けるのは　何十年ぶりか　巫女さんが剣を持って舞い、
頭にかざしてもらった鈴が「チリチリ」と鳴って　邪気を祓ってくれる
子供の頃といつしょだなぁ・・・・と

街には「山あわせ」に向かう地車まのだんじり囃子の音が響き渡り、にぎわってきた
築地　本町通で2013.9.16.

陽も落ちて　夕闇が迫る
街に だんじり 囃子が響き渡り
各町内の地車が 築地本通に
集まってきて、行ったりきたり。
本通りは人垣ができ、お祭り
ムードで溢れかえる

ひとしきり本通りを練った
だんじりは「山あわせ」場へ

いよいよ　だんじり 祭の
クライマックス「山あわせ」

2013年 築地 だんじり 祭「山あわせ」

だんじり 囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、
肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、
相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。
軽快な だんじり 囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く　「見たかったのは これや」と。 童心に返って楽しみました

熱気が入りすぎて、いざこざも
世話役たち・審判員　そして　警察官たちが、すぐに中央に割って入る
ルール規制の中でこの山あわせが行われていることが、よくわかる

手締めで締めて　また　山あわせが再開

9時を回って　興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了

「山あわせ」が終わって　みんな満足感一杯の顔
2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了
地車はそれぞれ　築地の街中へ繰り出していって　祭りのフィナーレを楽しむ

築地 だんじり 祭　フィナーレ　　築地本通りで
だんじり 囃子が街に鳴り響き、繰り出した人たちと だんじり が一体になって
祭の余韻を楽しむ

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと　子供の頃を思い出しつの　血が騒ぐ祭でした
興奮で　いまだに　だんじり 囃子のリズムが耳についています

築地初島大神宮　だんじり祭　　2013 年 9 月 16 日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと 子供の頃を思い出しつの 血が騒ぐ祭でした
興奮で いまだに だんじり 囃子のリズムが耳についています

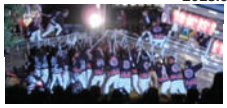
【参考 和鉄の道 **Country walk** 】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
   50数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf
2. 工都尼崎を支える「尼崎港 閘門(尼崎)ロック」**walk**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf

旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」

築地初島大神宮 だんじり と だんじりが ぶつかり合う「山あわせ」

2013.9.16.夜 by Mutsu Nakanishi



「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて 各町内の地車（地車と書いてだんじりと読む）が引き廻され、街を練る「だんじり祭」が行われている。

私のふるさと尼崎にも 南部の旧尼崎の城下町に今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。

かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。

だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。

そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。

子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでもたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

一昨年の夏 尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。

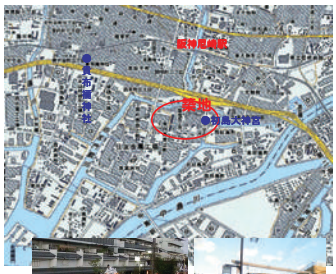
そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

昨年はよう出かけませんでしたが、この9月16日の夕方 わくわくしながら、築地初嶋大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残こる街。

この築地の南側 運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。

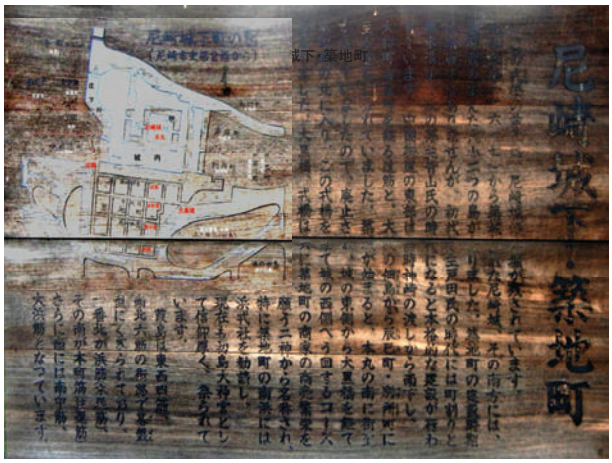
久しぶりに 「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。

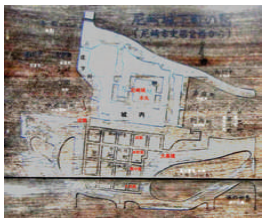


尼崎城下 築地町の西の入口 戎橋 2013.9.16

橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました

旧尼崎城下の町「築地」に残る
≪【写真アルバム】築地だんじり祭 ≫





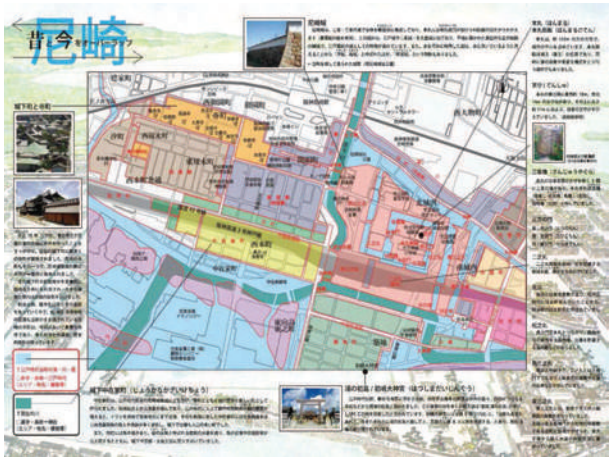
築地への西の入口 戎橋ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年（1617）から築城された尼崎城、その南方には当時葭（あし）の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋（木屋筋）、その南が本町筋（往還筋）、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



1. 阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通って築地へ 2013.9.16.

阪神尼崎駅の南東側 庄下川の東側に広がる城内地区 2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、
阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景 新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、
今では尼崎の新しい顔のひとつになっている。

阪神尼崎駅に降り立ったのは16時45分 築地だんじり祭の「山あわせ」は18時過ぎと聞く。

たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる庄下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通って築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい町づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変化していると聞く。築地の街やその南の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。

祭の前にちょっと歩いてみたい。

尼崎の景色が大きく変化する中で、変わらぬ姿にほっとする阪神尼崎車庫の倉庫　2013.9.16.

阪神尼崎駅南側　庄下川に面した城内地区　かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという
尼崎城を中心とした城下　町民の町8町　そして　城西の町（中在家・宮町）そして　城南の築地町には
300年続く庶民の祭「だんじり 祭」が今も受け継がれ、続いている。

庄下川沿い、現在は中央図書館になっているが、城壁が復元された尼崎城跡　2013.9.16.

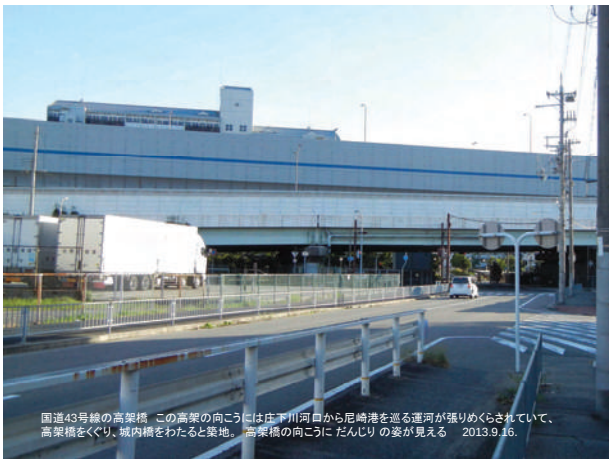
城跡公園から振り返る北側の阪神尼崎駅　今はこんなに美しいところになっているのだと
子供の頃は　ここは県立尼崎病院だった　　2013.9.16.

図書館の南側　開明橋のとおりに出ると昔にタイムスリップした感じ　　懐かしい古い建物が並んでいる　2013.9.16.
左手の南側は本丸があった辺りである

城内高校

旧中央図書館

開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる　　2013.9.16.
ここはかつて　国鉄尼崎駅から南へ　金楽寺を通って　築地にあった尼崎港駅まで通じていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、　確か高校生の時代まで線路が残っていました
交通体系が大きく変化した今、　南には国道43号線の高架がみえ、その向こうに築地の高層住宅群が見えている



国道43号線の高架橋　この高架の向こうには庄下川河口から尼崎港を巡る運河が張りめぐらされていて、
高架橋をくぐり、城内橋をわたると築地。　高架橋の向こうに だんじり の姿が見える　2013.9.16.

国道43号線の高架橋下　築地の街への入り口
高架橋南の運河にかけられた城内橋を渡ると築地である　2013.9.16.

阪神高速の高架をくぐると　尼崎城下 築地町への入口　城内橋　2013.9.16

築地の北側を東西に流れる水路に架かる城内橋から西側を眺める　2013.9.16.

築地の震災復興まちづくり

平成7年1月8日撮影

平成七年一月一七日、阪神・淡路大震災に伴う地盤の液状化により多大な被害を被った地区の住民は「まちづくりは住民の手で」を合い言葉に、震災復興まちづくりに取り組みました。

築地地区のまちづくりの目標は「明るく住み良い環境を保ち、災害に強い歴史文化的魅力のあるまちづくり」です。復興後も震災の記憶を忘れずに地区住民が一緒になってまちづくりに取り組んでいきます。

この写真は震災の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の地区の様子がよくわかります。尚、写真の中に書き込んだ町名は震災当時のものです。

橋を渡って　街中へ入らず　運河沿いを東へ
運河の向こうに　大宮町・小嶋　二つの地車が見えている

ひとつ通りを南に行くとほん町通り　かつての中国街道・往還筋
通りには提灯が飾り付けられていて、西へ少し行けば初嶋大神宮
南に地車が見えるので　其処までいってからお宮さんへ

運河がカギ状に曲がる角　向こう側に　尼崎浄化センターがある広い公園の端
に本町一丁目の地車がいる　ここがほぼ、築地の東端。
初嶋大神宮へお参りしようと西へ戻る

すぐ西側に細長いひろばがあり、ここが「山あわせ」が行われる松島公園
「山あわせ」は6時30分頃からと教えてもらった。
街のあちこちで　法被姿の地車の引き手の姿にであう　まだ、17時　随分時間がある

「山あわせには　せまいなぁ」ときになりましたが、「山あわせ」では人は公園の中には入れず、公園の周囲から、見るのだという。「山あわせ」　がやれるように作った公園で、公園の周囲には取り囲む柵、南側には公園を見渡せる斜面・高台になっていると友達に教えてもらいました。

公園の西端にも地車が見える　丸嶋の地車でした

この公園沿いの道をぐるりと回りこむと初嶋大神宮の正面に
この通りが、築地の大浜筋　かつては海に面し　向かいには大小の島
が浮かぶ景勝地　「浦の初島」と呼ばれていたという。
また、鳥居の両側の常夜燈は文化年間　生魚を京都で売りさばいたり、
御所に納めていた仲買商仲間が寄進したものという

祭にしては夜店もないなぁ　と意外でしたが、　神社の西の通りから、
本町筋にびっしり夜店が出ていました。

初島大神宮のすぐ南は向島　高潮防備の防潮堤を張り巡らせた住友鋼管
夕暮れ　向島の周囲を取り囲む運河の縁を久しぶりにぶらぶら歩きました

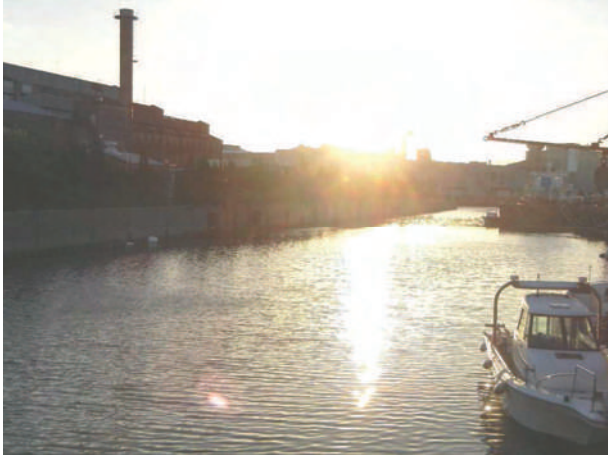
東向島運河沿いから中島新橋　その奥　阪神湾岸線　尼崎港に掛かる大橋　2013.9.16.

東向島運河沿いから北側の遠望　工場建屋の向こうが築地　2013.9.16.

久しぶりに見る工場内運搬車用線路　2013.9.16.
かつては長い鋼管を満載して幾台も連結した運搬車がひつきりなし
工場には「カーンカーン」と鋼管同士が接して発する甲高い音・クレーンの音など　活
気ある音が鳴り響いていましたが・・・・

向島の真ん中を南北に尼崎港へ結ぶ五合橋線　大高洲橋の北側に出る　17:20　2013.9.16.

五合橋線を北へ　住友鋼管の工場群の中をぬけて　築地へ向かう　2013.9.16.

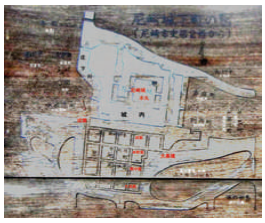


30分ほどの東向島の運河をあるきました
本当に新しい街づくりで　ウォーターフロントは美しくなりました
築地橋の夕日がも格別でした

いったん　国道43号線まで出て、庄下川の川岸から南へ
築地の西の入口に掛かる戎橋から築地に入りました　17:43

向島をぐるりと1周して、築地の西の入口　戎橋から本町通
り、住還筋へ戻ると、だんじり囃子を鳴り響かせながら
「山あわせ」に向かう地車が次々と東へ向かってゆく

尼崎城下 築地町の西の入口　戎橋　2013.9.16
橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました



初島大神宮横ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年（1617）から築城された尼崎城、その南方には当時葭（あし）の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋（木屋筋）、その南が本町筋（往還筋）、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。

築地本通を山あわせに向かう だんじり

いよいよ「築地 だんじり 祭」の「本祭」が始まり、築地の街も最高潮

いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ

そろそろ街中もにぎやかになってきました
本通を歩いていて、築地だんじり祭りを誘ってくれた友達に出会って、
「　ええところへ来た　　大神宮でお払い受けてから、一杯やって
それから「山あわせ」に」と　　ご馳走になった

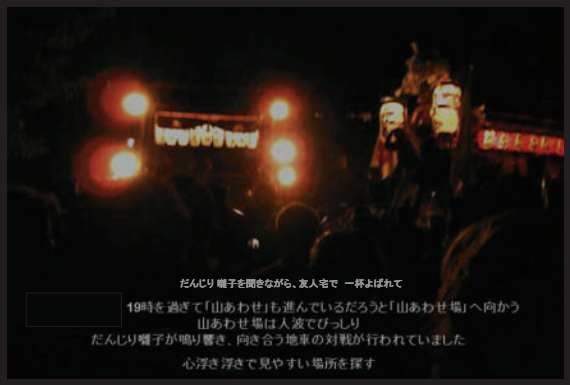
社殿に登って　御祓いを受けるのは　何十年ぶりか　巫女さんが剣を持って舞い、
頭にかざしてもらった鈴が「チリチリ」と鳴って　邪気を祓ってくれる
子供の頃といっしょだなぁ・・・・と

街には「山あわせ」に向かう地車まのだんじり囃子の音が響き渡り、にぎわってきた
築地　本町通で2013.9.16.

陽も落ちて　夕闇が迫る
街に だんじり 囃子が響き渡り
各町内の地車が 築地本通に
集まってきて、行ったりきたり。
本通りは人垣ができ、お祭り
ムードで溢れかえる

ひとしきり本通りを練った
だんじりは「山あわせ」場へ

いよいよ　だんじり 祭の
クライマックス「山あわせ」



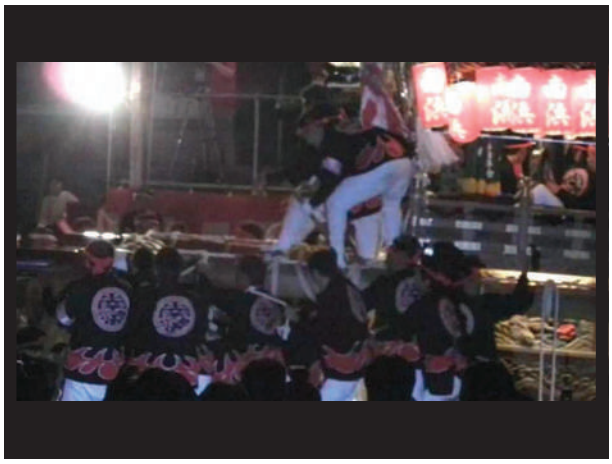
だんじり 囃子を聞きながら、友人宅で 一杯よばれて

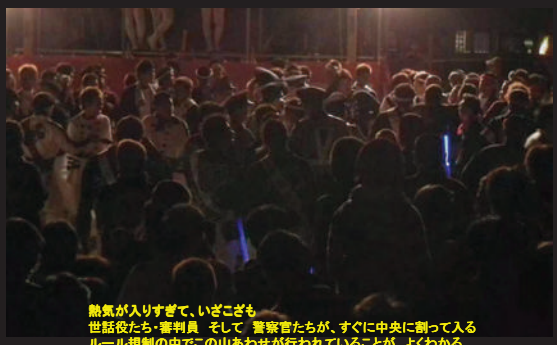
19時を過ぎて「山あわせ」も進んでいるだろうと「山あわせ 場」へ向かう
山あわせ場は人波でびっしり
だんじり囃子が鳴り響き、向き合う地車の対戦が行われていました
心浮き浮きで見やすい場所を探す

2013年 築地 だんじり 祭「山あわせ」

だんじり 囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、
肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、
相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。
軽快な だんじり 囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く 「見たかったのは これや」と。 童心に返って楽しみました





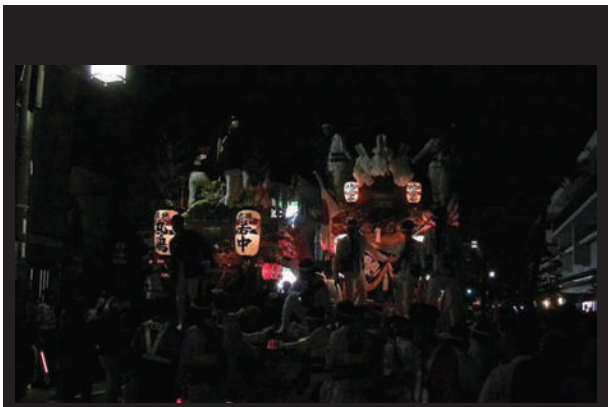
熱気が入りすぎて、いざこざも
世話役たち・審判員　そして　警察官たちが、すぐに中央に割って入る
ルール規制の中でこの山あわせが行われていることが、よくわかる

手締めで締めて　また　山あわせが再開

9時を回って　興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了

「山あわせ」が終わって　みんな満足感一杯の顔
2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了
地車はそれぞれ　築地の街中へ繰り出していって　祭りのフィナーレを楽しむ

築地 だんじり 祭　フィナーレ　　築地本通りで
だんじり 囃子が街に鳴り響き、繰り出した人たちと だんじり が一体になって
祭の余韻を楽しむ



わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと 子供の頃を思い出しつの 血が騒ぐ祭でした
興奮で いまだに だんじり 囃子のリズムが耳についています

【参考　和鉄の道　Country walk 】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
   50数年ぶり　だんじりと暴れ太鼓の宮入
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf
2. 工都尼崎を支える「尼崎港　開門（尼崎）ロック」walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf

築地初島大神宮　だんじり祭　　2013 年 9 月 16 日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと　子供の頃を思い出しつの　血が騒ぐ祭でした
興奮で　いまだに　だんじり 囃子のリズムが耳についています

風来坊 2013

11.

クレーグ・ダンカン夫妻　ビリー・スミス夫妻 ＆ マイク・スコット

ナッシュビル　Bluegrass　Music ライブ　2013.10.2.

大阪なんば「アナザー　ドーム」にて

ジャズ好きの友人から、久しぶりに大阪のライブハウスに行こう声が掛かった「Bluegrass　Music　Live」
それも、唯一私が訪づれたことのあるジャスの都「ナッシュビル」のミュジシャンによるライブコンサート
「是非とも参加する」と 10 月 2 日夜　なんばのライブハウス「アナザードーム」へ

ジャスのジャンルなど　ちんぷんかんぷんですが、アイリッシュのミュージックは何か暗くて重たく感じるのですが、アメリカの「ブルーグラス」になると明るくて好きです。
久しぶりのジャズライブの雰囲気にスカッと心地よい気分
ミュージシャンたちとも触れ合え　サインをもらったり、スナップも一緒に取れたし、
深夜まで　楽しいジャスライブの夜でした

ライブ中はカメラはだめと思っていましたが、 みんなカメラやビデオにスマートホンなど　あちこちでまわしていたので、私もデジカメ動画で撮影。デジカメ動画から写真を切り出して　私の記録として編集してみました。
私的な記録ファイルですが、雰囲気がつたわれば・・・・・。

《　ナッシュビル　Bluegrass　Music ライブ 写真アルバム　2013.10.2.夜　》

ちょうど 10 年前の 9 月　当時アトランタにいた息子の案内で、ジャズの都《ナッシュビル》におのぼりさん
そのときに行った「グランド　オプリ」を思い出しながらのライブでした

≪【写真アルバム】ナッシュビル　ブルー グラス　ライブ　大阪Anather Doream≫

マイク・スコット と クレイグ・ダンカン

ダンカン夫妻（クレイグ・ダンカン & マリリン・ダンカン）

稲葉和裕 と ビリー・スミス

出演者みんな一緒に演奏して フィナーレ

入口でCDを販売 ベギー・スミス とダンカン夫妻

ビリー&テリー・スミス

ブルーグラス系のトップ・ソングライターとしてロンサム・リバー・バンドを初めとして有名バンドに楽曲を提供してきたビリーがビリー・ブーン・スミスとして自らのバンドを率いてマディ・サンシャインからデビュー。
年齢を重ねて説得力の増したボーカルをナッシュビルの名うてのメンバーがサポート。

現在、グラスカルズのメンバーとして活躍中のテリー・スミス(bs)、ジョン・コーワン・バンドで来日を果たしたシャッド・コップ(f)、元グラスカルズでドリー・パートンのツアー・バンドを離れたデイブ・タルボット(bj)、若手のモンロー・スタイルではピカイチでアグレッシブなプレイもお得意のクリス・ヘンリー(m)、ビリーの奥さんのマリリン・スミスが参加。

ビリーの奥さんのマリリン・スミスが推奨してくれた
ビリーのCDカバーにサインをしてもらった

Country Music の 都 「ナッシュビル」 **2003.9.13.**

Nashville & Country Music コンサート「GRAND OLE OPRY」since '95

12. 写真アルバム　西神戸・東播磨に深まり行く秋を訪ねる　2013.10.7.

毎年出かける西神戸・東播磨　秋景色

1. 加古川東岸の山裾に広がる志方のコスモス畑　　志方町高畑・広尾・野尻のコスモス畑
2. 実りの秋の収穫　播州の秋のすばらしい景色　　加古川西岸　志方町　＆ 上荘町で
3. 小野市鴨池の秋　　小野市鴨池
4. 西神戸神出の田園地帯の夕暮れ　日没　　神戸市西区神出
5. グリーンスタジアム神戸　夏の終わりをつける花火ナイト　　神戸市西区総合運動公園

1.　加古川東岸の山裾に広がる志方のコスモス畑　　2013.10.7.

例年　志方や来住野の傾斜地で　コスモスに先立って咲く蕎麦の白い花が今夏の数回にわたるゲリラ集中豪雨で、まったくだめ。コスモスも咲くのが気になって、　早めに休耕田に広がる志方町高畑・広尾・野尻各地区のコスモス畑　訪れました。

時期的には ちょっと早かったのですが、今年も野原一面をピンクに染めるコスモスに出会えました

また、コスモスの花の蜜を一心に吸うミツバチにも・・・・・

城山をバックに志方町の中央の田園に広がる高畑のコスモス畑　2013.10.7.

コスモスの花の蜜を吸うミツバチ　2013.10.7.

志方町野尻のコスモス畑で　　2013.10.7.

この野尻の休耕田では蕎麦の栽培が盛んなのですが、3 回やり直したが、みな雨にやられたと

でも、残った蕎麦で今年も蕎麦祭をやると元気でした

2.　実りの秋の収穫　播州の秋のすばらしい景色　　加古川西岸　志方町 & 上荘町で

赤く色づき始めた里山をバックに黄金に輝く稲穂の海
祭の幟子が遠く聞こえる田園地帯では刈り取りが始まりました

毎年　変わらぬ風景　でも出会わないとおちつかない
ゆったりとした時間を味わえる取って置きの景色です

加古川の東岸上荘町　上荘橋周辺に飾り付けられた祭の花飾り　2013.10.7.

残念ながら平日の午後　稲穂の中を行く播州の秋の風物詩　祭の飾り屋台には出会えませんでした

刈り取りが始まった志方町野尻の棚田 &　どこまでも続く黄金の波　加古川の西岸上荘町見土呂の田園地帯

播州平野は今黄金の海　夕刻陽が傾き始めるとコントラストがついて　美しく輝く

集中豪雨はあったものの、今年も豊作と　　2013.10.7.

3.　小野市鴨池の秋　志方町野尻から中国道沿いの山間を東へ　2013.10.7.

静かな湖面に 色づきはじめた山々が映りこんで、ゆったりした時間が流れる　小野市鴨池の秋

志方町野尻の山裾では柿が実っていました　里の秋を感じさせてくれる柿　　志方町の尻　2013.10.7

4.　西神戸神出の田園地帯の夕暮れ　2013.10.7.日没

秋の夕暮れは　つるべ落とし　ゆったりした時間が流れ　赤く染めてゆく美しいひとときに見とれるのもしばしば

西神戸神出の夕暮れ　　2013.10.7.

5.　グリーンスタジアム神戸　夏の終わりをつける花火ナイト　2013.9.21.

まだ夕日が照りつけるスタンドの向こうの空には　入道雲なく秋の空

真っ暗になった夜　満月の月のそばに夏の終わりを告げる花火が上がりました

グリーンスタジアム神戸　夏の終わりをつける花火ナイト　　2013.9.21.

≪【写真アルバム】西神戸・東播磨に深まりゆく秋を訪ねる≫

加古川市志方町広尾 コスモス畑で 2013.10.7.

加古川市志方町広尾 コスモス畑で 2013.10.7.

加古川市志方町広尾 コスモス畑で 2013.10.7.

城山の東側に周って 中国縦貫道沿いの山間を東へ 志方町野尻に入る
ひょっとして 蕎麦の花とコスモスと一緒に見られるかもと 野尻へ 残念ながら蕎麦はだめでしたが・・・

志方町野尻 コスモス畑で 2013.10.7

志方町野尻 コスモス畑で 2013.10.7

コスモスの蜜を吸うミツバチ 2013.10.7
この野尻の休耕田では蕎麦の栽培が盛んなのですが、10月中旬過ぎた所、みな刈りとられたと
でも、残った蕎麦でも多少蕎麦はなりとと元気でした

志方町野尻 コスモス畑で 2013.10.7

野尻から鴨池への峠道で　野尻の棚田　2013.10.7.

野尻から鴨池への峠道で　野尻の棚田　2013.10.7.

黄金色の海　加古川の西岸　加古川市見土呂　2013.10.7.

加古川の土手には祭りの飾りが幾本も　上荘橋で 2013.10.7.

すっかり秋景色　小野市鴨池　2013.10.7.

4. 西神戸神社の住吉地区の夕暮れ 2013.10.7. 日没

5. グリーンスタジアム神戸 夏の終わりをつげる花火ナイト 2013.8.31.

2013.8.10. 明石二見町西二見 海水浴 夕焼け

写真アルバム 西神戸・東播磨に深まり行く秋を訪ねる 2013.10.7.

海辺に広がる西神戸・東播磨 秋景色

1.	加古川東神吉町 上荘 西方のコスモス畑	加古川東神吉町 上荘西方のコスモス畑
2.	秋の田舎の情景 稲刈り終わりの人の姿	加古川市西神吉 金方町 と 上荘町で
3.	小野市浄谷の秋	小野市浄谷
4.	西神戸神社の住吉地区の夕暮れ、日没	神戸市西区神出
5.	グリーンスタジアム神戸 夏の終わりをつげる花火ナイト	神戸市西区伊川谷町上津

実りの秋を迎え 田園では刈り終えられた稲株で一面まっ黄色に また休耕田にはコスモスが満開に 2013.10.7.東播磨 加古川西神吉の西方で

≪写真スライドのアルバム≫

松山・宇和島から　四万十グリーンライン・高知へ　四国の列車を楽しむ

風来坊 2013

13.

南四国の秋　一度やってみたかった鉄ちゃんの旅　2013.11.10.

11 月 10 日　松山で前日用事をすませ、神戸へ帰る道　一日雨の天気予報に　これはまたとないチャンスと松山・宇和島から四万十川沿いに窪川に出て高知へ四国の名物列車を乗り継いで、一日四国をめぐって　鉄ちゃんを楽しんできました。

四国にはアンパンマン列車をはじめ、色々な名物列車が走っている。

また、日本一の清流　四万十川を列車ではまだ遡ったことがない。

紅葉と清流にかかる沈下橋は　ぜひ目に納めておきたい景色である。

そして　もうひとつ　高知市内を走る土佐電鉄の路線がはりまや橋横で作る「ダイヤモンドクロス」もぜひ見たい。

松山朝 8 時 8 分発のアンパンマン列車特急「宇和島 5 号」に乗れば　宇和島から予土線で四万十川を眺めながら昼過ぎには高知につける。

地図をながめながら、何度かイメージしたコース　雨をいいことに今回はぜひこの鉄ちゃんをしようと。

【松山から高知へ　鉄ちゃんで車窓を楽しむ　2013. 11. 10. 】

- ◆ 松山伊予鉄　　美しいイルミネーション付路面電車　　伊予電鉄　松山市街線
- ◆ 松山→宇和島　アンパンマン列車　特急 宇和海　　JR 予讃線
- ◆ 宇和島→窪川　海洋堂ホビートレイン　　JR 予土線・土佐くろしお鉄道線

《四万十川沿い　シマントグリーンライン》

- ● 狭い谷あいを蛇行して流れる清流　四万十川の秋景色
- ● 四万十川に架かる沈下橋
- ● 日本で一番暑い所　41℃を記録した四万十の里 江川崎

- ◆ 窪川→高知　　特急 あしずり　　JR 土讃線
- ◆ 高知土佐電鉄　はりまや橋　路面電車ダイヤモンドクロス　　土佐電鉄高知市街線

◆ 松山伊予鉄　　美しいイルミネーション付路面電車　　伊予電鉄　松山市街線

松山大街道付近を行くイルミネーションで飾られた路面電車　2013.11.9.　夜

JR 四国バス松山駅の営業所で「アンパンマン」バスの模型をもらう　2013.11.10.

◆ 松山　→　宇和島　アンパンマン列車　特急 宇和海　　JR 予讃線

2013.11.10.朝　松山駅を 8 時 8 分発アンパンマン列車　〈特急　宇和島 5 号〉で出発

特急宇和島が松山駅に入線 アンパンマン列車 先頭は どきんちゃん号 ラッキー 2013.11.10.朝 松山駅で

出発を待つ特急宇和海 2013.11.10. 松山駅で

アンパンマン列車入線 後尾は食パンマン号 2013.11.10.朝 松山駅で

≪ あんぱんまん列車の車内 ≫

アンパンマン列車 特急宇和海に乗り込む 2013.11.10. 松山駅で

車窓に宇和の海がみえだし、まもなく宇和島である　2013.11.10.

特急宇和海が`アンパンマンのアナウスに送られながら終着駅宇和島駅に滑り込む　2013.11.10.

ホームの南端へ回り込むと　下車した特急宇和海の左隣のホームにこれから乗車する予土線「窪川」行の列車がみえる
この列車にもデコレーションがほどかされている　　**2013.11.10.　宇和島駅で**

宇和島から四万十グリーンライン予土線を高知県「窪川」に向かう列車は怪獣やフィギュアの絵でデコレーションされた「海洋堂ホビートレ」そうだ　四万十川沿いのこの路線には怪獣などのフィギュアで有名な海洋堂博物館がある。
それが「ホビートレイン」となって、清流四万十川沿いを走っている胸わくわくの出会いである

2013.11.10.　宇和島駅で

◆ 宇和島→窪川　海洋堂ホビートレイン　　JR 予土線・土佐くろしお鉄道線

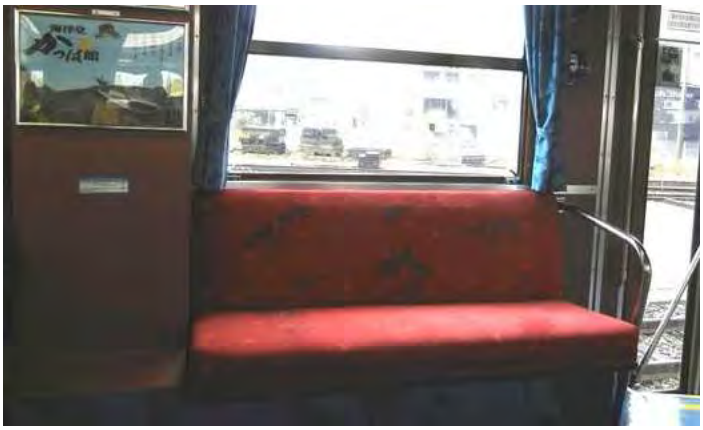
宇和島→窪川　　予土線・土佐 くろしお 鉄道線を走る　海洋堂ホビートレイン　　2013. 11. 10.

《四万十川沿い　シマントグリーンライン》

- 狭い谷あいを蛇行して流れる清流　四万十川の秋景色
- 四万十川に架かる沈下橋
- 日本で一番暑い所　41℃を記録した四万十の里 江川崎

宇和島-窪川　四万十川沿いを走る「海洋堂ホビートレイン」の内部

この路線には怪獣などのフィギュアで有名な海洋堂博物館がある



<< 四万十グリーンライン JR 予土線 >>

この JR 予土線江川崎駅のすぐ東で　四国山地の狭い谷間を幾度も蛇行しながら東西から流れてきた
清流四万十川の上流が合流して、流れを南へ変え、太平洋へ向かって流れ下ってゆく。
またこの JR 予土線江川崎駅周辺は　41℃の日本最高温度を記録した地点としても有名になった

江川崎を出ると四万十川の本流は蛇行を重ね、沈下橋が次づとあらわれてくる　四万十グリーンラインのハイライト

四万十川にかかる沈下橋　長生橋　遠望　　江川崎/半家駅間で　2013.11.10.

四万十川にかかる沈下橋　中半家橋　　JR 半家駅周辺

半家駅/十川駅間半家バイパス鉄橋 2013.11.10.

11 月 10 日というのに　四万十の紅葉はまだ、もうひとつ

暴れ川四万十　　一瞬にしての水位上昇に備え、　道路も鉄道そして集落もすべて

四万十川からは狭い谷あいの高い位置にあり、沈下橋も昔からの生活の知恵なのだろう

海洋堂博物館へゆく最寄駅　打井川駅より　2013.11.10.
こんな山中に…と思うのですが、マニアぽい人が数人下車

打井川駅を出ると川はまた大きく北へ蛇行　列車はまっすぐトンネルでこの蛇行を抜けてゆく
トンネルを抜けると広い盆地に出てまた蛇行し、四万十川は盆地の中を北へ遡る
四万十川と別れ、列車はそのまま幾重にも重なった山合いを東へぬけ、
西の太平洋岸宿毛・足摺・中村からの土佐くろしお鉄道の線路と合わさると終着窪川はもうまじかである

窪川駅での待ち時間　ふっと「高知へ帰って　音信が途絶えている仲間が　この周辺だった」と思いだして
携帯をみると約 10 年前大阪時代の番号が残っている。 半信半疑でかけてみると懐かしい声が返ってきました。
またの再会を約して電話を切る　　音信が取れなかった仲間とまたつながってうれしい

◆ **窪川→高知　　特急 あしずり　　JR 土讃線**

久しぶりの高知駅　こんなにきれいになっているのだと・・・・・・　2013.11.10.

◆ 高知土佐電鉄　はりまや橋　路面電車ダイヤモンドクロス　土佐電鉄高知市街線

ダイヤモンドクロスを路面電車が渡っていく【1】　2013.11.10.

ダイヤモンドクロスを路面電車が渡っていく【2】　2013.11.10.

ダイヤモンドクロスを路面電車が渡っていく【3】　2013.11.10.

一日四国の列車に乗って鉄ちゃんを
楽しみました　2013.11.10.
松山路面電車
アンパンマン列車
特急　宇和海
四万十グリーンライン
特急 あしずり
海洋堂ホビートレイン
高知路面電車

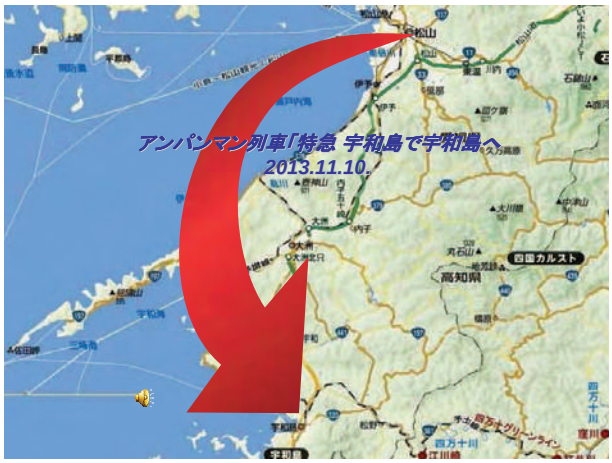
松山・宇和島から四万十グリーンライン・高知へ　四国の列車を楽しむ
◆松山伊予鉄　　美しいイルミネーション付路面電車
◆ 松山→宇和島　アンパンマン列車　特急 宇和海
◆ 宇和島→窪川　海洋堂ホビートレイン
《四万十川沿い　シマントグリーンライン》
● 狭い谷あいを蛇行して流れる清流　四万十川の秋景色
● 四万十川に架かる沈下橋
● 日本で一番暑い所　41℃を記録した四万十の里 江川崎
◆ 窪川→高知　　特急あしずり
◆ 高知土佐電鉄　はりまや橋　路面電車ダイヤモンドクロス
おしまい

松山大街道付近を行くイルミネーションで飾られた路面電車　2013.11.9.

松山大街道付近を行くイルミネーションで飾られた路面電車　2013.11.9.

松山・宇和島から四万十グリーンライン・高知へ 四国の列車を楽しむ

JR四国バス松山駅の営業所で「アンパンマン」バスの模型をもらう　2013.11.10.



2013.11.10.朝　細かい霧雨の松山駅

アンパンマン列車　2013.11.10.　宇和島駅で

特急宇和島が松山駅に入線　アンパンマン列車　先頭は　どきんちゃん号
ラッキー　2013.11.10.朝　松山駅で

アンパンマン列車　どきんちゃん号入線　　ラッキー　2013.11.10.朝　松山駅で

アンパンマン列車　入線　　2013.11.10.朝　松山駅で

アンパンマン列車入線　　後尾は食パンマン号　2013.11.10.朝　松山駅で

出発を待つ特急宇和海　2013.11.10.　松山駅で

アンパンマン列車　特急宇和海に乗り込む　2013.11.10.　松山駅で

車窓に大洲のお城が見えている　2011.11.10.　宇和海車窓　　大洲付近

山の斜面一面に広がるミカン畑が見えはじめると宇和島は近い
2011.11.10.　宇和海車窓　　宇和島付近

車窓に宇和の海がみえだし、まもなく宇和島である　2013.11.10.

特急宇和海が"アンパンマンのアナウスに送られながら終着駅宇和島駅に滑り込む　2013.11.10.

特急宇和海が"アンパンマンのアナウスに送られながら終着駅宇和島駅に滑り込む 2013.11.10.

ホームの南端へ回り込むと・下車した特急宇和海の左隣のホームにこれから乗車する
予土線「窪川」行の列車がみえる。この列車にもデコレーションが施されている
2013.11.10. 宇和島駅で

アンパンマン列車 2013.11.10. 宇和島駅で

海洋堂のショウウインドウがある車内
2013.11.10.　ホビートレインで

宇和島を出発した列車が東へ急な山間を駆け、台地に上ると列車は台地を県境を越えて東へ流れ下って
四万十川本流へ合流する広見川沿いを走る

地図を見てビックリ。
台地の上に上ると宇和島に面する宇和島側への川はなし。 すべて高知県側へ流れ下る。
てっきり県境が分水界と思ってきましたが、宇和島のすぐ東に分水界が"あるのを　はじめて知りました。
分流といっても　四万十川のもう一つの本流である

愛媛県との県境近く　予土線　吉野生駅周辺を東へ流れ下る広見川　2013.11.10.
江川崎で東から流れてきた四万十川本流に合流する

しまんとグリーンライン

高知県との県境近く　東へ流れ下る四万十川の源流の一つ広見川
江川崎で東から流れてきた本流に合流する　県境近く　西ケ方駅周辺で　2013.11.10.

しまんとグリーンライン

高知県との県境近く　東へ流れ下る四万十川の源流の一つ　広見川
江川崎で東から流れてきた本流に合流する　西ケ方 / 江川崎駅周辺で　2013.11.10

しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン

県と西から流れてきた四万十の上流が合流して南へ流れ下る合流点近く　江川崎駅　2013.11.10.
ここから四万十川本流に沿って南へ下れば、太平洋岸の四万十市 田中村市 へ行く
また、この江川崎周辺は日本で一番高い温度41℃を記録した場所　列車はここで10分停車

江川崎駅前案内板

しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン　江川崎駅で10分間停車するホビートレイン　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　江川崎駅　2013.11.10.

しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン　四万十川にかかる沈下橋　遠望　江川崎/半家駅間で　2013.11.10.

四万十川の沈下橋　長生橋　江川崎/半家駅間で　201311.10.　しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン　四万十川の沈下橋 長生橋　江川崎/半家駅間で 201311.10.

しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン　四万十川の沈下橋 中半家橋　半家駅周辺　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　四万十川の沈下橋 中半家橋　半家駅周辺　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　四万十川の沈下橋 半家橋遠望　半家駅周辺　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　四万十川の沈下橋 半家橋遠望　半家駅周辺　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　四万十川の沈下橋　半家橋　半家駅近傍 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　半家駅/十川駅間半家バイパス鉄橋 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　予土線鉄橋のすぐ横　第一三島橋　土佐昭和駅周辺 201311.10.

しまんとグリーンライン　新谷橋・芽吹手沈下橋　遠望　土佐昭和駅周辺 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　新谷橋・芽吹手沈下橋　遠望　土佐昭和駅周辺 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　新谷橋・芽吹手沈下橋　遠望　土佐昭和駅周辺 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　新谷橋・芽吹手沈下橋　土佐昭和駅周辺 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　土佐昭和/土佐大正間　対岸の道路も高い位置にある 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　土佐昭和/土佐大正間　対岸の道路も高い位置にある 2013.11.10.

しまんとグリーンライン　土佐昭和/土佐大正間　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　土佐大正駅周辺　2013.11.10.

しまんとグリーンライン　海洋堂博物館へゆく最寄駅　打井川駅より　2013.11.10.

打井川駅を出ると川はまた大きく北へ蛇行　列車はまっすぐトンネルで山を抜けてゆく
2013.11.10.

しまんとグリーンライン

しまんとグリーンライン

家地川駅周辺は広い盆地状の平地で、四万十川は北へ蛇行し、列車はそのままま
すぐ東の山中に入り、トンネルで窪川へ抜けてゆく　2013.11.10.

しまんとグリーンライン

四万十川と別れ、長いトンネルをくぐり抜けると窪川駅はもうまじか　2013.11.10.

宇和島発9時38分　窪川着11時47分
地図を眺めると川の蛇行ぶりがすごい　清
流　四万十川沿いを2時間かけて走り抜けました
ホームを変えて　高知行きの特急「あしずり」で、高知
に向かう

しまんとグリーンライン

窪川駅での待ち時間　ふっと　高知へ帰って　音信が途絶えている
仲間がこの周辺だったと思いだして
携帯をみると約10年前大阪時代の番号が残っている。
半信半疑でかけてみると懐かしい声が返ってきました。
またの再会を約して電話を切る
音信が取れなかった仲間とまたつながってうれしい

しまんとグリーンライン　窪川駅　併設されている土佐くろしお鉄道　足摺行の列車　2013.11.10.

仁淀川の鉄橋を渡るとまもなく高知である　2013.11.10.

高知駅に立つ幕末土佐の英雄　高知13.11.10.

久しぶりの高知駅　こんなにきれいになっているのだと　2013.11.10.

高知で一番行きたい場所
土佐電　はりまや橋横のダイヤモンドクロス
それを見にゆく　2013.11.10.
高知駅前　土佐電鉄　路面電車

高知駅前　土佐電鉄路面電車乗り場　2013.11.10.

駅前からまっすぐ南へ延びる通りをはりまや橋へ　2013.11.10.

はりまや橋のモニュメント　　こ
の交差点には有名な土佐電鉄のダイヤモンドクロスか゛ある　2013.11.10.

はりまや橋交差点のダイヤモンドクロス
土佐電鉄の路面電車が平面で十字交差する　2013.11.10.

路面電車がダイヤモンドクロスを渡ってゆく【1】

路面電車がダイヤモンドクロスを渡ってゆく【2】

路面電車がダイヤモンドクロスを渡ってゆく【3】

路面電車がダイヤモンドクロスを渡ってゆく【4】

はりまや橋　ダイヤモンドクロス【3】

はりまや橋ダイヤモンドクロス【2-1】　2013.11.10.

はりまや橋ダイヤモンドクロス【2-2】　2013.11.10.

はりまや橋ダイヤモンドクロス【2-3】　2013.11.10.

はりまや橋　ダイヤモンドクロス【3】

はりまや橋　ダイヤモンドクロス【3】

はりまや橋　ダイヤモンドクロス【3】

はりまや橋 2013.11.10.

一日四国の列車に乗って鉄ちゃんを
楽しみました 2013.11.10.
松山路面電車
アンパンマン列車
特急 宇和海
四万十グリーンライン
特急 あしずり
海洋堂ホビートレイン
高知路面電車

松山・宇和島から四万十グリーンライン・高知へ 四国の列車を楽しむ
◆松山伊予鉄 美しいイルミネーション付路面電車
◆ 松山→宇和島 アンパンマン列車 特急 宇和海
◆ 宇和島→窪川 海洋堂ホビートレイン
《四万十川沿い シマントグリーンライン》
● 狭い谷あいを蛇行して流れる清流 四万十川の秋景色
● 四万十川に架かる沈下橋
● 日本で一番暑い所 41℃を記録した四万十の里 江川崎
◆ 窪川→高知 特急 あしずり
◆ 高知土佐電鉄 はりまや橋 路面電車ダイヤモンドクロス
おしまい

一日四国の列車に乗って鉄ちゃんを
楽しみました 2013.11.10.
松山路面電車
アンパンマン列車
特急 宇和海
四万十グリーンライン
特急 あしずり
海洋堂ホビートレイン
高知路面電車